

鐵道信號規程

一七六

腕ノ位置又夜間ハ燈色ヲ以テ左ノ法式ニ依リ  
之ヲ現示スヘシ

一場内信號

危害信號(列車停止スヘシ)

晝間 腕ノ位置水平

夜間 赤色燈

無難信號(列車進行スヘシ)

晝間 腕ノ位置下向四十五度

夜間 綠色燈

二 遠方信號

危害信號(列車徐行シ必要ニ應シ停止  
スヘシ)

晝間 腕ノ位置水平

夜間 橙黃色燈

無難信號(列車進行スヘシ)

晝間 腕ノ位置下向四十五度

夜間 綠色燈

三 出發信號及側線信號

場内信號ノ法式ニ同シ

第七條ニ規定スルモノノ外特種ノ常置信號ヲ  
設クル場合ニハ其ノ方式ハ監督官廳ノ認可ヲ  
得テ之ヲ定ムルコトヲ要ス

第十條 常置信號機ノ腕ハ長方形トシ其ノ表面  
ヲ赤色、背面ヲ白色トシ腕端ニ近ク表面ニハ  
白色線、背面ニハ黑色線ヲ豎ニ畫スヘシ但シ  
遠方信號機ニ限リ腕端ヲ矢筈形ニ切ルヘシ  
前條第二項ニ規定スル特種ノ常置信號ニ在リ  
テハ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第十一條 常置信號機ノ燈カ何色ヲ示スヤチ後

方ヨリ判別スル必要アルトキハ左ノ背面光ヲ

現示スヘシ

赤色燈又ハ橙黃色燈ノ背面 大ナル白光

綠色燈ノ背面 小ナル白光

第十二條 出發信號機及側線信號機ハ圓板信號

機ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得此ノ場合ニ於

ケル信號ハ左ノ法式ニ依ルヘシ

危害信號(列車停止スヘシ)

晝間 圓板正面ニ向フ

夜間 赤色燈

無難信號(列車進行スヘシ)

晝間 圓板側面ニ向フ

夜間 綠色燈

鐵道信號規程

前項ノ圓板ハ其ノ表面ヲ赤色、背面ヲ白色ト  
スヘシ

第三章 停車場外線路ノ信號

第十三條 列車ノ停止若ハ徐行ヲ要スル區域ノ

兩端ニハ左ノ法式ニ依リ信號ヲ現示スヘシ

危害信號(列車停止スヘシ)

晝間 赤色圓板正面ニ向フ

夜間 赤色燈

注意信號(列車徐行スヘシ)

晝間 綠色圓板正面ニ向フ

夜間 表面綠色、背面白色燈

前項ノ圓板ハ其ノ背面ヲ白色トスヘシ

第四章 轉轍標識

第十四條 轉轍標識ハ尖端軌條ト聯動シ之ヲ前

一七七

鐵道信號規程

方又ハ後方ヨリ見ルモ晝間ハ標夜間ハ燈ノ表  
示ニ依リ轉轍器方何レノ方向ニ開キ又如何ナ  
ル状態ニ在ルヤヲ容易ニ了解シ得ル裝置タル  
コトヲ要ス但シ標及燈ニ赤色及綠色ヲ用フヘ  
カラス

第五章 手合圖

第十五條 信號機ヲ設ケサル場所若ハ之ヲ用フ  
ルコト能ハサル場合ニ於テ列車ニ向ヒ危害又  
ハ注意ヲ現示セムトスルトキハ左ノ法式ニ依  
リ手合圖ヲ爲スヘシ

危害信號(列車停止スヘシ)

晝間 赤色旗ヲ現示スルヲ定則トシ已  
ムヲ得サル場合ニハ兩腕ヲ高ク  
舉ケ之ニ代フ

夜間 赤色燈

注意信號(列車徐行スヘシ)

晝間 綠色旗ヲ現示スルヲ定則トシ已

ムヲ得サル場合ニハ片腕ヲ高ク

舉ケ之ニ代フ

夜間 綠色燈

第十六條 何色ノ燈ニテモ又如何ナル物體ニテ  
モ之ヲ急激ニ振り回ハストキハ危害信號ヲ示  
スモノトス

第十七條 故障ノ爲列車途中ニ停止シ又ハ事故  
若ハ必要ニ因リ一時線路ヲ閉鎖スル場合ニ於  
テハ其ノ場所ヨリ單線ニ在リテハ前後各四分  
ノ三哩以上、複線ニ在リテハ後方同距離以上  
ニ於テ第十九條ニ規定スル發雷信號ニ伴ヒ第

十五條ノ危害信號ヲ現示スヘシ但シ四分ノ三  
哩以內ニ停車場、聯絡所若ハ信號所アリテ之  
ニ通知シタルトキハ該方面ニ對シ本條信號ノ  
現示ヲ要セス

第六章 發雷信號

第十八條 發雷信號ハ他ノ信號ノ現示シアルコ  
トヲ警告スルノ用ニ供スルモノトス  
發雷信號ハ相互約四十呎以上ヲ隔テ雷管二箇  
以上ヲ軌條上ニ附著スヘシ

第十九條 第十七條ノ場合ニ於テハ晴雨晝夜ヲ  
論セス同條ニ規定セル危害信號現示ノ場所ニ  
發雷信號ヲ裝置スヘシ

第二十條 發雷信號アリシトキ之ニ伴ヒ他ニ何  
等信號ノ現示ナキハ危害信號ト見做スヘキモ  
鐵道信號規程

ノトス

第七章 車輛入レ換合圖

第二十一條 停車場ニ於テ機關車ヲ以テ車輛ノ  
入レ換ヲ爲ストキハ左ノ法式ニ依リ合圖ヲ爲  
スヘシ

一 牽引セヨ

晝間 綠色旗ヲ上下ニ振ルヲ定則トシ

已ムヲ得サル場合ニハ片腕ヲ上

下ニ動カシ之ニ代フ

夜間 綠色燈ヲ上下ニ動カス

二 推進セヨ

晝間 綠色旗ヲ左右ニ振ルヲ定則トシ

已ムヲ得サル場合ニハ片腕ヲ左

右ニ動カシ之ニ代フ

鐵道信號規程

三 停止セヨ  
夜間 綠色燈ヲ左右ニ動カス

晝間 赤色旗ヲ現示スルヲ定則トシ已  
ムヲ得サル場合ニハ兩腕ヲ高ク  
擧ケ之ニ代フ

夜間 赤色燈ヲ現示ス

第二十二條 車輛ヲ聯結セサル機關車ニ對シテ  
ハ左ノ法式ニ依リ合圖ヲ爲スヘシ但シ前進ト  
退却トハ機關車前後部ノ別ニ依リ之ヲ定ム

前進セヨ 前條牽引ノ法式ニ同シ  
退却セヨ 前條推進ノ法式ニ同シ  
停止セヨ 前條停止ノ法式ニ同シ

第八章 列車乗務員ノ合圖

第二十三條 列車出發ノ際車掌ハ機關手ニ向ヒ

ストキ 適度ノ汽笛 一聲

二 制動機ノ緊締ヲ車掌へ促ストキ

三 制動機ノ緩解ヲ車掌へ促ストキ

四 列車ノ近ケルヲ停車場、聯絡所、信號所又  
ハ往來頻繁ナル踏切へ告クル必要アルト  
キ 長緩汽笛 一聲

五 保線係員ヲ招集スル必要アルトキ  
同 上 數聲

第九章 列車信號

第二十六條 列車ノ前部ニハ左ノ法式ニ依リ信  
號ヲ掲ケヘシ

單線

鐵道信號規程

左ノ法式ニ依リ合圖ヲ爲スヘシ

晝間 片腕ヲ水平ニ伸ヘ手笛ヲ長聲ニ吹  
ク

夜間 綠色燈ヲ高ク圓形ニ動カシツツ手  
笛ヲ長聲ニ吹ク

第二十四條 列車乗務員カ保線係員又ハ踏切番  
等ハ直ニ線路ヲ檢査スヘキ旨ヲ通告スル必  
要アルトキハ左ノ法式ニ依リ合圖ヲ爲スヘ  
シ

晝間 帽又ハ或ル物體ヲ緩ニ振ル  
夜間 燈ヲ緩ニ振ル

第二十五條 機關手ハ左ノ法式ニ依リ汽笛合圖  
ヲ爲スヘシ

一 機關車運轉ヲ始ムルトキ其他ノ注意ヲ促

一 通常列車

晝間 別ニ信號ヲ掲ケス

夜間 機關車前部緩衝梁ノ右側ニ赤色  
燈各一箇

二 臨時列車

晝間 機關車煙箱ノ上ニ赤色圓板一箇

夜間 機關車前部緩衝梁ノ兩側ニ赤色  
燈各一箇

複線

一 通常列車

晝間 別ニ信號ヲ掲ケス

夜間 機關車前部緩衝梁ノ右側ニ綠色  
燈一箇

二 臨時列車

鐵道信號規程

晝間 機關車煙箱ノ上ニ綠色圓板一箇  
夜間 機關車前部緩衝梁ノ兩側ニ綠色  
燈各一箇

三 反對ノ方向ニ運轉スル列車

單線ニ於ケル臨時列車ノ法式ニ同ク  
前項信號ノ外總テ機關車煙箱ノ上ニハ夜間白  
色燈ヲ點スヘシ

第二十七條 機關車ヲ逆向シ列車ヲ牽引スルト  
キ及推進列車ノ場合ニ於テハ前條ニ規定スル  
前號及點燈ハ總テ列車前部ノ相當位置ニ掲ク  
ヘキモノトス

第二十八條 列車ノ後部ニハ左ノ法式ニ依リ信  
號ヲ掲クヘシ

一 通常及臨時列車

後方ハ赤色ヲ示ス燈各一箇ト補  
助機關車後部緩衝梁ノ左側ニ赤  
色燈一箇

三 同上列車推進ノトキ

晝間 機關車後部緩衝梁ノ左側ニ赤色  
圓板一箇ト別ニ前部緩急車ノ兩  
側ニ後方ハ白色ヲ示ス圓板各一  
箇

夜間 機關車後部緩衝梁ノ左側ニ赤色  
燈一箇ト別ニ前部緩急車ノ兩側  
ニ後方ハ白色ヲ示ス燈各一箇

四 單行機關車ノ場合

晝間 機關車ノ後部緩衝梁ノ左側ニ赤  
色圓板一箇

鐵道信號規程

晝間 後部緩急車ノ兩側ニ前方ハ白色  
後方ハ赤色ヲ示ス圓板各一箇ト  
後部緩衝梁ノ左側ニ赤色圓板一  
箇

夜間 後部緩急車ノ兩側ニ前方ハ白色  
後方ハ赤色ヲ示ス燈各一箇ト後  
部緩衝梁ノ左側ニ赤色燈一箇

二 同上列車ノ後部ニ補助機關車ヲ附スルト  
キ

晝間 後部緩急車ノ兩側ニ前方ハ白色  
後方ハ赤色ヲ示ス圓板各一箇ト  
補助機關車後部緩衝梁ノ左側ニ  
赤色圓板一箇

夜間 後部緩急車ノ兩側ニ前方ハ白色  
後部緩急車ノ兩側ニ前方ハ白色

夜間 機關車ノ後部緩衝梁ノ左側ニ赤  
色燈一箇

無蓋緩急車ニ在リテハ其兩側ニ掲クヘキ圓板  
及燈ヲ省略スルコトヲ得

第二十九條 臨時列車ノ出發アルトキハ之ニ先  
シ同方向ニ運轉スル列車ノ後部ニハ前條ニ規  
定スル信號ノ外左ノ信號ヲ掲クヘシ

晝間 緩衝梁ノ右側ニ赤色圓板一箇

夜間 緩衝梁ノ右側ニ赤色燈一箇

第三十條 第二十八條及第二十九條ノ場合ニ  
於テ晝間ハ同色ノ燈ヲ以テ圓板ニ代用スルコ  
トヲ得

前項代用燈ニハ夜間信號ノ法式ニ依ルヘキ場  
合ノ外晝間點火ヲ要セス

鐵道運輸規程

一八四

第三十一條 停車場ニ於ケル車輛入レ換用機關車ハ夜間前部緩衝梁ノ右側及後部緩衝梁ノ左側ニ赤色燈各一箇ヲ掲クヘシ

第三十二條 列車カ長半哩以上ノ隧道ヲ通過スルトキハ晝間ト雖モ夜間信號ヲ用フヘシ

第三十三條 夜間列車ノ一部ヲ停車場外線路ニ留置スルトキハ其ノ所在ヲ示ス爲少クトモ前部及後部ニ赤色燈各一箇ヲ掲クヘシ

附則

第三十四條 本規程ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

從來使用セル信號ニシテ本規程ニ低觸スルモノハ本規程施行ノ日ヨリ其ノ效ヲ失フ

第三十五條 特殊ノ設計ヲ必要トスル鐵道ニシ

テ本規程ニ依リ難キモノ及局部運送ノ用ニ供スル鐵道ニ在リテハ必要ニ依リ監督官廳ノ認可ヲ得テ本規程ヲ省略スルコトヲ得

○鐵道運輸規程

(明治三十三年八月十日)

遞信省令第三六號)

改正(四十二年)

閣令第四號)

第一章 總則

第一條 鐵道係員ハ運輸上ノ安全便益ヲ旨トシ

旅客及公衆ニ對シ懇切ニ其ノ職務ヲ行フヘシ

第二條 旅客及公衆ハ鐵道係員ノ職務上ノ指圖

ニ從フヘシ

第三條 鐵道ハ主要ナル停車場ニ申告簿ヲ備置

クコトヲ要ス

第四條 旅客貨物ノ取扱ニ關シ鐵道ノ處置ニ不

當ノ廉アリト認ムル者ハ前條ノ申告簿ニ記載シ抗告ヲ爲スコトヲ得

申告簿ニ依リ抗告ヲ爲ス者ハ事實ヲ詳記シ其ノ住所ヲ記シ署名スルコトヲ要ス

鐵道ハ氏名住所ヲ明示シタル抗告ニ付テハ遲滞ナク辯明ヲ與フヘシ

第五條 停車場ニハ見易キ場所ニ驛名ヲ明示シ其ノ他旅客ノ指導タルヘキ標示ヲ爲スヘシ

第六條 停車場ニハ旅客及貨物ノ運賃表、列車時刻表其ノ他運輸上必要ナル諸表規則等ヲ備置クヘシ

第七條 停車場ニハ旅客及貨物ノ運送ニ必要ナル事項及鐵道ノ取締ニ關スル法令其ノ他ノ條項ヲ摘要シテ之ヲ揭示スヘシ

鐵道運輸規程

一八五

第八條 效用ヲ失ヒタル諸揭示類ハ即時ニ之ヲ撤去スヘシ

第九條 停車場ニハ時計ヲ備付ケ正確ニ時刻ヲ齊正スヘシ

第二章 旅客運送

第十條 停車場ニハ見易キ場所ニ當該停車場ヨリノ列車出發時刻及終著驛名並適宜連絡列車ノ終著驛名ヲ揭示スヘシ

第十一條 停車場ニハ當該線路ニ於ケル列車時刻表、運賃表及必要ニ應シ他ノ關係線路ニ於ケル時刻表及運賃表ノ摘要ヲ揭示スヘシ

前項ノ時刻表ニハ列車ニ聯結セル客車ノ等級種類ヲ表示スヘシ

第十二條 停車場ニハ見易キ場所ニ當該停車場

鐵道運輸規程

ヨリノ旅客運賃表ヲ揭示スヘシ

第十三條 四年未滿ノ小兒ハ無賃、滿四年以上十二年未滿ノ小兒ハ半賃金ヲ以テ運送スヘシ

第十四條 乘車券ニハ通用區間及期限、客車ノ等級、運賃額並ニ發行ノ日附ヲ記載スヘシ

特種及臨時發行ノ乘車券ニ在リテハ前項ノ記載事項ヲ省略スルコトヲ得

第十五條 停車場ニ於テハ少クモ列車ノ出發時刻十五分前ニ乘車券ノ賣出ヲ開始スヘシ交通頻繁ナル停車場ニ於テハ少クトモ一時間前ニ之ヲ開始スヘシ

出札ハ列車出發時刻五分前迄ハ之ヲ停止スルコトヲ得ス

改札口ハ同一分前迄ハ之ヲ閉鎖スルコトヲ得

ノ拂戻ヲ受ケ又ハ劣等車ニ乗換ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

改札後ト雖坐席ノ餘裕アルトキハ旅客ハ何時ニテモ運賃差額ヲ支拂ヒ優等車へ乗換ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第十八條 乘車券ハ其ノ通用區間中何レノ部分ニ付テモ之ヲ使用スルコトヲ得但シ特種ノ列車ニ付監督官廳ノ認可ヲ得テ別段ノ定ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ乘繼驛限定ノ效ヲ妨ケス

第十九條 天災事變其ノ他已ムテ得サル事由ニ因リ列車ノ運轉ヲ中斷シタルトキハ旅客ニ對シ相當ノ便宜ヲ與ヘ及保護ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ旅客ノ請求アルトキハ既ニ

鐵道運輸規程

ス

第十六條 鐵道ハ旅客ニ對シ運賃金額正算拂渡ヲ請求スルコトヲ得

第十七條 旅客ハ改札前ニ在リテハ其ノ買受ケタル乘車券ヲ他級ノ乘車券ト交換シ又ハ之ヲ返還シテ運賃ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得但シ運賃拂戻ノ請求ハ乘車券發行ノ當日ニ限ル

乘車券相當ノ坐席ナキ場合ニ於テ鐵道係員カ優等車ニ一時便乗ノ取扱ヲ爲ササル時ハ旅客ハ撰擇ニ依リ旅行ヲ止メ又ハ劣等車ニ移乘シテ運賃ノ全額又ハ差額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ直ニ鐵道係員ニ申告スルコトヲ要ス

前二項ノ場合ノ外旅客ハ乘車券ヲ返還シ運賃

通過セル線路ニ對スル運賃ヲ控除シ殘額ノ拂戻ヲ爲シ且出發停車場へ無賃送還スヘシ

第二十條 列車遲延ノ爲相當ノ時間中ニ接續スル列車ニ乘車スルコトヲ得サルトキハ連絡乘車券ヲ有スル旅客ニ限リ其ノ請求ニ因リ無賃ニテ出發停車場(途中下車セルトキハ其ノ最近下車停車場)ニ送還シ出發停車場ヨリノ運賃(途中下車セルトキハ其ノ最近下車停車場ト出發停車場トノ間ニ對スル運賃ヲ控除シ殘額)ヲ拂戻スヘシ但シ旅客カ次回ノ返リ列車ヲ以テ中斷ナク復歸スルトキニ限ル

第二十一條 旅客カ任意ニ劣等車ニ便乗シタルトキハ運賃差額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十二條 事故ノ爲列車發着ノ遲延、運轉ノ

鐵道運輸規程

中斷等アリタルトキハ關係停車場ニ遲滯ナク  
之カ揭示ヲ爲スヘシ

鐵道係員ハ鳴鈴其ノ他便宜ノ方法ニテ發車ノ  
注意ヲ與フヘシ

第二十三條 乗車券ヲ所持セス又ハ無効ノ乗車  
券ヲ以テ乗車シ若ハ檢査ノ際乗車券ノ呈示ヲ  
拒ミ又ハ取集ノ際之ヲ渡ササル旅客ニ對シ鐵  
道ハ普通運賃二倍以内ノ割増運賃ヲ請求スル  
コトヲ得

第二十五條 列車ハ揭示時刻表ニ示サレタル時  
刻前ニ出發セシムルコトヲ得ス  
揭示時刻表ニ掲ケタル列車ノ運轉ハ天災事變  
其ノ他已ムヲ得サル事由ニ基因シタル運送上  
ノ支障アルトキ若ハ之ヲ豫知シタルトキノ外  
休止スルコトヲ得ス

乗車券ヲ買受クルノ暇ナク鐵道係員ノ許諾ヲ  
得テ乗車シタル旅客ニ對シ鐵道ハ二十錢以内  
ノ増拂ヲ請求ス  
割増運賃又ハ増拂ノ支拂ヲ受ケタルトキハ之  
ニ對スル證券ヲ交付スヘシ

第二十六條 鐵道係員ハ旅客ノ請求アリタルト  
キハ坐席ヲ指定スヘシ  
必要ト認ムルトキハ旅客ノ請求ナキ場合ト雖  
坐席ノ指定ヲ爲スコトヲ得  
旅客乗車中坐席ヲ離レ特ニ之ヲ占置カサルト

第二十四條 列車出發時刻五分钟前ニ至ルトキハ

項ノ規定ニ依リテ延長セラルルコトナシ

キハ他人之ヲ占取スルモ異議ヲ述フルコトヲ  
得ス

第二十九條 旅客ハ同乗者ニ迷惑ヲ及ホス風體  
行爲スヘカラス

第二十七條 囚徒ヲ乗車セシムルトキハ普通旅  
客ト之ヲ區別スヘシ  
第二十八條 列車出發ノ合圖アリタル後ハ旅客  
ハ乗車スルコトヲ得ス

車扉ニ凭リ又ハ肢體ヲ車外ニ出タスヘカラス  
車内ノ器具、裝飾物ヲ汚損セサル様注意ヲ爲  
スヘシ  
燐寸ノ燃差、煙草ノ吸殻及唾等ヲ唾壺ノ外ニ  
投スヘカラス

出發時刻ニ後レタル爲發行當日限り通用ノ乗  
車券ノ效用ヲ失フニ至リタルトキハ其ノ翌日  
内ニ限り該乗車券ヲ以テ目的地ニ向ヒ發スル  
列車ニ乗車スルコトヲ得但シ乗後レノ際遲滯  
ナク其ノ乗車券ヲ鐵道係員ニ提出シ有効ノ證  
明ヲ受ケタルトキニ限ル

第三十條 途中客車ニ不足ヲ生シタルトキハ  
遲滯ナク之カ補充ノ準備ヲ爲スヘシ  
線路係員、通行人等ノ危險ヲ與フルノ虞アル  
物品ハ猥ニ之ヲ投棄スヘカラス

特ニ列車ヲ指定シタル乗車券ノ通用期限ハ前  
鐵道運輸規程

第三十一條 列車カ停車場ニ到着シタルトキハ

鐵道運輸規程

鐵道係員ハ停車場ノ名稱、乘換アルトキハ其ノ旨並停車場時間五分以上アルトキハ其ノ時間ヲ喚呼スヘシ

鐵道係員ハ停車場ニ下車スル旅客ノ爲速ニ車扉ヲ開クヘシ

列車力停車場外ニ於テ停止スルトキハ縱令長時間ニ涉ルト雖鐵道係員ノ許諾ヲ得ルニ非サレハ下車スルコトヲ得ス

第三十二條 三時間ニ少クトモ一回五分以上停車セサル列車ニハ各客車ニ便所ノ備アルコトヲ要ス

第三十三條 旅客自ラ携帯シ得ル物品ニシテ坐席ヲ塞カス且不潔、臭氣等ノ爲同乗者ニ迷惑

特種ノ列車ニ付テハ監督官廳ノ認可ヲ得テ手荷物ノ運送ヲ取扱ハサルコトヲ得

第三十七條 火藥類及危害ヲ他ニ及ホスヘキ虞アル物品、臭氣ノ發シ若ハ不潔ナル物品及容積重量過大ナル物品ハ手荷物トシテ託送スルコトヲ得ス

第三十八條 鐵道ハ旅客一人ニ付少クトモ三十斤迄ノ手荷物ヲ無賃ニテ運送スルノ便ヲ與フヘシ

半賃金ニテ運送スル小兒ノ無賃手荷物斤量ハ前記斤量ノ半ヲ以テ制限トス

割引乗車券ヲ以テ乘車スル旅客ノ手荷物ニ付テハ監督官廳ノ認可ヲ得テ前二項ノ規定ニ依

鐵道運輸規程

ヲ及ホササルモノハ客車内ニ持込ムコトヲ得前項ノ物品ニ對シテハ旅客自ラ保管ノ責ニ任スルモノトス

第三十四條 犬其ノ他ノ動物ハ客車内ニ携伴スルコトヲ得ス

第三十五條 携帯制限ヲ超ユル火藥及危害ヲ他ニ及ホスヘキ虞アル物品ハ客車内ニ持込ムコトヲ得ス

第三章 託送手荷物

第三十六條 旅客カ其ノ旅行ニ必要ナル物品ハ手荷物トシテ之ヲ託送スルコトヲ得但シ貨幣、有價證券其ノ他ノ高價品及動物ハ此ノ限ニ在ラス

ラサルコトヲ得

第三十九條 斤量ニ依リ運賃ヲ定メサル特定物品ハ小荷物トシテ託送ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ物品ニ付テハ鐵道ハ其ノ種類及運賃ヲ特定シテ監督官廳ノ認可ヲ得之ヲ停車場ニ掲示スルコトヲ要ス

第四十條 託送手荷物ハ物品ノ散逸セサル様鍔錠緊束シ紛ラハシキ他ノ運送標記等ヲ附著スヘカス

第四十一條 手荷物ヲ託送スル者ハ第十五條ニ規定スル乗車券賣出時間内ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ但シ列車出發時刻ヨリ少クトモ五分前ニ之カ手續ヲ爲ササルトキハ次回ノ列車ヲ以テ



鐵道運輸規程

運送セラルルモ故障ヲ述フルコトヲ得ス

第四十二條 手荷物ヲ託送スル者ハ其ノ乗車券  
ヲ鐵道係員ニ呈示スヘシ

第四十三條 手荷物ノ託送ヲ受ケタルトキハ引  
換ノ符票ヲ交付シ之ト引換ニ引渡ヲ爲スモノ  
トス

第四十四條 手荷物受取ノ際引換ノ符票ヲ所持  
セサルトキハ其ノ受取ルヘキ權利アルコトヲ  
證明シ又ハ相當擔保ヲ供スルニ非サレハ之カ  
引渡ヲ請求スルコトヲ得

第四十五條 託送手荷物ハ其ノ到達停車場ニ於  
テ之カ引渡ヲ爲スヘキモノトス但シ時間其ノ

他取扱ニ差支ナキトキハ旅客ノ請求ニ應ジ中  
間停車場ニ於テモ之カ引渡ヲ爲スヘシ

前項但書ノ場合ニ於テハ旅客ハ豫メ鐵道係員  
ニ乗車券ヲ呈示シ引渡ノ請求ヲ爲スヘシ  
第一項但書ノ場合ニ於テハ手荷物運賃ノ拂戻  
ヲ請求スルコトヲ得ス

第四十六條 第十九條及第二十條ノ場合ニ於テ  
旅客ヲ送還スルトキハ該旅客ノ託送セル手荷  
物ハ旅客ト共ニ之ヲ無賃送還スヘシ此ノ場合  
ニ於テ手荷物運賃ノ償還ハ旅客運賃ノ例ニ依  
ル

第四十七條 手荷物到達後二十四時間内ニ引取

ラサルトキハ保管料ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ保管料ハ監督官廳ノ認可ヲ得且運賃表  
ニ附記シテ停車場ニ揭示スルコトヲ要ス

第四十八條 鐵道ハ惡意又ハ重大ナル過失ニ因  
ラサル手荷物ノ滅失又ハ毀損ニ付テハ旅客一  
人ニ對シ價格百圓以内ニ限り損害賠償ノ責ニ  
任スルモノトス

第四十九條 紛失手荷物ニ對シ賠償ヲ爲シタル  
後豫メ請求アリタル場合ニ於テハ其ノ手荷物  
ヲ發見シタルトキ速ニ旅客ニ之ヲ通知スルコ  
トヲ要ス

前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ三十日以内ニ賠  
償金ヲ還付シ手荷物到達地又ハ託送地迄無料  
ニテ該手荷物ノ送付返還ヲ請求スルコトヲ得

鐵道運輸規程

旅客カ本條ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ賠償  
金額收ノ際書面ヲ以テ之カ豫告ヲ爲スコトヲ  
要ス

第四章 小荷物(小貨物)運送

第五十條 手荷物車ヲ以テ運送スルニ適スル貨  
物ハ小荷物トシテ旅客列車(混合列車亦同シ)  
以テ運送ノ便ヲ開クヘシ

第三十六條第二項ノ規定ハ小荷物ニ之ヲ準用  
ス

第五十一條 第三十九條ノ物品ハ旅客ノ請求ニ  
依リ旅客ト同一列車ヲ以テ運送スヘシ

第五十二條 行商人及呼賣商人ノ携帶スル商品  
ハ其ノ請求ニ因リ小荷物トシテ旅客ト同一列  
車ヲ以テ運送スヘシ

鐵道運輸規程

第五十三條 小荷物ヲ託送セントスル者ハ列車出發時刻ヨリ少クトモ二十分前迄ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ但シ第五十一條及第五十二條ノ小荷物ニ付テハ第四十一條ノ規定ヲ準用ス

第五十四條 第三十七條、第四十條、第四十三條及第四十四條ノ規定ハ小荷物ノ運送ニ之ヲ準用ス

第五十五條 第四十二條、第四十五條乃至第四十七條ノ規定ハ第五十一條及第五十二條ノ小荷物ニ之ヲ準用ス

第五十六條 小荷物ノ運送ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外第八章ノ規定ヲ準用ス

第五章 死體運送

第五十七條 死體ヲ託送セムトスル者ハ列車始

發停車場ニ於テハ其ノ出發時刻ヨリ少クトモ六時間前迄ニ、中間停車場ニ於テハ同時刻ヨリ少クトモ十二時間前迄ニ其ノ申込ヲ爲スヘシ

第五十八條 死體ハ堅固ナル棺槨ニ納メ密塞スヘシ

第五十九條 死體ヲ託送セムトスル者ハ死亡證書ヲ呈示シ且運送狀ニ其ノ寫ヲ添ヘ差出スヘシ

第六十條 死體ノ運送ニハ託送人ニ於テ附添人ヲ附スヘシ

第六十一條 死體ハ手荷物車又ハ蓋貨車ヲ以テ運送スルモノトス但シ特約ニ因リ特別車ヲ用

フル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六十二條 死體ハ他ノ荷物ト離隔搭載スヘシ  
 飲食物及其ノ原料等ハ死體ト同一車中ニ共載スルコトヲ得ス

第六十三條 死體搭載ノ車輛ハ託送人ノ請求アル場合ノ外旅客列車(混合列車亦同シ)ニ聯結スヘシ

死體ハ成ルヘク到達停車場迄直通スル列車ヲ以テ運送スヘシ又已ムヲ得サル場合ノ外運送中ニ之ヲ轉載スルコトヲ得ス

第六十四條 死體ハ到達後速ニ之ヲ引取ルヘシ若シ六時間内ニ引取ラサルトキハ鐵道ハ所轄警察署ニ届出ツヘシ

第六章 貴重品運送

鐵道運輸規程

第六十五條 金銀並貴金屬、紙幣、郵便切手、同葉書、印紙、有價證券、寶石等貴重品ノ運送ニ付請求スル増賃金ハ左ノ割合ヲ經過スヘカラス

一二十五哩未滿	價格金百(金百圓未)	金十錢
一二十五哩以上五十哩未滿	同	金十五錢
一五十哩以上百哩未滿	同	金二十錢
一一百哩以上二百哩未滿	同	金廿五錢
一二百哩以上ハニ	同	金五錢

百哩ヲ増ス毎ニ

前項ノ規定ニ準據シ増賃金ノ割合ヲ定ムルトキハ監督廳ニ届出ツヘシ

増賃金ハ停車場中見易キ場所ニ揭示スルコト

鐵道運輸規程

ヲ要ス

第六十六條 前條ニ明記シタル品目ノ外貴重品ノ品目ヲ定メムトスルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

貴重物ノ品目ハ停車場中見易キ所ニ揭示スヘシ

第六十七條 貴重品ハ嚴重ニ包裝封印シ列車出發時刻ヨリ少クトモ三十分前ニ託送ノ手續ヲ爲スヘシ

貴重品託送者ハ運送狀ヲ差出スヘシ

増賃金ノ支拂ニ對シテハ受領書ヲ交付スヘシ

第六十八條 貴重品ノ運送ハ特ニ定メタル列車ニ限ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ其ノ旨ヲ停車場ニ揭示スルコトヲ要ス

第六十九條 貴重品ノ運送ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外第八章ノ規定ヲ準用ス

第七章 動物運送

第七十條 手荷物車ヲ以テ運送スルニ適スル小動物ハ旅客列車(混合列車亦同シ)ヲ以テ運送ノ便ヲ開クヘシ

第七十一條 旅客ノ攜帶スル小動物ハ旅客ノ請求ニ因リ旅客ト同一列車ヲ以テ運送スヘシ

第七十二條 小動物ハ其ノ到達停車場ニ於テ即時ニ之カ引取ヲ爲スヘシ之カ引取ヲ爲ササルトキハ鐵道ハ之ヲ飼養スルノ義務ナシ

第七十三條 旅客ノ攜帶スル犬ヲ除ク外小動物ハ逸出ノ虞ナキ様箱、網若クハ箱等ニ納レ託送スヘシ

第七十四條 旅客列車(混合列車亦同シ)ニ依ル小動物ノ運送ニ付テハ前各條ニ定アル場合ヲ除ク外小荷物運送ニ關スル規定ヲ準用ス

第七十五條 鐵道ノ動物ノ運送ニ付附添人ヲ請求スルコトヲ得

附添人ノ乗車賃ハ下等旅客運賃ノ定額ヲ超過スルコトヲ得ス

附添人ハ動物ヲ監視シ驛長ノ認諾ヲ受クルニ非サレハ他車ニ轉乘スルコトヲ得ス

附添人ハ藁、枯草等燃ニ易キ物品アルトキハ喫煙具及發火シ易キ物品ヲ車中ニ攜帶スルコトヲ得ス

第七十六條 猛獸ヲ託送セシムル者ハ逸走其ノ他危害防止ノ爲充分ナル縛絆ヲ施スヘシ

鐵道運輸規程

第七十七條 動物ヲ託送セムトスル者ハ豫メ其ノ申込ヲ爲シ列車出發時刻ヨリ少クトモ一時間前迄ニ之ヲ停車場ニ送致スヘシ

鐵道カ動物運送列車ヲ定メテ公告シタルトキハ託送人ハ前項ノ申込ヲ爲スコトヲ要セス

第七十八條 動物ノ積卸ハ鐵道ノ請求アルトキハ送託人、受取人ニ於テ之ヲ擔當シ且之ニ要スル材料ヲ準備スヘシ

第七十九條 小動物ノ外動物ハ到達ノ通知ヲ受ケタル後速ニ之カ引取ヲ爲スヘシ之カ引取ヲ爲ササルトキハ鐵道ハ之ヲ飼養スルノ義務ナシ

第八十條 託送ノ際價格ヲ明告シ鐵道ノ請求ニ因リ増賃金ヲ支拂ヒタル場合ノ外鐵道ノ惡意

鐵道運輸規程

又ハ重大ナル過失ニ因ラサル獸類ノ紛失損傷ニ付テハ左ニ掲タル金額以内ニ限り賠償ヲ請求スルコトヲ得

一馬	一頭ニ付	金七十圓
一乳牛	同	金百圓
一牛	同	金三十圓
一犢	同	金十圓
一羊	同	金十圓
一豚	同	金五圓
一山羊	同	金十圓
一其ノ他ノ獸類	同	金五圓

第八十一條 託送ノ際明告セラレタル價格前條制限額ヲ超ユルトキハ鐵道ハ其ノ超過額ニ對シ左ニ掲クル割合以内ニ於テ増賃金ヲ請求ス

ルコトヲ得

一五十哩未滿	價格金十(金十圓未圓ニ付(滿亦同シ))	金十錢
一五十哩以上百哩未滿	同	金十五錢
一一百哩以上二百哩未滿	同	金二十錢
一二百哩以上ハニ	同	金五錢
一一百哩ヲ増ス毎ニ	同	金五錢

前項ノ規定ニ準據シ増賃金ヲ定ムルトキハ監督官廳ニ届出ツヘシ  
増賃金ハ停車場中見易キ場所ニ揭示スルコトヲ要ス

第八十二條 動物ノ運送ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外第八章ノ規定ヲ準用ス

第八章 大荷物(大貨物)運送

第八十三條 鐵道カ直ニ運送ヲ爲スコトヲ得サ

ル場合ニ於テ特約ヲ以テ發送迄保管ノ爲貨物ノ引渡ヲ受ケタルトキハ運送狀ニ特約ノ條件ヲ明記スルコトヲ要ス

荷送人ハ鐵道ノ承諾ヲ得テ停車場其ノ他ノ鐵道地内ニ自己ノ責任ヲ以テ發送迄一時貨物ヲ留置スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ鐵道ハ相當ノ留置料ヲ請求スルコトヲ得

第八十四條 貨物ヲ託送セムトスル者ハ貨物取扱時間内ニ運送狀ヲ添ヘ其手續ヲ爲スヘシ  
第八十五條 運送狀ニハ左ノ事項ヲ掲タルコトヲ要ス

- 一 運送狀作成ノ地及年月日
  - 二 發送停車場ノ名稱
  - 三 到達停車場及所屬鐵道名
- 鐵道運輸規程

四 届先、荷受人ノ氏名又ハ商號及住所

五 貨物ノ品名、重量又ハ容積及其ノ荷造ノ種類、箇數並記號

六 價格ヲ明告スヘキトキハ其ノ價格

七 運送便ノ種類

八 運賃ノ支拂方法

九 貨物引換請求ノ有無

十 特約ノ條件アルトキハ其ノ事項

十一 荷送人ノ氏名又ハ商號及住所

第八十六條 鐵道ハ運送狀ノ式紙ヲ停車場ニ備置キ荷送人ノ使用ニ供スヘシ

第八十七條 託送ノ際荷送人ノ請求アルトキハ鐵道ハ運送狀ノ謄本ヲ交付スヘシ此ノ場合ニ於テハ金五錢以内ノ手数料ヲ請求スルコトヲ

鐵道運輸規程

得

第八十八條 鐵道ハ貨物ノ運送ヲ引受ケタルトキハ運送狀ニ其ノ受付番號ヲ記入スヘシ  
第八十九條 貨物引換證ニハ左ノ事項ヲ掲ケタルコトヲ要ス

- 一 貨物引換證作成ノ地及年月日
  - 二 第八十五條第二號乃至第八號第十號及第十一號ニ掲ケタル事項
  - 三 第八十八條ノ受付番號
  - 四 運賃、増賃金、料金ノ額及其ノ受否
- 第九十條 荷送人ハ貨物ノ性質ニ依リ運送中ノ減量又ハ毀損ヲ防クニ必要ナル荷造ヲ爲スヘシ  
貨物ニハ各箇ニ箇數、記號、宛名等ヲ明瞭ニ其

二〇〇

ノ外面ニ標記シ他物ト取違ハサル様注意ヲ爲スヘシ且成ルヘク到達停車場名ヲ附記スヘシ  
第九十一條 貨主カ貨物ノ積卸ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ貨物取扱時間内ニ之ヲ爲スヘシ  
貸切貨車ニ付テハ鐵道ハ之カ準備ヲ爲シ積卸時間ヲ定メ貨主ニ通知スヘシ  
貨主カ前項ノ期間内積卸ヲ爲ササルトキハ其ノ遲滞ニ對シ鐵道ハ監督官廳ノ認可ヲ得タル車輛留置料ヲ請求スルコトヲ得  
第九十二條 一箇ノ重量五百斤以上若クハ其ノ才積三十才以上ノ貨物及二車以上ニ跨ル長ナル貨物ノ積卸ハ貨主ノ負擔トス  
第九十三條 貨主カ積卸ヲ負擔スル場合ニ於テ鐵道所屬ノ器具ヲ使用スルトキハ鐵道ハ監督

官廳ノ認可ヲ得タル料金ヲ請求スルコトヲ得

第九十四條 貨物ノ運賃其ノ他運送ノ爲受クル料金ハ鐵道ノ認諾アルトキノ外貨物託送ノ際ニ之ヲ支拂フヘシ  
運賃金額ヲ確定スルコトヲ得サルトキハ鐵道ハ概算拂ヲ請求スルコトヲ得  
第九十五條 錠鎖保護ヲ要シ又ハ雨浸ヲ避クルノ必要アルモノ若クハ火氣ニ感シ易キ物品ハ有蓋貨車ニ搭載スヘシ但シ特約アル場合ハ此ノ限ニ在ラス  
第九十六條 鐵道ハ無蓋貨車用ノ覆布綱ヲ準備スヘキモノトス其ノ使用ニ對シ料金ヲ請求スルコトヲ得ス但シ貨車貸切ノ場合ニ於テ特約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

鐵道運輸規程

二〇一

第九十七條 貨物カ到達停車場ニ到達シタルトキハ鐵道ハ直ニ到達ノ通知ヲ爲シ之カ引渡ノ準備ヲ爲スヘシ  
貨物カ停車場外ニ送達セラレヘキモノナルトキハ直ニ之カ配送ノ手續ヲ爲スヘシ  
貨物引取期間ノ懈怠ニ對シ保管料、留置料ヲ請求セムトスルトキハ鐵道ハ第一項ノ通知ニ其ノ旨ヲ明記シテ告知ヲ爲スコトヲ要ス  
第九十八條 貨物ハ其ノ到達ノ通知ヲ受ケタル後二十四時間内ニ引取ノ手續ヲ爲スヘキモノトス  
前項ノ期間内ニ引取ヲ爲ササルトキハ鐵道ハ保管料ヲ請求スルコトヲ得  
前項ノ保管料ハ監督官廳ノ認可ヲ得且運賃表

荷受人及荷送人ヲ確知スルコト能ハサル鐵道運送品等ノ公告ニ關スル件 二〇二

ニ附記シテ停車場ニ揭示スルコトヲ要ス  
荷受人カ荷卸ヲ爲スヘキ場合ニ於テ第一項ノ  
期間内ニ引取ヲ爲ササルトキハ鐵道ハ荷受人  
ノ費用ヲ以テ貨物ノ引渡前荷卸ヲ爲スコトヲ  
得

第九十九條 貨物ノ滅失又ハ毀損アルトキハ鐵  
道ハ速ニ調査ヲ遂ケ之ヲ書面ニ具シ荷送人荷  
受人ニ通知スヘシ

第一百條 貨物引換證ヲ交付シタル場合ニ於テ  
該證ノ紛失等ニ因リ之ト引換ニ貨物ノ引渡ヲ  
請求スルコトヲ得サルトキハ鐵道ハ引渡請求  
人ニ於テ其ノ權利ヲ證明シ又ハ相當ノ擔保ヲ  
供シタルトキニ限り貨物引渡ノ義務アルモノ  
トス

第一百一條 貨物引渡ノ際重量ノ検査若ハ貨物ノ  
狀態ニ付證明ヲ請求セラレタルトキハ鐵道ハ  
之ヲ拒ムコトヲ得ス  
第一百二條 第十九條ノ規定ハ貨物ノ運送ニ之ヲ  
準用ス

附則

第一百三條 本規程ハ鐵道營業法施行ノ日ヨリ之  
ヲ施行ス

第一百四條 鐵道カ外國ト連絡運輸ヲ爲ス場合ニ  
於テハ本規程ニ依ラサルコトヲ得但シ私設鐵  
道ニ在リテハ監督官廳ノ認可ヲ得ルコトヲ要  
ス

○荷受人及荷送人ヲ確知スルコト

ト能サル鐵道運送品等ノ公告

ニ關スル件 (明治四十三年五月一日)

第一條 鐵道營業法第十三條ノ二ノ規定ニ依リ  
荷受人及荷送人ヲ確知スルコト能ハサル運送  
品ニ付爲ス公告ハ運送品ノ名稱種類簡數記  
號、發送停車場到達停車場保管停車場ノ名稱  
及託送到達ノ日時等成ルヘク其ノ運送品ヲ知  
得スルニ足ルヘシト思料スル事項竝公告後六  
月内ニ其ノ權利者ノ申出ナキトキハ鐵道ニ於  
テ其ノ所有權ヲ取得スヘキ旨ヲ記シ三日以上  
之ヲ官報ニ掲載スルモノトス

第二條 鐵道ハ前條ノ公告ヲ爲ス前前條ト同一  
火藥類鐵道運送規程

ノ事項ヲ記シ發送停車場、到達停車場及保管  
停車場ニ少クトモ七日以上之ヲ揭示シ仍必要  
ト認ムルトキハ發送停車場、到達停車場及保  
管停車場所在地又ハ其ノ附近ニ於テ發行スル  
新聞紙ヲ以テ三日以上公告スルコトヲ要ス  
第三條 前二條ノ規定ハ鐵道營業法第十三條ノ  
二ニ規定スル託送手荷物及一時預リ品ニ之ヲ  
準用ス

○火藥類鐵道運送規程

(明治三十四年五月二十四日)  
(遞信省令第二六號)  
改正 (三十六年遞信省令第一號、第三七號、  
三十九年同第五九號、四十二號關令第  
一號、四十三年)  
關令第一號

火藥運送規程

第一條 鐵道ニ依リ火藥類ヲ運送スルトキハ本規程ヲ遵守スヘシ

第二條 火藥類ノ荷送人カ銃砲火藥類取締ニ關スル法令ニ依リ當該官廳ノ運搬許可證ヲ受クヘキ合場ニ於テハ鐵道係員ハ其許可證ヲ檢閱スヘシ

第三條 火藥類ノ荷送人ハ少クトモ四十八時間前ニ發送停車場ニ託送ヲ申込ミ承諾ヲ求ムヘシ

第四條 火藥類ハ銃砲火藥類取締ニ關スル法令ノ規定ニ依リ容器ニ收納スヘシ

但シ軍衙ノ託送ニ係ルモノハ當該軍衙所定ノ容器ニ收納スルコトヲ得

前項ノ火藥類ハ其ノ容器ノ外部見易キ所ニ火

藥ト標記スヘシ

第五條 火藥類ノ受授ハ專務ノ鐵道係員ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス  
火藥類ノ持込ミハ鐵道係員ヨリ特定シタル時日ニ限ル

第六條 一車以上ノ火藥類ノ運送ヲ引受ケタルトキハ荷送人ニ對シ附添人ヲ要求スルコトヲ得附添人ハ火藥類積載ノ貨車ニ乗込ムコトヲ得ス

附添人ノ乗車賃ハ下等旅客運賃ノ定額ヲ超過スルコトヲ得ス

第七條 無蓋貨車ハ火藥類ノ運送ノ用ニ供スルコトヲ得ス有蓋貨車ト雖モ其ノ内部ニ鐵製ノ釘又ハ蓋旋等ノ突起スルモノ亦同シ

第八條 銃砲火藥類取締ニ關スル法令ニ依リ別所ニ藏置スルコトヲ要スル火藥類ハ一車中ニ之ヲ混載スルコトヲ得ス

銃砲火藥類取締ニ關スル法令ニ依リ離隔ヲ要スル火藥類ヲ一車中ニ積載スルトキハ之ヲ離隔スヘシ

第九條 火藥類積載ノ重量ハ貨車積載定量ノ三分ノ二ヲ超過スルコトヲ得ス又其ノ重量ハ一車四噸以下ニ限ル

第十條 火藥類ハ左ノ事項ヲ具備スル場合ノ外之ヲ他ノ貨車ト同一車中ニ混載スルコトヲ得ス

- 一 小銃用安全彈藥筒、雷管若クハ爆管ノミヲ装着セル銃砲ノ空藥莢、安全導火火藥運送規程

- 線信管、門管起爆筒ヲ附セサル黃色藥湯藥（箱内ノ火藥ヲ十分濕潤ノ上箱ヲ密閉シ該箱ニ濕藥ト明記シタルモノ）及五十斤以下ノ火藥（ダイナマイト）綿火藥等劇發火藥類ヲ除ク）ニシテ其シ包裝ヲ安全堅牢ナラシメ且外部見易キ所ニ火藥ヲ明記シタルトキ但シ火藥ハ黃色藥ト混載スルコトヲ得ス
- 二、混載貨物カ容易ニ燃燒シ又ニ爆發ノ誘因トナルヘキ炭ナキモノナルトキ
- 三、火藥類及混載貨物ノ重量ヲ合シテ貨車積載定量ノ三分ノ二ヲ超過セザルトキ
- 四、混載貨物カ火藥類ト同一停車場ヨリ發送スルモノナルトキ
- 五、混載貨物カ火藥類ヨリ後ニ荷卸ナナス

火藥運送規程

ヘキモノナルトキ

第十一條 火藥類ハ摩擦、動搖、衝突又は轉輾セサル様緊密ニ積載スヘシ

第十二條 火藥類ノ積卸等ヲ爲ストキハ之ヲ投下スルコトヲ得ス又革、麻布若クハ毛布ノ類ヲ以テ其ノ經過スヘキ場所ヲ蔽ヒタルトキノ外之ヲ轉輾スルコトヲ得ス

火藥類ヲ取扱フ者ハ鐵釘等ヲ附シタル靴類ヲ穿チ又ハ燈寸其ノ他發火シ易キ物品ヲ携帯シ又ハ吸煙スルコトヲ得ス

火藥類ノ取扱ハ遲滯ナク之ヲ完了スヘシ

第十三條 火藥類積載貨車ノ兩側面ニハ見易キ位置ニ白地ニ火藥ト赤書シタル標札ヲ附スヘシ

二〇六

第十四條 火藥類積載貨車ノ前後ニハ各二輛以上ノ不燃質物ヲ積載シタル貨車若クハ空車ヲ聯結スヘシ

第十五條 火藥類積載ノ貨車ハ五輛以下ニ非サレハ他貨物積載ノ列車ニ之ヲ聯結スルコトヲ得ス

第十六條 鐵道ノ自由ニ供スル信號用電管及第十條第一號ニ掲ケタル火藥ノ外總テ火藥類ヲ積載シタル貨車ハ旅客列車(混合列車亦同シ)ニ之ヲ聯結スルコトヲ得ス

第十七條 火藥類積載ノ貨車ニ於テハ制動機ヲ使用スルコトヲ得ス但シ車側制動機ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 火藥類ハ成ルベク到達停車場迄直通

スル列車ヲ以テ運送スヘシ又已ムヲ得サル場合ノ外運送中之ヲ他ノ貨車ニ積替ユルコトヲ得ス

第十九條 火藥類運送ノ列車カ停止スルトキハ特ニ車軸ヲ點檢シ危險ヲ生スル處アリト認ムルトキハ即時ニ車輛ヲ解放シテ危險防止ノ處置ヲ爲スヘシ

第二十條 火藥類運送ノ列車カ一時間以上ノ停止ヲ要スルトキハ離隔シタル線路ニ移シ危險防止ノ處置ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ所轄警察官署又ハ巡查駐在所派出所若クハ停車場出張ノ警察官吏ニ之ニ届出ツヘシ

第二十一條 火藥類積載ノ貨車カ到達停車場ニ達シタルトキハ即時ニ之ヲ荷受人ニ通知シ運

火藥運送規程

滞ナク停車場外ニ其ノ火藥ヲ搬出セシムヘシ但シ附添人アル場合ニ於テハ附添人ヲシテ直ニ之ヲ受取ラシムルコトヲ得

荷受人カ六時間内ニ其ノ火藥類ヲ停車場外ニ搬出セサルトキハ離隔シタル線路ニ移シ危險防止ノ處置ヲ爲スヘシ

第二十二條 旅客ハ火藥類ヲ携帯シテ乗車スルコトヲ得ス但シ少量ノ小銃用火藥類ヲ携帯スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

二〇七



傳染病患者鐵道乘車規定

○傳染病患者鐵道乘車規程

(明治三十三年八月十日)  
(遞信省令第三八號)

- 第一條 傳染病患者ヲ乗車セシメントスルトキハ豫メ之カ申込ヲ爲シ鐵道ノ承諾ヲ受クルコトヲ要ス
- 第二條 前條ノ申込ヲ受ケタルトキハ鐵道ハ列車ヲ指定シ其ノ他運送上旅客及公衆ノ安全ヲ保スルニ必要ナル事項ヲ指定スルコトヲ得
- 第三條 傳染病患者ハ傳染病豫防法第九條ニ依リ當該吏員ヨリ移送認可ヲ得タルコトヲ證明スルニ非サレハ乗車セシムルコトヲ得ス
- 第四條 傳染病患者ニハ少クトモ一人ノ附添人ヲ附スルコトヲ要ス

鐵道ノ請求アルトキハ前項附添人ノ外醫師ヲ附スルコトヲ要ス

- 第五條 傳染病患者ハ貸切車ヲ以テ運送シ普通旅客ト其ノ車輛ヲ區別シ當該掛員ノ外一切之カ交通ヲ遮斷スヘシ
- 第六條 傳染病患者ハ傳染病豫防法第九條ニ依リ移送ノ認可ヲ受ケタル地ノ外猥リニ下車セシムルコトヲ得ス
- 第七條 傳染病患者ヲ搭載セル車輛ハ其ノ入口ニ「傳染病者」ノ四字ヲ揭示スヘシ
- 第八條 傳染病患者車中ニ於テ死亡シタルトキハ警察官又ハ其ノ他ノ當該吏員ニ之ヲ申請スヘシ
- 第九條 乘車中傳染病ニ罹リタルモノアルトキ

ハ速ニ警察官又ハ其ノ他ノ當該吏員ニ之ヲ申報スヘシ

- 第十條 車輛、器具ノ消毒其ノ他傳染病豫防ニ關スル取締ハ一般法令ノ規定ニ依ル

附則

- 第十一條 本規程ハ鐵道營業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○汽車檢疫規則

(明治三十年七月十九日)  
(內務省令第一九條)

傳染病豫防法第十八條ニ依リ汽車檢疫規則左ノ通定ム

汽車檢疫規則

- 第一條 府縣知事(東京府ハ警視總監)ハ汽車檢疫ヲ施行セントスルトキハ檢疫スヘキ傳染病

汽車檢疫規則

及其ノ目的地方ヲ指定シ檢疫施行ノ停車場及開始ノ期日ヲ定メテ內務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ告示シ併セテ關係府縣廳(東京府ハ警視廳)ニ通知スヘシ其廢止ノトキ亦之ニ準ス但官設鐵道ノ停車場ニ於テ檢疫ヲ施行スルトキハ遞信省ニモ申報スヘシ

關係府縣廳(東京府ハ警視廳)ニ於テ本條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ告示スヘシ

- 第二條 汽車中ニ傳染病患者又ハ死者アリタルトキハ患者ハ之ヲ市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎其ノ他適當ノ場所ニ收容治療シ死者ハ引受人ニ引渡シ若シ引受人ナキトキハ明治十五年九月布告第四十九號行旅死亡人取扱規則ニ準シ市町村長、區長(沖繩縣ノ區長)又ハ戶

汽車檢疫規則

長(戸長ニ準スヘキモノヲ含ム)ヲシテ其處置ヲ爲サシムヘシ但該規則第二條末段ノ場合ニ於テハ發見地ノ府縣稅又ハ地方稅ヲ以テ其費用ヲ支辨スヘシ

第三條 汽車檢疫ノ際發見シタル傳染病患者ヲ市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎ニ收容中特ニ要シタル費用ニシテ該患者ヨリ徵收スヘキモノハ前條末段ニ依リ取扱ヒ其本籍詳カナラサル場合又ハ身元赤貧ニシテ償却ノ途ナキ場合ニ限リ發見地府縣知事ニ請求スヘシ但本條ノ費用ニシテ患者ヨリ徵收スヘカラサルモノハ直ニ發見地府縣知事ニ請求スルコトヲ得發見地府縣知事ハ前項ノ請求アリタルトキハ府縣稅又ハ地方稅ヨリ之ヲ支辨スヘシ

第四條 汽車中ニ傳染病患者又ハ死者アリタルトキハ患者死者ト同車室ニ在ルカ否サルモ病毒汚染ノ虞アル乘客及手荷物ハ一時之ヲ留メテ消毒方法ヲ施行スヘシ

第五條 傳染病患者又ハ死者アリタル車室ハ之ヲ取離シテ消毒方法ヲ施行スヘシ此場合ニ於テハ鐵道係員ヲ傳染病患者又ハ死者ナキ車室ト雖モ檢疫掛員ニ於テ必要ト認ムルトキハ清潔消毒方法ヲ施行セシムルコトヲ得

第六條 汽車中ニ傳染病患者又ハ死者アリタルトキ其ノ停車場ニ於ケル設備ノ都合等ニ依リ前數條ニ規定シタル事項ヲ施行スルコト能ハサルトキハ假ニ病毒ノ散逸ヲ防クヘキ相當ノ

疫心得ハ廢止ス

○鐵道係員職制 (明治三十三年八月七日) (逓信省令第三七號)

第一條 鐵道ニハ左ノ係員ヲ置ク

- 運輸長
- 車輛長
- 保線長
- 驛長
- 車掌
- 出札掛
- 改札掛
- 貨物掛
- 小荷物掛
- 電信掛

手當ヲ爲シ該車室ノ出入口ヲ閉鎖シテ乘客ノ出入ヲ止メ他ノ停車場ニ至リ其ノ處置ヲ爲スヘシ

第七條 檢疫掛員ニ於テ職務執行上必要アルトキハ無償ニテ其ノ列車ニ乗込ミ又ハ必要ナル通信ヲ驛長若クハ掛員ニ求ムルコトヲ得無償乗車ノ場合ニ於テハ官職氏名ヲ記シタル證票ヲ驛長若クハ掛員ニ示スヘシ

附則

第八條 汽車檢疫施行中府縣知事(東京府ハ警視總監)ノ指定シタル以外ノ地方ヨリ來リタル汽車ニ傳染病患者又ハ死者アリタルトキハ此ノ規則ヲ準用ス

第九條 明二十三年內務省訓第四五二號汽車檢

鐵道係員職制

鐵道係員職制

- 操車掛
- 信號手
- 轉轍手
- 驛夫
- 機關庫主任
- 機關手
- 火夫
- 車輛検査番
- 注油夫
- 保線手
- 線路工夫
- 隧道番
- 橋梁番

踏切番

- 第二條 運輸長ハ鐵道ノ運輸及鐵道用電氣通信並信號ニ關スル事務ヲ掌理シ所部ノ係員ヲ監督ス
- 第三條 車輛長ハ車輛ノ修理、保管及運轉ニ關スル事務ヲ掌理シ所部ノ係員ヲ監督ス
- 第四條 保線長ハ線路並諸建造物ノ修理及保存ニ關スル事務ヲ掌理シ所部ノ係員ヲ監督ス
- 第五條 驛長ハ運輸長ノ指揮ヲ承ケ驛務ヲ處理シ驛員ヲ監督ス
- 第六條 車掌ハ運輸長ノ指揮ヲ承ケ列車ノ運轉及輸送ノ事務ニ從事ス
- 車掌ハ列車カ停車場内ニ在ルトキハ驛長ノ指

示ヲ承ケテ其ノ事務ヲ執行ス

- 第七條 車掌ハ車内ノ秩序ヲ保持ス
- 第八條 車掌ハ車内ノ秩序ヲ保持スル爲必要アルトキハ旅客ニ對シ相當ノ指圖及處分ヲ爲スコトヲ得
- 第九條 出札掛ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ乗車券發賣ノ事務ニ從事ス
- 第十條 改札掛ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ乗車券ノ檢査及集收ノ事務ニ從事ス
- 第十一條 貨物掛ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ運送貨物ノ受授、保管ノ事務ニ從事ス
- 第十二條 小荷物掛ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ小荷物及手荷物ノ受授、保管ノ事務ニ從事ス
- 第十三條 電信掛ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ停車場ニ

鐵道係員職制

於ケル電氣通信ノ事務ニ從事ス

- 第十四條 操車掛ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ停車場ニ於ケル車輛ノ入レ換及操配ニ從事ス
- 第十五條 信號手ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ信號ノ取扱ニ從事ス
- 第十六條 轉轍手ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ轉轍器ノ取扱ニ從事ス
- 第十七條 驛夫ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ停車場ニ於ケル雜務ニ從事ス
- 第十八條 機關庫主任ハ車輛長ノ指揮ヲ承ケ機關庫ニ關スル事務ヲ處理シ所屬ノ係員ヲ監督ス
- 第十九條 機關手ハ機關庫主任ノ指示ヲ承ケ機關車運轉ノ事務ニ從事ス

鐵道係員職制

機關手ハ列車運轉中ニ在リテハ車掌又列車カ  
停車場内ニ在ルトキハ驛長ノ指示ヲ承ケテ其  
ノ事務ヲ執行ス

第二十條 火夫ハ機關庫主任ノ指示ヲ承ケ其ノ  
職務ニ從事ス

火夫ハ機關車運轉中ニ在リテハ機關手ノ指示  
ヲ承ケテ其ノ職務ニ從事ス

第二十一條 注油夫ハ機關庫主任ノ指示ヲ承ケ  
其ノ職務ニ從事ス

第二十二條 車輛検査番ハ機關庫主任ノ指示ヲ  
承ケ其ノ職務ニ從事ス

第二十三條 保線手ハ保線長ノ指揮ヲ承ケ線路  
ノ修理保存ノ事務ニ從事シ所屬係員ヲ監督ス

第二十四條 線路工夫ハ保線手ノ指示ヲ承ケ其

ノ職務ニ從事ス

第二十五條 隧道番、橋梁番及踏切番ハ保線手  
ノ指示ヲ承ケ隧道、橋梁及踏切ノ看守ニ從事  
ス停車場内及其ノ附近ニ於ケル看守ニ付テハ  
驛長ノ指示ヲ承ケ其ノ職務ニ從事ス

第二十六條 鐵道ハ其ノ狀況ニ依リ本職制ニ定  
メタル係員ノ職務ヲ分チ若クハ之ヲ合シテ別  
ニ係員ヲ設クコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ私設鐵道ハ其ノ職制ヲ定メ  
認可ヲ受クヘシ

本職制ニ定メタル係員以外ニ現業従事員ヲ置  
クトキハ私設鐵道ハ其ノ職掌ヲ定メ届出ツヘ  
シ之ヲ變更スルトキ亦同シ

第二十七條 私設鐵道ノ狀況ニ依リ本職制ニ定

ムル係員ノ職務ヲ分チ特ニ主務ノ係員ヲ置キ  
又ハ特種ノ現業従事員ヲ置カシムルコトアル  
ヘシ

第二十八條 私設鐵道ハ鐵道係員ノ定員表ヲ調  
製シテ届出ツヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ

附則

第二十九條 本職制ハ鐵道營業法施行ノ日ヨリ  
之ヲ施行ス

○鐵道船舶郵便法(明治三十三年三月)  
法律第五六號

第一條 本法ニ於テ鐵道運送業者ト稱スルハ私  
設鐵道條例ニ依リ鐵道ヲ以テ運送營業ヲ爲ス  
者ヲ謂ヒ船舶運送業者ト稱スルハ商法ニ依リ  
船舶ヲ以テ運送營業ヲ爲ス者ヲ謂フ

鐵道船舶郵便法

第二條 鐵道運送業者ハ郵便取扱ノ爲郵便官署

ノ要求アルトキハ鐵道用地及停車場建物ノ一  
部ヲ供シ又ハ建物ノ建築若クハ改築ヲ爲スヘ  
シ

前項ノ場合ニ於テ土地建物ノ使用料及建築改  
築ノ費用ハ郵便官署之ヲ支給ス

第三條 鐵道運送業者ハ郵便官署ノ要求アルト  
キハ定期列車毎ニ郵便車トシテ列車定數ノ總  
容積ノ五分ノ一迄ハ其ノ列車ノ一部ヲ供給シ  
又ハ郵便官署ノ交付ニ係ル同一容積以内ノ郵  
便車ヲ聯結スヘシ

船舶運送業者ハ郵便官署ノ要求アルトキハ其  
ノ船舶ニ相當ノ郵便船室ヲ供給スヘシ

第四條 郵便車ノ構造ハ通常客車ト同一タルコ

鐵道船舶郵便法

トヲ要ス

第五條 郵便車又ハ郵便船室ニハ郵便物郵便取扱員及其ノ監視員ノ外搭載スルコトヲ得ス

第六條 鐵道運送業者又ハ船舶送業者ハ郵便官署ノ要求ニ應シ郵便車又ハ郵便船室ニ郵便物ノ取扱ニ必要ナル設備及維持ヲ爲スヘシ

鐵道運送業者ハ郵便官署ノ交付ニ係ル郵便車ヲ保管スヘシ  
前二項ノ場合ニ於テ設備維持及保管ニ要スル費用ハ郵便官署之ヲ支給ス

第七條 鐵道運送業者ハ列車仕立驛ニ於テ指定ノ郵便車ノ外臨時容積ノ増加ヲ要シ又ハ臨時郵便車ノ聯結ヲ要スル爲其ノ列車出發時刻三十分前迄ニ郵便官署ノ要求アルトキハ他ノ郵

二一六

便車ヲ聯結シ又ハ通常客車ヲ其ノ代用ニ供スヘシ

第八條 鐵道運送業者ハ郵便官署ニ於テ郵便車ニ依ラサル郵便物ノ運送ヲ要求シタルトキハ旅客列車ニ依リ運送スル貨物ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ運送スヘシ

第九條 鐵道運送業者列車ノ發著時刻ヲ變更スルトキハ七日以前ニ之ヲ郵便官署ニ報告スヘシ但シ天災其ノ他避クヘカラサル事故ノ爲發著時刻ノ變更ヲ決定シタルトキハ直ニ報告スヘシ

第十條 郵便車ノ使用料金ハ左ノ割合ニ依ル  
三百立方尺迄 一哩毎ニ 金一錢八厘以内  
五百立方尺迄 一哩毎ニ 金三錢五厘以内

七百立方尺迄 一哩毎ニ 金五錢六厘以内

千立方尺迄 一哩毎ニ 金九錢以内

千立方尺ヲ超過シタルトキハ其ノ全容積ニ對シ百立方尺迄ニ付一哩毎ニ金一錢以内

郵便車ノ容積ハ各列車ニ於ケル郵便車總容積ヲ以テ之ヲ算定ス其ノ容積ノ算定方法ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

郵便物ヲ旅客列車ニ依リ運送スル貨物ト同一ノ方法ヲ以テ運送セシムルトキハ其ノ運送料金ハ其ノ鐵道運送業者ノ定メタル普通貨物運賃ノ最低額ノ半額以内トス

郵便官署ヨリ郵便車ヲ交付シタル場合ニ於テ鐵道運送業者ニ支給スヘキ金額ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

鐵道船舶郵便法

第十一條 船舶運送業者ハ船舶ニ搭載シタル郵便物ヲ其ノ目的ニ於テ他ノ貨物ニ先チ陸揚ス

ヘシ天災事變ノ爲航海ノ途中ニ於テ積替若クハ陸揚スルトキ亦同シ

第十二條 船舶運送業者ニ交付スヘキ運送料金ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十三條 郵便物搭載列車天災事變ノ爲其ノ進行ヲ停止シタルトキ又ハ郵便物搭載船舶航行中天災事變ニ因リ郵便物ヲ陸揚シタルトキハ鐵道運送業者又ハ船舶運送業者ハ郵便取扱員ノ在ラサル場合ニ限り直ニ該郵便物ヲ附近郵便官署ニ送達スヘシ其ノ送達ニ要スル費用ハ之ヲ支給ス

第十四條 第三條ノ要求ニ應セサル者又ハ正當

二一七

鐵道船舶郵便法

ノ理由ナクシテ第二條若クハ第七條ノ要求ニ  
應セサル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ  
處ス

第十五條 第六條第一項及第二項ニ違反シタル  
者又ハ正當ノ理由ナクシテ第八條ノ要求ニ應  
セサル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處  
ス第五條ニ違反シタル鐵道運送業者及船舶運  
送業者亦同シ

第十六條 第十三條ニ依ル送達ヲ爲ササル者ハ  
十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 過失ニ依リ運送中ニ係ル郵便物ヲ亡  
失シ又ハ毀損シタルトキハ鐵道運送業者又ハ  
船舶運送業者ヲ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處  
ス

第十八條 第九條又ハ第十一條ニ違反シタル者  
ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 法人ノ業務ニ關シ其ノ代表者又ハ雇  
人其ノ他ノ從業者前數條ノ罪ヲ犯シタルトキ  
ハ其ノ罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者  
ヲ以テ被告人トス

法人ヲ處スルノ裁判確定シタル日ヨリ罰金ニ  
關シテハ一月以内科料ニ關シテハ十日以内ニ  
之ヲ完納セサルトキハ民事訴訟法第六編ノ規  
定ニ從ヒテ其ノ執行ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ  
檢事ノ命令ヲ以テ執行力ヲ有スル債務名義ト  
同一ノ効力アルモノトス  
前項ニ依リ執行ヲ爲スニハ執行前裁判ノ送達

月一日ヨリ施行ス

鐵道船舶郵便規則

第一條 鐵道船舶郵便法ニ依リ運送スヘキ郵便  
物ニハ現ニ郵便物運送ノ用ニ供スル必要物件  
ヲ包含ス

第二條 運送業者ノ郵便物運送及授受ニ關スル  
取扱方法並運送業者ニ交付スヘキ金額ノ仕拂  
方法ハ郵便官署ノ指定スル所ニ依ル

第三條 郵便物ヲ運送スヘキ區域度數時刻列車  
並郵便車室又ハ郵便船室ノ容積及ヒ郵便物ノ  
受渡局ハ郵便官署ノ指定スル所ニ依ル

第四條 鐵道船舶郵便法第五條ニ依リ郵便車室  
又ハ郵便船室又ハ搭乘スヘキ事務員ハ制服ヲ  
著シ又ハ搭乘證ヲ携帯スル者ニ限ル

ヲ爲スコトヲ要セス

第二十條 軌道條例ニ依リ運送營業ヲ爲ス者  
ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ規定  
ヲ準用スルコトヲ得

第二十一條 鐵道又ハ航路若ハ船舶ニ關シ政府  
ヨリ補助ヲ受ケ若ハ受ケタル鐵道運送業者又  
ハ船舶運送業者ニ對シ特別ノ命令アルトキハ  
其ノ命令ニ依ル

附則

本法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○鐵道船舶郵便規則

(明治三十三年九月一日)改正(三十七年  
遞信省令第四四號) 第四二號

鐵道船舶郵便規則左ノ通相定メ明治三十三年十

鐵道船舶郵便規則

鐵道船舶郵便規則

二二〇

鐵道監査員、鐵道係員又ハ船員ハ其ノ職務執行上必要アル場合ニ限リ郵便車室又ハ郵便船室内ニ出入スルコトヲ得

第五條 鐵道船舶郵便法第六條ニ依リ郵便官署ノ要求ニ應シ必要ナル設備及維持ヲ爲サントスルトキハ運送業者ハ豫メ工事仕様書並經費豫算書ヲ提出シテ其ノ承認ヲ受クヘシ

第六條 郵便物ヲ運送スル船舶ニシテ發著日時ヲ定メタルモノ其ノ日時ヲ變更スルトキハ船舶運送業者ハ五日以前ニ之ヲ當該郵便官署ニ報告スヘシ但シ天災其ノ他避クヘカラサル事故ノ爲メ發著日時ノ變更ヲ決定シタルトキハ直ニ報告スヘシ

第七條 一列車若ハ一船舶ニ於ケル郵便車室又

ハ郵便船室ハ郵便官署ノ認可ヲ得ルニ非レハ二個以上ニ分離スルコトヲ得ス

第八條 郵便車室及郵便船室ノ位置ハ特ニ郵便官署ノ指定ナキモノト雖モ常ニ之ヲ一定スヘシ但シ正當ノ事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 郵便車室及郵便船室ノ容積ハ各其ノ區畫障壁ヲ謂フ  
郵便車室ノ容積ハ室内最低ノ高サニ依テ算定ス

第十條 郵便官署ヨリ郵便車室ヲ交付シタル場合ニ於テ鐵道船舶郵便法第六條及第十條ニ依リ鐵道運送業者ニ交付スヘキ金額ハ同法第十條第一項ニ掲グル各容積ニ應スル最高料金ノ

五分ノ四以内トス

第十一條 船舶運送業者ニ交付スヘキ運送料金

- ハ其ノ供給スル容積ニ應シ左ノ割合ニ依ル
- 百立方尺マテ 一哩毎ニ 金二錢五厘以内
- 二百立方尺マテ 一哩毎ニ 金三錢五厘以内
- 三百立方尺マテ 一哩毎ニ 金四錢五厘以内
- 四百立方尺マテ 一哩毎ニ 金五錢八厘以内
- 五百立方尺マテ 一哩毎ニ 金七錢一厘以内
- 六百立方尺マテ 一哩毎ニ 金八錢五厘以内
- 七百立方尺マテ 一哩毎ニ 金十錢以内
- 八百立方尺マテ 一哩毎ニ 金十二錢六厘以内
- 九百立方尺マテ 一哩毎ニ 金十三錢三厘以内
- 千立方尺マテ 一哩毎ニ 金十五錢一厘以内
- 千立方尺ヲ超過シタル場合ニハ其ノ全容積ニ

鐵道船舶郵便規則

二二一

對シ百立方尺マテニ付一哩毎ニ金一錢五厘以内

第十二條 郵便官署ニ於テ特別ノ條件ヲ附シタルトキハ前條ノ料金率ヲ増加スルコトアルヘシ

第十三條 第十一條ノ運送料金ハ鐵道船舶郵便法第十三條ノ場合ノ外船舶運送業者ニ於テ郵便官署ト船舶間ニ郵便物ヲ運送スル場合各ノ費用ヲモ包含ス若陸上ノ遞送距離一里ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ陸路遞送ノ實費ヲ支給ス

第十四條 鐵道運送業者又ハ船舶運送業者ハ郵便物ヲ搭載シタル鐵道列車又ハ船舶ニシテ天災事變ニ遭遇スルトキハ郵便官署又ハ郵便事務員ノ要求ニ依リ列車又ハ船舶ニ郵便物ヲ搭

鐵道軍事供用令

載ノ儘保管シ又ハ他ノ貨物ニ先チ其ノ指定ノ地ニ送達スヘシ其ノ送達ニ要スル費用ハ之ヲ支給ス

第十五條 第二條及第三條ニ依ル郵便官署ノ指定ニ違背シタル者第六條第七條ニ違背シタル者及正當ノ事由ナクシテ第八條及第十四條ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

○鐵道軍事供用令 (明治三十七年一月二日勅令第一二號)

改正 (明治四十一年勅令第三〇九號)

第一條 本令ニ於テ會社ト稱スルハ私設鐵道株式會社ヲ謂フ

本令ニ於テ軍事輸送ト稱スルハ特ニ準備シタル列車ニ依リ又ハ普通列車中一車輛以上ヲ專

用シテ陸海軍團隊及其ノ携行シ又ハ之ニ宛テ追送スル馬匹及軍需品ヲ輸送スルヲ謂フ

本令ニ於テ軍用列車ト稱スルハ軍事輸送ノ爲メ特ニ準備シタル列車ヲ謂フ

第二條 會社ハ陸海軍官憲ノ要求ニ隨ヒ軍事輸送ヲ爲スヘシ

軍用列車ニハ陸海軍官憲ノ承認アルトキハ郵便物ヲ搭載シ又ハ郵便車ヲ聯結スルコトヲ得

第三條 會社ハ他ノ會社ヨリ軍事輸送上必要ナル幫助ヲ請求セラレタルトキハ業務ニ支障ナキ限り之ニ應スヘシ

第四條 軍用列車ハ搭載地ヨリ卸下地迄直通ノ運轉ヲ爲スヘシ

第五條 乘用ニ供スル車輛ハ將校、同相當官、

第九條 車輛ノ缺乏其ノ他已チ得サル場合ニ於テ陸海軍官憲ノ承認アルトキ又ハ陸海軍官憲ノ要求アル場合ニ於テ會社ニ支障ナキトキハ

第四條乃至第八條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第十條 軍事輸送ニ供スル車輛ハ清潔ニ掃除シ必要ナル場合ニ於テハ消毒ヲ爲スヘシ

第十一條 會社ハ馬匹及軍需品ノ積卸ノ爲ニ要スル踏板及輸送上必要ナル雨覆等ヲ準備スヘシ

第十二條 會社ハ軍事輸送ニ際シ停車場内ノ點燈、公衆待合所、乗降場、厠等ヲ軍用ニ供スヘシ

第十三條 陸海軍官憲ニ於テ軍事輸送ニ際シ搭

准士官及軍屬タル高等文官若ハ之ニ準スヘキモノニ在リテハ一等又ハ二等客車、下士卒及判任文官以下ノ軍屬ニ在リテハ三等客車トス前項車輛ノ乘車人員ハ普通旅客定員ノ十分ノ八ヲ標準トス

第六條 馬匹ハ有蓋貨車ニ搭載スヘシ

第七條 戰用器材ハ無蓋貨車ニ搭載シ其他ノ軍需品ハ其種類及形狀ニ應ジ有蓋貨車又ハ無蓋貨車ニ搭載スヘシ

第八條 客車ニハ普通旅客ニ供スルト同一ノ設備ヲ爲シ第六條ノ貨車ニハ燈器敷藁及馬栓棒若ハ胸板ヲ備ヘ第七條ノ貨車中戰用車輛ヲ搭載スルモノニハ搭載品固定用ノ木楔、鏈、釘、等ヲ備フヘシ

鐵道軍事供用令



鐵道軍事供用令

二二四

載卸下ノ爲必要ナル補足工事又ハ特別ノ施設ヲ爲サントスルトキハ會社ハ正當ナル事由ナクシテ其ノ供用線ニ屬スル土地建物機械器具又ハ材料ノ供用ヲ拒ムコトヲ得ス  
會社ニ於テ前項ノ工事又ハ施設ヲ爲スヘキ要求ヲ受ケタルトキハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス  
前二項ノ場合ニ於テ供用ノ費用又ハ工事若クハ施設ニ要スル費用ハ之ヲ補償ス但其ノ金額ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣内閣總理大臣ト協議シテ之ヲ決定ス  
第十四條 會社ハ陸海軍官憲ノ要求アルトキハ無償ニテ其ノ電信電話ニ依リ軍事輸送上直接ナル通信ヲ取扱フヘシ

第十五條 軍事輸送ノ料金ハ別表ニ依リ之ヲ交付ス  
前項ノ料金ハ陸海軍官憲會社ト協議シテ之ヲ低減スルコトヲ得  
第十六條 軍事輸送ノ實施ニ關スル規定ハ陸軍大臣海軍大臣内閣總理大臣協議シテ之ヲ定ム  
第十七條 前數條ノ規定ハ官設鐵道ニ之ヲ準用ス  
第十八條 第二條第一項及第十三條ノ規定ニ違反シタルトキハ取締役ヲ二百圓以下ノ罰金又ハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ第三條第四條第六條乃至第八條及第十四條ノ規定ニ違反シタルトキハ取締役ヲ百圓以下ノ罰金又ハ三月以下ノ重禁錮ニ處シ第十條乃至第十二條ノ規定ニ

違反シタルトキハ取締役ヲ五十圓以下ノ罰金又ハ一月以下ノ重禁錮ニ處ス

附則

本令ハ明治三十七年一月二十六日ヨリ之ヲ施行ス

軍事輸送料金表

供用車輛ノ種類	一輛 一哩ニ對スル金額
一、二等客車	旅客定員ニ金一錢ヲ乘シタル額
三等客車	旅客定員ニ金五厘ヲ乘シタル額
等級合造客車	旅客定員ニ一、二等ハ金一錢三等ハ金五厘ヲ乘シタル額ノ和
有蓋貨車	金十二錢
無蓋貨車	金十錢
貨物緩急車	金六錢
備考	二十哩未滿ノ輸送ニ在リテハ二十哩分ノ料金を給ス

○鐵道軍事輸送規程

(明治三十七年一月二十五日) 陸軍省令 第三三號

- 第一條 陸海軍ニ於テ軍事輸送ヲ要求セントスルトキハ列車ノ組織車輛ノ數其他必要ノ事項ヲ定メ豫メ會社ニ通報スルモノトス
- 第二條 鐵道軍事供用令第四條乃至第八條ニ依リ難キ場合ニ於テハ會社ハ豫メ事由ヲ具シ軍事輸送ノ要求ヲ爲シタル陸海軍官衙ニ申出ヘシ
- 第三條 會社ニ於テ客車ノ代用トシテ有蓋貨車ヲ使用スルトキハ代用車ニ適當ノ裝置ヲ爲シ且其乘車人員ハ車内ノ床面積少クモ三平方呎毎ニ一名ノ比例ヲ標準トスヘシ

鐵道軍事輸送規程

- 第四條 會社ニ於テ有蓋貨車ノ代用トシテ無蓋貨車ヲ使用スルトキハ代用車ニ適當ノ裝置ヲ爲スヘシ
- 前項ノ貨車ニハ芻秣其他燃燒シ易キ物品ヲ積載スヘカラス
- 第五條 馬匹ヲ搭載シタル車輛ニハ看守者ヲ附スルコトアルヘシ
- 第六條 火藥類ハ有蓋貨車ニ搭載シ輸送中車扉ヲ密閉シ置クモノトス
- 前項ノ貨車ハ如何ナル場合ニ於テモ機關車ノ直前又ハ直後ニ聯結スヘカラス
- 火藥類ヲ搭載シタル貨車ハ軍用列車ニ限り之ヲ軍隊若ハ他ノ輸送物ヲ搭載セル車輛ニ聯結スルヲ得

鐵道軍事輸送規程

二二八

第七條 發火ノ虞ナキ様成規ノ包裝ヲ爲シタル  
火藥類ハ其種類ニ拘ハラズ軍用列車ニ限り之  
ヲ同一車輛ニ搭載スルコトヲ得

第八條 火藥類ヲ輸送スル場合ニ於テ其受渡ノ  
時刻ハ輸送ヲ要求シタル官衙豫メ會社ト協議  
シテ之ヲ定ム

第九條 燃燒シ品キ物品ヲ無蓋貨車ニ搭載スル  
トキハ必要ニ應シ束藁ヲ浸シタル水桶ヲ準備  
シ且看守者ヲ附スルコトアルヘシ

第十條 軍用列車ニハ輸送指揮官(貨物輸送ノ  
場合ニ於テハ通常宰領者)ヲ附シ搭載卸下及  
輸送中ノ取締ニ任セシム

普通列車ニ依リ軍事輸送ヲ爲ス場合ニ於テモ  
輸送指揮官又ハ宰領者ヲ附スルコトアルヘシ

第十一條 陸軍官衙若ハ海軍官衙ハ必要ニ應シ  
停車場司令官若ハ特ニ命シタル將校同相當官  
ヲ派遣シ當該停車場ニ於ケル輸送ノ業務ヲ掌  
ラシム

第十二條 軍事輸送ヲ要求シタル官衙ハ毎回輸  
送ニ對シ鐵道軍用輸送券ヲ發行ス但輸送指揮  
官又ハ宰領者ヲ附セサル輸送ニ在テハ此限ニ  
アラス

前項ノ輸送券ハ搭載地卸下地間ヲ通シテ一通  
トス但途中ニ於テ搭載又ハ卸下ヲ爲ス輸送物  
アルトキハ其輸送ニ關シテハ各別ニ輸送券ヲ  
發行スルモノトス

第十三條 輸送券ハ甲乙丙ノ三部ニ區分シ甲部  
ハ料金計算ノ用ニ乙部ハ料金對照ノ用ニ丙部

ハ輸送途中ノ證憑ニ供スルモノトス

第十四條 軍事輸送ノ料金ハ會社ヨリ仕拂請求  
書ニ輸送券ノ甲部ヲ添ヘ請求スヘシ但輸送券  
ヲ發行セサル場合ニ在テハ普通貨物輸送ノ例  
ニ依ルモノトス

二箇以上ノ會社ニ關係スル軍事輸送ノ料金ハ  
始發停車場所管ノ會社ヨリ請求スルモノトス  
前項料金ノ分配方ハ關係會社協議ノ上之ヲ定  
ムルモノトス

第十五條 軍事輸送ノ料金ハ時宜ニ依リ現金拂  
ト爲スコトアルヘシ此場合ニ於テハ輸送券面  
ニ(料金拂濟)ト朱書スルモノトス

第十六條 鐵道軍事供用令第十三條ノ費用ハ一  
口毎ニ一通トシ會社ヨリ其仕拂請求書ニ證憑

鐵道軍事輸送規程

二二九

書類ヲ添ヘ之ヲ請求スヘシ

第十七條 會社ニ於テ軍事輸送實施ノ爲生シタ  
ル民事上ノ損害ニツキ賠償ヲ受ケントスルト  
キハ一口毎ニ證憑書類ヲ添ヘ主務大臣ニ申出  
ツヘシ

第十八條 會社ハ陸海軍ノ要求ニ依リ軍事輸送  
ニ關シ必要ナル事項ヲ報告スヘシ

第十九條 本規程ニ規定セサル事項ハ鐵道運轉  
規程鐵道信號規程及火藥類鐵道運送規程ノ規  
定ヲ準用ス

第二十條 本規程ハ官設鐵道ニ之ヲ準用ス

第 號

大正 年 月 日

發送官 衛

鐵道軍用輸送券 (甲部)

輸送區間 自 經 至

輸送部隊(若ハ輸送物 及其所屬官 衛)

一 發送官 衛ハ券ノ表面(甲、乙、丙部共)所定ノ位置ニ必要ナル事項及甲部裏面ニ輸送料金仕拂官 衛名ヲ記入シ且官印ヲ捺シ輸送指揮官(若ハ率領者以下同シ)ニ交付ス

二 輸送指揮官ハ裏面所定ノ位置ニ人馬、物件及所要車輛等ヲ記入シ署名捺印ノ後發車停車場司令官若ハ主務將校同相當官(該官アラサトルキハ驛長)ニ交付ス

三 發車停車場司令官若ハ主任將校同相當官ハ券面記入ノ事項及數量等ヲ點檢シ之ヲ當該停車場驛長ニ交付ス

四 發車停車場驛長ハ券ノ甲部ヲ取り置キ乙、丙部所定ノ位置ニ署名捺印シ之ヲ輸送指揮官ニ返付ス

第 號

鐵道軍用輸送券 (乙部)

輸送區間 自 經 至

輸送部隊(右ハ輸送物 及其所屬官 衛)

大正 年 月 日

發車停車場驛長

此乙部ハ發車前 著車後

ニ交付スヘシ

五 輸送指揮官ハ乙、丙部ヲ受領シ其乙部ハ券面ノ指示ニ依リ處置シ丙部ハ途中輸送ノ證憑トシテ携帶シ輸送終了後著車停車場驛長ニ交付ス

六 總テ券面ニ記入スル文字ハ墨汁ヲ用ヒ且數字ハ改書シ易カラサル字體ヲ撰用スヘシ





輕便鐵道關係法令

鐵道軍事輸送規程

大正	年	月	日
輸送指揮官(掌領者)			
輸送料金(仕拂請求書ニ木券ヲ添付)			
(請求書ニ添付)			

表中不用ノ欄ハ斜線ヲ畫スヘシ

○輕便鐵道法(明治四十三年四月二十日)

法律第五十七號

改正(四十四年)法律第三十一號

第一條 輕便鐵道ヲ敷設シ一般運送ノ用ニ供セ  
ントスル者ハ左ノ書類及圖面ヲ提出シ主務大  
臣ノ免許ヲ受クヘシ

一 起業目論見書

二 線路豫測圖

三 敷設費用ノ概算書

四 運送營業上ノ收支概算書

第二條 主務大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ  
免許ニ條件ヲ附スルコトヲ得

第三條 免許ヲ受ケタル者ハ免許ニ指定シタル  
期限内ニ線路實測圖、工事方法書及工費豫算

書ヲ提出シ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ會  
社ニ在リテハ定款ヲ添附スルコトヲ要ス

第四條 線路ハ之ヲ道路上ニ敷設スルコトヲ得  
ス但シ必要ナル場合ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ  
受ケタルトキハ此限ニ在ラス

第五條 私設鐵道法第九條第二項、第二十條、  
第四十一條、第四十二條、第五十三條乃至第  
五十五條及第八十條ノ規定ハ輕便鐵道ニ之ヲ  
準用ス但シ第九條第二項ノ規定ハ私設鐵道株  
式會社ニ非サル會社カ兼業トシテ輕便鐵道ヲ  
敷設スル場合ハ此ノ限ニアラス

第六條 鐵道營業法ハ輕便鐵道ニ之ヲ準用ス

第七條 明治四十二年法律第二十八號ハ輕便鐵  
道ノ抵當ニ之ヲ準用ス

輕便鐵道法



輕便鐵道法施行期日ノ件 輕便鐵道法施行規則

二二六

第八條 本法ニ依リ運送ノ業ヲ爲ス者ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ鐵道船舶郵便法ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
本法施行免許又ハ特許ヲ受ケタル鐵道及軌道ニシテ將來本法ニ依ラシムヘキモノハ主務大臣之ヲ指定ス

○輕便鐵道法施行期日ノ件

(明治四十三年八月一日)  
勅令第三一四號

輕便鐵道法ハ明治四十三年八月三日ヨリ之ヲ施行ス

○輕便鐵道法施行規則

(明治四十三年八月二日)  
閣令第一一二號

第一條 輕便鐵道免許ノ申請書ハ主タル事務所ヲ設置セントスル地ノ地方長官ヲ經由シテ之ヲ提出スヘシ

第二條 地方長官ハ前條ノ申請書ニ意見書ヲ附シテ進達スヘシ  
起業カ他ノ地方管内ニ係ルトキハ地方長官ハ關係地方長官ニ商議シ前項ノ意見書ヲ調製スヘシ

第三條 免許ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附シ申請者又ハ其ノ代理人記名捺印スヘシ但シ代理人ニ於テ記名捺印スルトキハ其ノ委任狀ヲ添附スヘシ

一 組合事業ニ在リテハ其ノ組合ニ關スル契約書謄本

二 會社ヲ設立セントスル者ニ在リテハ假定款謄本

三 私設鐵道株式會社又ハ軌道會社ニ在ラサ

ル會社ニ在リテハ其登記謄本及定款謄本  
四 府縣郡其ノ他ノ公共團體ニ在リテハ其ノ團體ノ決議書

第四條 起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 目的

二 鐵道ノ名稱及主タル事務所設置地

三 事業資金ノ總額及其ノ出資ノ方法

四 線路ノ起點終點及其ノ經過スヘキ地名但シ線路ノ一部ヲ道路上ニ敷設セムトスル

モノハ其ノ區間ヲ道路ノ種別ニ區分シ之ヲ記載スヘシ

五 鐵道ノ種類及軌間但シ電氣ヲ動力トスル

モノハ原動力ノ種類電氣ノ方式及電氣鐵輕便鐵道法施行規則

道ノ方式ヲ記載シ他ヨリ電力ノ供給ヲ受クル者ハ供給者ノ住所氏名又ハ名稱ヲ併セテ記載スヘシ

六 營業時間ヲ定メタルトキハ其ノ期間

第五條 線路豫測圖ハ左ノ二種トス

一 平面圖

縮尺ハ一吋三十鎖以上トシ線路ノ地勢並停車場ノ位置及名稱ヲ記載シ距離ハ半哩毎ニ記入スヘシ

二 縱斷面圖

縮尺ハ距離ヲ一吋三十鎖以上高ヲ一吋百五十呎以上トシ中心線地面ノ高低及施工基面ノ高低ヲ示シ隧道及橋梁ノ長、線路ノ勾配並停車場ノ位置及名稱ヲ記入スヘシ

二二七

輕便鐵道法施行規則

シ

第六條 敷設費用ノ概算書ハ第一號様式ニ依リ其ノ總額及内譯各項毎ニ金額ヲ記載シ且線路ノ哩數ヲ掲クヘシ

第七條 運送營業上ノ收支概算書ハ第二號様式ニ依リ收入及支出總額並其ノ内譯ヲ示シ且資金ニ對スル純益ノ割合ヲ記載スヘシ

第八條 輕便鐵道法第三條ノ規定ニ依ル工事施行ノ認可前ニ於テ起業目論見書ニ記載シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ヲ經由シテ認可ヲ受クヘシ

第九條 免許申請中申請者其ノ氏名又ハ住所ヲ變更シタルトキハ一週間内ニ其ノ旨届出ツヘシ

申請者中死亡シタル者アルトキハ他ノ申請者ヨリ、既設ノ會社ニシテ解散シタルトキハ清算人ヨリ一週間内ニ其ノ旨届出ツヘシ

第十條 工事施行ノ認可申請書ハ地方長官ヲ經由シテ之ヲ提出スヘシ

起業カ他ノ地方管内ニ係ルトキハ其ノ關係部分ニ對スル書類圖面ノ謄本ヲ調製シ之ヲ關係地方長官ニ提出スヘシ

會社ヲ設立シタル場合ニ於テハ工事施行認可申請書ニハ會社ノ登記謄本ヲ添附スヘシ

第十一條 線路實測圖ハ左ノ二種トス

一 平面圖

縮尺一吋三十鎖以上トシ線路ノ左右各十鎖以內ノ地勢ヲ明ニシ其ノ他附近ノ市街

其ノ他重要ナル道路踏切ノ位置及線路勾配ヲ詳記スヘシ

線路カ他ノ鐵道又ハ軌道ト交叉連絡又ハ接近スルトキハ該線路ノ前後各半哩間ノ中心線及高低ノ關係ヲ明ニスヘシ

線路カ市街地其ノ他重要ナル地點ヲ通過シ又ハ之ニ接近スルキハ別ニ明細圖ヲ添附スヘシ

二 縱斷面圖

縮尺ハ距離ヲ平面圖ト同一ニシテ高ハ一吋百五十呎以上トシ中心線地面ノ高低、施工基面ノ高低及築堤ノ高竝切取ノ深ヲ十鎖毎ニ記シ隧道及橋梁（溝橋ヲ含ム以下同シ）ノ長、桁ノ種類及箇數、停車場停留場聯絡所及信號所ノ名稱及哩程竝國道輕便鐵道法施行規則

- 一 單線又ハ複線等ノ區別
- 二 軌間及軌道ノ間隔
- 三 建築定規及車輛定規（圖面添附）
- 四 曲線ノ最小半徑
- 五 線路ノ最急勾配

輕便鐵道法施行規則

二四〇

- 六 施工基面ノ幅、築堤及切取斜面ノ勾配並用地ノ幅(圖面添附)
- 七 橋梁ノ基脚及基礎ノ施工方法、桁及拱ノ材質構造寸法及所定最大活重並桁各部ノ最大應力(圖面添附)
- 八 隧道ノ各種地質ニ應スル施工断面、坑門及水排水渠ノ構造(圖面添附)
- 九 軌條及附屬品ノ材質形狀及重量、枕木ノ寸法及敷設間隔並轉轍器及轍叉ノ構造(圖面添附)
- 十 停車場ニ於ケル諸建造物及側線ノ配置(圖面添附)
- 十一 機關車ニ在リテハ  
輛數、形狀及主要寸法(圖面添附)

- 汽筒ノ直徑及衝程、汽罐ノ傳熱面、爐面ノ大及實用最高汽壓、各車輪一對ノ負擔重量並水槽及燃料櫃ノ容量
- 汽罐及其ノ附屬品、機械部、車蓋、「ボギ」  
車輪、車軸、擔彈機及制動、牽引、緩衝等各裝置ノ構造(圖面添附)
- 客車貨車及其ノ他ノ車輛ニ在リテハ  
輛數形狀及主要寸法(圖面添附)
- 定員、積載量、容積及自重
- 車體及附屬品、車蓋「ボギー」、車輪、車軸、擔彈機及制動、牽引、緩衝、點燈各裝置ノ構造(圖面添附)
- 十二 他ノ鐵道又ハ軌道トノ交叉方法
- 十三 其ノ他特種ノ設計ニ依リ施設スヘキ工

專方法

リテハ軌條ノ接續法

- 電氣ヲ動力トスルモノハ前項ノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一 電動機ノ種類筒數及馬力數
- 二 發電所、變壓所及配電所ノ位置並其ノ位置ヨリ軌道ニ達スル電線路ノ經過地名(圖面添附)
- 三 發電機ノ種類筒數「ワット」數及最大電壓變壓器、電動發電機、電流變式機、蓄電池及「ブスター」ノ種類、筒數及「ワット」數
- 五 發電所、變壓所及配電所内ノ電線接續法(圖面添附)
- 六 電線路ノ種類及構造
- 七 電氣鐵道ノ方式、最大電壓及單線式ニ在輕便鐵道法施行規則

- 八 自動車又ハ機關車内ニ裝置スル電動機ノ種類、筒數馬力數、制動機ノ種類並其ノ他附屬器具機械ノ種類、筒數及其ノ裝置法
- 第十三條 工事施行ノ認可ヲ申請スル場合ニ於テ停車場、橋梁、車輛及電氣ニ關スル設計ヲ確定スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ具シ大體ノ設計ヲ定メテ之ヲ認可ヲ受クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ更ニ詳細ナル設計ヲ定メ認可ヲ受クルコトヲ要ス
- 第十四條 工費豫算書ハ第三號様式ニ依リ調製スヘシ
- 工費豫算總額ヲ變更スルトキハ前項ノ様式依リ新舊ヲ對照シ理由ヲ附シ其ノ都度之ヲ届

輕便鐵道法施行規則

出ツヘシ

第十五條 工事施行ノ認可ヲ其ノ指定期限内ニ申請スルコト能ハザルトキハ其ノ理由ヲ具シ地方長官ヲ經由シテ期間ノ伸長ヲ申請スルコトヲ得

第十六條 工事方法ヲ變更セムトスルトキハ新舊事項ヲ對照シ理由ヲ附シ認可ヲ受クヘシ  
第十七條 認可ヲ經タル工事方法ノ範圍内ニ於テ左ノ變更ヲ爲シタルトキハ理由ヲ具シ其ノ都度之ヲ届出ツヘシ

- 一 踏切道、道路及河川附替工事ノ伸縮増減
- 二 橋梁及隧道ノ伸縮増減
- 三 停車場ニ於ケル諸建造物及側線ノ伸縮増減

二四二

四 車輛ノ増加

五 車輛ノ改造

第十八條 線路ヲ變更セムトスルトキハ理由書及新舊對照圖面ヲ添附シ認可ヲ受クヘシ  
左記各號ニ該當スルモノハ前項ノ書類圖面ヲ添附シ其ノ都度之ヲ届出ツヘシ

一 線路中心線ノ異動カ實測平面圖ニ記セル最初ノ位置ヨリ市街又ハ家居稠密ノ地ニ於テハ左右各半鎖其ノ他ニ於テハ各五鎖以内ニ在ルトキ

二 施工基面高低ノ變更カ實測斷面圖ニ記セル最初ノ位置ヨリ市街又ハ家居稠密ノ地ニ於テハ二呎其ノ他ニ於テハ六呎以内ニ在ルトキ

線路ノ變更カ内務省直轄河川又ハ著名ノ建造物所在地ニ關係ヲ有スルトキハ前項ノ規定ニ該當スル場合ト雖認可ヲ受クルコトヲ要ス

停車場、停留場、聯絡所及信號所ノ名稱ヲ變更シタルトキハ其ノ都度之ヲ届出ツヘシ停車場停留場ヲ設置シ又ハ其ノ位置ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十九條 鐵道敷設ノ工事ニ著手シタルトキハ一週間内ニ之ヲ届出ツヘシ

第二十條 運輸開始後假設工事ヲ施行シタルトキハ理由、工事方法及使用期間ヲ記載シ圖面ヲ添附シ其ノ都度之ヲ届出ツヘシ

第二十一條 鐵道ノ事故ハ之ヲ届出ツヘシ

第二十二條 免許ヲ受ケタル者ハ每營業年度末

輕便鐵道施行規則

一月内ニ營業報告書ヲ提出スヘシ

第二十三條 免許ヲ受ケタル者ハ鐵道臺帳ヲ調製シ之ヲ備置クヘシ

第二十四條 免許ヲ受ケタル者ハ鐵道統計ヲ調製シ之ヲ提出スヘシ

第二十五條 會社ニ於テ商法ニ依ル登記ヲ爲シタルトキ又ハ定款ヲ變更シタルトキハ其ノ都度之ヲ届出ツヘシ

第二十六條 他ノ鐵道又ハ軌道ト連絡運輸又ハ直通運輸ヲ爲ストキハ左ノ事項ヲ記載シ契約書ノ謄本ヲ添附シ實施後一週間内ニ之ヲ届出ツヘシ

一 連帶驛名

二 旅客及荷物取扱方法

二四三

輕便鐵道法施行規則附屬第一號樣式

何々間敷設費用概算書

輕便鐵道法施行規則

何々間敷設費用概算書		哩 鎖 節			
項	數 量	平均單價	金 高	備 考	
測量及監督費					
用地費	設坪				
土工費	延長				
橋梁費	哩				
隧道費	哩				
軌道費	哩				
電線路費	哩				
停車場費	處				
車輛費					
諸建物費					
發電所費					
...					
...					
總 計			...		敷 設 費
合計			...		...
一哩ニ付			...		...
					總 計

- 輕便鐵道施行規則
- 三 賃金割賦方法
  - 四 共用停車場、倉庫等ニ關スル使用料及其ノ他ノ事項
  - 五 線路及車輛ノ使用料並遲滯料等ニ關スル事項
  - 六 運輸上責任負擔方法
  - 七 運輸開始ノ年月日
- 第二十七條 輕便鐵道ノ抵當ノ取扱ニ關シテハ軌道抵當取扱規則第一條、第三條、第五條及第六條ノ規定ヲ準用ス
- 第二十八條 免許失効シタルトキハ遲滯ナク地方長官ヲ經由シ免許狀ヲ返納スヘシ
- 附 則
- 本令ハ輕便鐵道法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス



輕便鐵道法施行規則

何鐵道實測線

何々間工

哩 鎖

輕便鐵道法施行規則

項	目	數量	平均單價	金 高	合 計
		哩	円	円	円
測量及監督費 用地費	線路用地	段			
	停車場用地	"			
	發電所用地	"			
土工費	切取	立坪			
	築築	延長呎			
橋梁費	何川橋梁	"			
	何川外何箇所	箇所			
鐵道費	何々隨道	延長呎			
	何々外何箇所	"			
軌道費	軌條及附屬品	哩			
	枕木	立坪			
電線路費	砂敷	哩			
	鐵道電氣	哩			

二四九

附屬第三號樣式

費豫書

節

輕便鐵道法施行規則

項	目	數量	平均單價	金 高	合 計
			円	円	輛
停車場費	何々				
	何箇所				
車輛費	機關車	輛			
	客車	"			
諸建物費	發電所				
	發電機				
總費計	一				
	二				

二四八

○輕便鐵道營業規程

(明治四十三年八月二日) 閣令第一三三號

第一章 總則

第一條 本規程ハ一般運送ノ用ニ供スル輕便鐵道ニ之ヲ適用ス

第二條 輕便鐵道ハ特別ノ事由アル場合ニ於テハ許可ヲ受ケ本規程ノ條項ニ依ラサルコトヲ得

第三條 自動車ニハ機關車及列車ニ關スル規定ヲ準用ス

第二章 建設

第四條 建築定規ト車輛定規トハ鐵道ノ狀態ニ應シ相互間ニ適當ノ間隔ヲ存シテ之ヲ定ムル

コトヲ要ス

第五條 蒸氣ヲ動力トスル鐵道ノ軌間ハ特別ノ場合ヲ除クノ外三呎六吋トス

第六條 本線路ニ在ル曲線ノ半徑ハ停車場内其ノ他特別ノ場合ヲ除クノ外五鎖以上ナルコトヲ要ス

第七條 線路ノ勾配ハ特別ノ場合ヲ除クノ外二十五分ノ一ヨリ急ナラサルコトヲ要ス

第八條 交通頻繁ナル道路上又ハ通船頻繁ナル河川ニ架設スル橋梁ハ車輛ノ幅及其ノ兩側各六吋以上軌道面下ヲ蓋フコトヲ要ス

第九條 閉塞式ヲ施行スル線路ニ於テハ自動閉塞信號ニ依ル場合ヲ除クノ外停車場間ニ在ル閉塞區間ノ境界點ニ信號所ヲ設クルコトヲ要ス

ス

第十條 閉塞區間ノ境界點ニ於ケル停車場(自動閉塞信號ニ依ル場合ヲ除ク)單線ニ於テ列車ノ行違ヲ爲ス停車場並聯絡所及信號所ニハ特別ノ場合ヲ除クノ外常置信號機ヲ設クルコトヲ要ス

第十一條 乗客多キ停車場ニハ待合所其ノ他相當ノ設備ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條 線路ニハ左ノ標識ヲ設クルコトヲ要ス

一 每半哩ノ距離ヲ示ス哩程標

二 本線路ニ接續スル側線又ハ支線アル場所ニハ車輛ノ停止區域ヲ示ス警標

三 交通頻繁ナル踏切道ニハ通行人ノ注意ヲ輕便鐵道營業規程

惹クヘキ警標

第十三條 保安上特ニ必要ナル場所ニハ堤塘、柵垣又ハ溝渠ヲ設クルコトヲ要ス

交通頻繁ニシテ且展望惡シキ踏切道ニハ門扇其ノ他相當ノ保安設備ヲ爲スコトヲ要ス

第十四條 車輛ニハ特別ノ場合ヲ除クノ外擔彈機及彈性ノ聯結裝置ヲ備フルコトヲ要ス

第十五條 電氣ヲ動力トスル機關車ニハ左ノ裝置ヲ爲スコトヲ要ス

一 特別ノ場合ヲ除クノ外前後ニ制御機ヲ設クルコト

二 自動遮斷器ヲ附スルコト

三 架空線式ノ場合ニ於テハ避雷器ヲ設クルコト



輕便鐵道營業規程

二五二

- 四 警鐘又ハ警笛ヲ備フルコト
- 五 乘務員間ノ合圖器ヲ備フルコト
- 六 前後ニ排障器ヲ附スルコト
- 七 他ノ制動機ノ裝置アル場合ニ於テモ手用制動機ヲ備フルコト

第十六條 客車内ノ面積ハ旅客定員一人ニ付平均三平方呎ヨリ小ナルコトヲ得ス但シ起立乘客ニ對スル相當ノ設備アル場合ニ在リテハ之ヲ縮小スルコトヲ得

特別ノ場合ヲ除クノ外客車窓硝子ノ面積ハ旅客定員一人ニ付六十平方呎ヨリ小ナラサルコトヲ要ス

客車内各室ニハ點燈裝置ヲ爲スコトヲ要ス

第十七條 電氣工作物ハ電氣上ノ危害ヲ生スル

ノ虞ナキ様特ニ施設ヲ爲スコトヲ要ス

第十八條 架空電車線ハ直徑十分ノ三吋以上ノ圓形ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強度ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

電車線ハ特別ノ場合ヲ除クノ外之ヲ建築定規ノ範圍外ニ架渉スヘシ

發電所及變壓所ニハ相當ノ豫備機械ヲ備フルコトヲ要ス

第十九條 鐵道建設規程第十七條第三項、第二十二條、第三十二條、第四十三條、第四十四條第四項及第四十五條ノ規定ハ輕便鐵道ニ之ヲ準用ス

第三章 運轉

第二十條 線路ハ常ニ危險ナク列車ヲ運轉スル

コトヲ得ヘキ狀態ヲ保持スルコトヲ要ス

線路ハ毎日少クトモ一回從事員ヲシテ巡視セシムヘシ

第二十一條 本線路ニ在ル轉轍器ハ列車又ハ車輛力對向通過ノ際之ヲ鎖錠シ置クカ又ハ其ノ取柄ヲ支持スヘシ但シ安全裝置ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 交通頻繁ナル道路ニシテ遠方ヨリ展望スル能ハサル踏切其ノ他必要ナル箇所ニハ列車運轉中番人ヲ置キ之ヲ看守セシムヘシ

第二十三條 電氣ヲ動力トスル機關車ハ使用前及使用開始後少クトモ一年毎ニ一回電動機其ノ他ノ各部ヲ検査シ同時ニ電氣上ノ試験ヲ爲スヘシ一年内ト雖重要ナル修繕ヲ施シタルト

キ亦同シ

試驗及検査ノ成績ハ帳簿ニ詳記シ最終検査ノ年月ハ機關車ニ之ヲ標記スヘシ

第二十四條 停車場内ノ運轉其ノ他特別ノ場合ヲ除クノ外列車ハ其ノ左方ノ線路ヲ進行スヘシ

第二十五條 各列車ニハ少クトモ左表ニ掲クル區別ニ依リ該列車力有スル車輛ノ數ニ比例シタル制動機(車輛制動機ヲ除ク)ヲ備フヘシ

輕便鐵道營業規定

二五三

線路ノ勾配	百分ノ平均速度		一列ノ平均速度	一時間ノ平均速度	一時間ノ平均速度	一時間ノ平均速度
	上	下				
二十五分	四〇	三三	二二	二二	二二	二二
二十分	四九	四一	二五	二五	二五	二五
四十分	四九	四一	二五	二五	二五	二五
五十分	二八	二八	二〇	二〇	二〇	二〇
六十分	二八	二八	二〇	二〇	二〇	二〇
七十分	二八	二八	二〇	二〇	二〇	二〇
八十分	二八	二八	二〇	二〇	二〇	二〇
九十分	二八	二八	二〇	二〇	二〇	二〇
百分	二八	二八	二〇	二〇	二〇	二〇
百分ノ以下	二八	二八	二〇	二〇	二〇	二〇

前表ニ依リ制動機ヲ附スヘキ車輪ノ數ヲ算出スルニハ左ノ規定ニ依ル

一 表中ニ掲クル勾配又ハ速度ノ中間ニ位スルモノハ制動機數ノ多キモノヲ取ルヘシ

二 最急勾配五十鎖以上續クトキハ其ノ勾配ヲ以テ標準ト爲スヘシ若シ最急勾配カ何レノ箇所ニ於テモ其ノ長五十鎖ニ達セサルトキハ五十鎖ノ距離ニ於テ高低ノ差ノ最大ナル部分ヲ取り其ノ兩端ヲ連接スル

直線ノ勾配ヲ以テ標準ト爲スヘシ

三 機關車及炭水車ハ相當ノ率ニ依リ其ノ軸數ヲ換算スヘシ

四 貨車ノ空虛ナルモノニ在リテハ其ノ一軸ヲ以テ半軸ニ換算スヘシ

五 計算上軸數ニ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ一位ニ切上クヘシ

トリ勾配線ヲ運轉スル場合ヲ除クノ外前部機關車及炭水車ノ車軸ヲ計算外トシ列車ヲ備フ

ル制動機ノ數カ前表十哩ノ速度ニ應スル割合ニ達セサルトキハ之ヲ該割合以上ニ増加スヘシ

旅客列車ノ制動機ヲ要スル軸數ハ其ノ機關車及炭水車ニ備フルモノヲ除キ二箇ヨリ少カルヘカラス

二十五分ノ一ヨリ急ナル勾配ヲ有スル線路ニ於テ運轉シ、車輪ニ直働セサル制動機ヲ使用シ又ハ前表ニ掲クル平均速度ヲ超過スル場合ニ於ケル制動機數ハ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

第二十六條 線路ノ勾配カ二百分ノ一ヨリ急ナルトキハ列車ノ後部(推進ノ場合ニハ前部)ニ在ル車輛ニハ手用制動機ノ裝置アルコトヲ要ス如何ナル場合ニ於テモ後部(推進ノ場合ニ

ハ前部)ノ車輛ニハ適當ナル職員ヲ乗込マシムヘシ

第二十七條 二車以上ニ跨ル貨物ヲ積載シタル貨車ハ特別ノ裝置ヲ施シタル場合ニ限り旅客列車ニ聯結スルコトヲ得但シ三車以上ニ跨ルモノハ客車ヨリ二輛以上ヲ隔テ聯結スルヲ要シ其ノ運轉速度一時間十五哩ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十八條 列車ハ停車場又停留場以外ノ場所ニ於テ旅客貨物取扱ノ爲停車場スルコトヲ得ス

第二十九條 隣接シタル停車場、聯絡所又ハ信號所間ニ於テハ同一軌道ニ同時ニ一列車ノ外運轉スルコトヲ得ス

左ニ掲クル場合ニ於テハ續行列車ヲ運轉スル

輕便鐵道營業規程

コトヲ得

- 一 列車ノ平均速度一時間十哩ヲ超ヘサルト
  - 二 單線ニシテ五十鎖ノ距離ニ於テ高低ノ差ノ最大ナル部分ヲ取り其ノ兩端ヲ連接スル直線ノ勾配力五十分ノ一ヨリ緩ナルト
- 續行列車運轉ノ場合ニ於テハ其ノ速度ニ應シ兩列車間ニ相當隔離時間アルコトヲ要ス  
 列車運轉上ノ保安ニ關スル規定ハ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ
- 第三十條 停車場ニ於ケル車輛入レ換ハ列車カ隣接停車場、聯絡所又ハ信號所ヨリ該停車場ニ向ヒ出發ノ後ハ相當ノ防護ヲ爲スニ非サレ

二五六

ハ場内信號ノ防護區域外又ハ常置信號ノ設ケナキ停車場ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條 電氣ヲ動力トスル機關車ニ於テ運轉車其ノ位置ヲ離ルル場合ニハ制動機ノ取柄ヲ外シ置クヘシ

第三十二條 列車ノ運轉ニ關シテハ當務者ナシテ毎日列車ノ組成發着時刻其ノ他必要ナル事項ヲ記載シタル報告書ヲ調製セシムヘシ

第三十三條 鐵道運轉規程第二條第三項、第五條、第七條乃至第十一條、第十八條、第十九條、第一項第七項、第二十二條第四項第五項、第二十五條、第二項第三項、第二十六條及第二十八條ノ規定ハ輕便鐵道ニ之ヲ準用ス

第四章 信號

第三十四條 鐵道信號規程ハ輕便鐵道ニ之ヲ準用ス

鐵道信號規程第十七條ノ距離ハ四分ノ一哩迄之ヲ短縮スルコトヲ得

列車ノ前部ニ掲クル信號ハ白色燈ノ外之ヲ省略スルコトヲ得

列車ノ後部ニ掲クル信號ハ緩急車ノ兩側ニ掲クル圓板及燈ヲ省略スルコトヲ得

第五章 運輸

第三十五條 鐵道運輸規程ハ輕便鐵道ニ之ヲ準用ス

第三十六條 鐵道運輸規程第五條、第十九條第二項、第二十條、第三十一條及第四十五條ノ規程ハ停留場ニ之ヲ準用ス

輕便鐵道營業規程

第三十七條 傳染病患者鐵道乘車規程及火藥類

鐵道運送規程ハ輕便鐵道ニ之ヲ準用ス

第六章 職制

第三十八條 輕便鐵道ニ左ノ係員ヲ置ク

- 營業長
- 驛長
- 車掌
- 運轉手
- 保線手
- 電氣主任

第三十九條 營業長ハ鐵道ノ運輸、運轉及保存ニ關スル事務ヲ掌理シ所部ノ係員ヲ監督ス

第四十條 驛長ハ營業長ノ指揮ヲ承ケ驛務ヲ處理ス

二五七

簡便鐵道營業規程

第四十一條 車掌ハ營業長ノ指揮ヲ承ケ列車ノ運轉及輸送ノ事務ニ從事ス

鐵道係員職制第六條第二項、第七條及第八條ノ規定ハ簡便鐵道ニ之ヲ準用ス

第四十二條 運轉手ハ營業長ノ指揮ヲ承ケ運轉ノ事務ニ從事ス

運轉手ハ列車運轉中ニ在リテハ車掌、列車カ停車場内ニ在ルトキハ驛長ノ指示ヲ承ケ其ノ事務ヲ執行ス

第四十三條 保線手ハ營業長ノ指揮ヲ承ケ線路ノ修理及保存ニ關スル事務ニ從事ス

第四十四條 電氣主任ハ電氣ヲ動力トスル鐵道ニ限リ之ヲ置ク

電氣主任ハ營業長ノ指揮ヲ承ケ電氣ニ關スル

事務ヲ處理ス

第四十五條 鐵道ハ其ノ狀況ニ依リ第三十八條ニ定メタル係員ノ職務ヲ分チテ別ニ係員ヲ設ケ又ハ其ノ以外ニ係員ヲ置クコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ其ノ職掌ヲ定メ之ヲ届出ツヘシ

第四十六條 鐵道ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ第三十八條ニ定メタル係員以外ニ係員ヲ置カシムルコトアルヘシ

第四十七條 馬車鐵道又ハ之ニ準スヘキ鐵道ニ在リテハ本章ニ依ラス必要ニ應シ相當ノ係員及其ノ職制ヲ定メ之ヲ届出ツヘシ

附則 本令ハ簡便鐵道法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○簡便鐵道會計準則

(明治四十三年八月二日) 閣令 第一四一號

第一條 起業者ハ本令ニ準シ會計ニ關スル規程ヲ設ケ之ヲ届出ヘシ其ノ變更ヲ爲シタルトキ亦同シ

第二條 鐵道ノ會計年度ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外一年又ハ六月トス

第三條 鐵道ノ會計ハ資本勘定ト收益勘定トヲ區別スヘシ

第四條 資本勘定ハ鐵道ノ建設改良等ノ費用ニ充當スヘキ資金、諸借入金等ヲ以テ入トシ鐵道ノ建設費、改良費及貯藏物品ノ購入代金等ヲ以テ出トス

簡便鐵道會計準則

第五條 收益勘定ハ營業上ノ諸收入ヲ以テ入トシ鐵道ノ維持保存ノ費用其ノ他營業上ノ諸費用ヲ以テ出トス

第六條 株式公賣又ハ債券發行ノ結果差損金ヲ生シタルトキハ帳簿ノ記載ハ其ノ券面額ヲ以テシ差損額ヲ明記スルコトヲ要ス

第七條 有價證券ヲ取得シタルトキハ帳簿ノ記載ハ買入又ハ拂込ノ金額ヲ以テスヘシ

第八條 貯藏物品ハ受拂共賣費ヲ以テ出納ヲ爲スモノトス

第九條 財産目錄ニ記載スル財産ノ價格ハ左ノ標準ニ依ルモノトス

一 有價證券ハ購入代價又ハ拂込金額但シ其ノ時價低落シタルトキハ毎年度ノ終ニ於

輕便鐵道法第四條但書ニ依ル敷設許可手續

二六〇

テ時價ニ改定スヘシ其ノ騰貴シタルトキ  
ハ購入代價又ハ拂込金額ヲ限度トシ増加  
スルコトヲ得

二 身元保證及契約保證ノ有價證券ハ其ノ保  
證金額

三 前各號以外ノ財産ハ實費決算額

第十條 資本收益兩勘定ニ關聯スル費用ハ一  
定ノ標準ヲ定メ區分スルコトヲ要ス

第十一條 他ノ業務ヲ營ム場合ニ於テハ鐵道ノ  
會計ハ他ノ會計ト區別シテ整理スヘシ但シ相  
互關聯ノ收入及支出ハ一定ノ標準ヲ定メ區分  
スルコトヲ要ス

第十二條 免許、補助其ノ他必要ト認ムル場合  
ニ於テハ前數條ノ規定ニ拘ラス會計ニ關シ特

別ノ事項ヲ指定スルコトヲ得  
附則

本令ハ輕便鐵道法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○輕便鐵道法第四條但書ニ依ル

敷設許可手續(明治四十三年八月二日)

(內務省令第二七號)

第一條 輕便鐵道法第四條但書ニ依リ線路敷設  
ノ許可ヲ得ントスル者ハ道路上ニ敷設スル必  
要ナル事由ヲ詳記シ左ノ書類及圖面ヲ具シ敷  
設地ノ地方長官ヲ經由シテ內務大臣ニ申請ス  
ヘシ

一 起業目論見書

二 工事方法概略書

三 全線路ノ豫測平面圖及道路上ニ敷設ス可

キ線路ノ豫測圖並説明書

四 道路トニ於ケル敷設費ノ概算書

第二條 全線路ノ豫測平面圖ハ縮尺一吋三十釐  
(二萬分ノ一ヲ以テ代用スルコトヲ得)トシ沿  
線ノ地勢市街村落附近ノ道路及既設又ハ未設  
ノ鐵道又ハ軌道及其ノ名稱ヲ記入ス可シ

第三條 道路上ニ敷設ス可キ線路ノ豫測圖ハ左  
ノ二種トス

一 豫測平面圖

縮尺ハ五千分ノ一トシ鐵道ノ中心線ハ赤  
色ヲ以テ之ヲ彩リ鐵道ヲ敷設セントスル  
國道縣道里道ノ分界並其ノ地名及沿線ノ  
地勢市街村落附近ノ道路又ハ未設ノ鐵道  
又ハ軌道及其ノ名稱等ヲ明ニシ距離ハ百  
輕便鐵道法第四條但書ニ依ル敷設許可手續

間毎ニ記入ス可シ

二 豫測縱斷面圖

縮尺ハ平面圖ト同一ニシテ高ハ縮尺五百  
分ノ一トシ鐵道中心線路面ノ高低(黑色)  
鐵道面ノ高低(赤色)及隧道橋梁ノ長鐵道  
ノ勾配並其ノ距離ヲ記入ス可シ

第四條 線路豫測圖ノ説明書ニハ沿線ノ地勢及  
線路攙定ノ理由ヲ詳記シ附近ノ道路、市街、  
村落、池沼、河川、港灣、社寺、公園、名所、  
舊蹟、學校、病院、兵營、工場等重ナルモノ  
トノ關係ヲ説明ス可シ

第五條 道路上ニ於ケル敷設費ノ概算書ニハ其  
ノ總額及用地、橋梁、溝渠、伏樋、隧道、軌  
道、土工、雜費其ノ他各種ノ項目ニ區別シ其

二六一

輕便鐵道法第四條但書ニ依リ線路敷設許可申請者アル場合進達方ノ件二六二  
ノ金額ヲ記載スヘシ

第六條 本則ニ規定シタルモノノ外必要ナル事  
項ハ許可ノ際命令書ヲ以テ之ヲ定ム

○輕便鐵道法第四條但書ニ依リ  
線路敷設許可申請者アル場合  
進達方ノ件 (明治四十三年八月二日  
內務省訓令第一三號)

廳 府 縣

明治四十三年法律第五十七號輕便鐵道法第四條  
但書ニ依リ線路敷設ノ許可ヲ申請スル者アルト  
キハ明治三十四年本省訓令第十七號ニ準シ意見  
書ヲ調製シ命令書案ヲ添付シテ之ヲ本大臣ニ進  
達ス可シ

○輕便鐵道事故届出ニ關スル規程

(明治四十三年十一月十七日  
內閣告示第一三號)

第一條 鐵道地内ニ生シタル事故中衝突、顛覆、  
死傷者ヲ生シタル運轉上ノ事故、十二時間以  
上列車運轉ヲ廢止セル事故其ノ他重大ナル事  
故ハ即時電信ヲ以テ報告シ尙三日内ニ第一號  
書式ニ依リ届出ツヘシ

第二條 前條以外ノ事故ハ一箇月分ヲ取纏メ翌  
月十五日限リ第二號書式ニ依リ届出ツヘシ

第一號書式 (用紙美濃紙)

事故種別	脫線、衝突、顛覆等
發生日時	年 月 日 時 分
場 所	停車場又ハ起點ヨリ哩數(何驛間)
當該列車又ハ機 關車若ハ車輛	機關車、車輛及列車ノ種類並番號
現場ノ狀況及損 害ノ有無	詳細ニ記載シ必要ニ依リ圖面ヲ添附ス
死 傷 者	死傷ノ員數、旅客、公衆、職員ノ別、負傷ノ輕重等
停止時間	
事故原因	期間内ニ取調ヲ了セサルトキハ結了次第届出ツヘキモノトス
當時ノ處置	

輕便鐵道事故届出ニ關スル規程

輕便鐵道事故届出ニ關スル規程

當務者處分ノ顛末

期間内ニ處分ヲ了セサルトキハ結了次第届出ツヘキモノトス

備考

第二號書式 (用紙美濃紙)

發年	生月	生日	場所	事故種類	原因

當務者分

備考

注意 事故其ノ他ノ欄ニハ第一號書式記載ノ例ニ準シ要領ヲ摘記スヘシ

○輕便鐵道營業報告樣式

(明治四十三年十一月十七日) 內閣告示第一四號

輕便鐵道營業報告書ハ私設鐵道法第六十六條營業報告書樣式ニ準據シテ之ヲ調製スヘシ

○輕便鐵道臺帳規程

(明治四十三年十一月十七日) 內閣告示第一五號

輕便鐵道營業報告樣式 輕便鐵道臺帳規程

○輕便鐵道統計規程

(明治四十三年十一月十七日) 內閣告示第一六號

輕便鐵道統計ニ關シテハ鐵道統計規程第一條乃至第四條ノ規定ヲ準用ス

輕便鐵道統計規程

○輕便鐵道補助法

(明治四十四年三月二十一日  
法律第一七七號)

改正 大正 第三 年  
法律 第四 一 號

第一條 輕便鐵道ニ於テ每營業年度ニ於ケル益  
金カ建設費ニ對シ一年五分ノ割合ニ達セスト  
認ムルトキハ政府ハ該鐵道營業開始ノ日ヨリ  
十年ヲ限り其ノ不足額ヲ補給スルコトヲ得但  
シ營業收入ノ營業費ニ不足スル金額ニ對シテ  
ハ之ヲ補給スルコトヲ得ス

前項ノ建設費、營業費、營業收入及益金ハ命  
令ノ定ムル所ニ依リ算出シタル金額ニ依ル  
第二條 補助ヲ爲スヘキ輕便鐵道ハ二呎六吋以

上ノ軌間ヲ有スルモノニ限ル

第三條 第一條ノ補助金ノ年額ハ明治四十四年  
度ニ於テハ二十五萬圓爾後毎年度二十五萬圓  
ヲ累加シ百二十五萬圓ニ至リテ止ム

第四條 (削除)

第五條 (削除)

第六條 輕便鐵道ノ管理者カ法令若ハ法令ニ基  
キテ發スル命令、免許若ハ補助ニ附シタル條  
件ニ違反シ又ハ公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタ  
ルトキハ政府ハ其ノ補助ヲ停止又ハ廢止スル  
コトヲ得

第七條 詐欺ノ所爲ヲ以テ補助金ヲ受ケタルト  
キハ法定ノ利息ヲ附シテ之ヲ償還セシム  
前項ノ償還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ

徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅  
ニ次クモノトス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
本法施行ノ日ヨリ十年ヲ經過シタルトキハ新ニ  
補助ヲ爲スコトヲ得ス

○輕便鐵道補助法施行期日ノ件

(明治四十四年十二月二十三日  
勅令 第二一九一號)

輕便鐵道補助法ハ明治四十五年一月一日ヨリ之  
ヲ施行ス

○輕便鐵道補助金概算渡ノ件

(明治四十四年十二月二十三日  
勅令 第二九二號)

輕便鐵道補助法施行期日ノ件 輕便鐵道補助金概算渡ノ件

輕便鐵道補助法ニ依リ交付スル補助金ハ一年未  
滿ノ期間ヲ以テ營業年度トスル輕便鐵道ニ對シ  
テハ營業年度經過後其ノ期間ニ相當スル割合ヲ  
以テ概算渡ヲ爲スコトヲ得

附 則

本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○輕便鐵道補助法施行規則

(大正三年九月二十一日  
閣令 第三三號)

輕便鐵道補助法施行規則左ノ通改正ス

輕便鐵道補助法施行規則

第一條 輕便鐵道補助法ニ依リ補助ヲ受ケムト  
スル者ハ附屬第一號乃至第五號様式ニ依リ建  
設費明細表竝一年間ノ運輸數量、營業收入、營



輕便鐵道補助法施行規則

業費及益金ノ計算表ヲ具シ内閣總理大臣ニ申請スヘシ

第二條 輕便鐵道補助法第一條ノ建設費、營業

收入、營業費及益金ハ左ノ各號ノ額ニ依ル

一 建設費ハ當該輕便鐵道ノ豫算額及決算額

ヲ基礎トシ政府ノ査定シタル額

二 營業收入ハ當該輕便鐵道ノ運輸收入決算

額

三 營業費ハ左ノ公式ニ依リ計算シタル一日

一哩ノ營業費ニ基キテ算出シタル額

Wハ圓ヲ單位トスル一日一哩ノ營業費

Rハ封度ヲ單位トシテ計算シタル列車ノ

重量一噸ノ平均抵抗力

Tハ一日一哩ノ平均運輸數量(乗客人員

二六八

ト貨物噸數ニ蒸氣ヲ動力トスル軌間三呎六吋ノモノニ在リテハ一・七ヲ、同二呎六吋ノモノニ在リテハ二・二ヲ、電氣ヲ動力トスルモノニ在リテハ二・〇ヲ乘シタルモノトノ和)

蒸氣ヲ動力トスル軌間三呎六吋ノモノ

$$W = 5.50 + (0.001 + 0.0002R)T$$

蒸氣ヲ動力トスル軌間二呎六吋ノモノ

$$W = 5.50 + (0.0029 + 0.00014R)T$$

電氣ヲ動力トシ列車ノ重量十八噸以上ニシテ其ノ一噸ニ對スル電動機ノ容量七馬力以上ノモノ

$$W = 5.00 + (0.0038 + 0.000165R)T$$

電氣ヲ動力トシ列車ノ重量十八噸未滿ノ

モノ又ハ其ノ一噸ニ對スル電動機ノ容量七馬力未滿ノモノ

$$W = 5.00 + (0.0042 + 0.000078R)T$$

前二種ノ列車ヲ併セテ運轉スル場合ニ於テハ各種列車ノ走行哩ノ割合ニ依リTヲ按分シテ計算ス

以上各種ニ屬セサルモノニ在リテハ補助

命令書ニ定ムル公式ニ依ル

四 益金ハ第二號ノ營業收入ヨリ前號ノ規定

ニ依リ算出シタル營業費ヲ控除シタル殘額

但シ法定準備金ノ積立ヲ爲ス場合ニ於テハ

益金ノ二十分ノ一ハ之ヲ益金ニ算入セス

第三條 社債及借入金ノ支出ハ固有資金ノ支出

ノ後ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

輕便鐵道補助法施行規則

第四條

一年未滿ノ期間ヲ以テ營業年度トスル場合ニ於テハ益金ハ一年ヲ通シテ算出シタル額ヲ各期間ノ日數ノ割合ニ依リ分割シテ之ヲ定ム但シ營業年度ノ中間ニ於テ營業ヲ開始スルトキハ當該營業年度開始ノ日ヨリ一年內ニ於テ營業ヲ爲シタル期間ヲ通シテ算出シタル額ニ依ル

一 營業年度內ニ於テ補助ヲ受クル期間及補助

ヲ受ケサル期間ノ益金ハ當該營業年度ノ益金

ヲ各期間ノ日數ノ割合ニ依リ分割シテ之ヲ定

ム

第五條

建設費ニ對スル益金ノ割合ハ一年ノ日數ヲ以テ補助日數ヲ除シタルモノヲ建設費ニ乘シタル額ト當該補助期間ノ益金トノ割合ニ

二六九

輕便鐵道補助法施行規則

依リテ之ヲ定ム

第六條 區間ヲ分チテ漸次營業ヲ開始スル場合  
ト雖第四條ノ規定ニ依リ益金ヲ通算スヘキ期  
間及其ノ期間内ニ於テ補助ヲ受クル期間ノ一  
致スル區間ニ付テハ建設費、營業收入、營業費  
益金及補助金ハ各區間ヲ通シテ之ヲ計算ス但  
シ第四條ノ規定ニ依リ益金ヲ通算スヘキ期間  
ノ區分ハ最先ニ補助ヲ開始スル區間ニ依ル  
前項ノ場合ニ於テハ補助開始ノ日ノ屬スル營  
業年度ノ益金ニ付テハ第四條第一項ノ規定ニ  
依ラサルコトヲ得

第七條 補助ヲ受クル區間及補助ヲ受ケサル區  
間ノ運輸收入ハ開業全線ノ當該營業年度ノ運  
輸收入決算額ヲ各區間ニ於ケル運輸數量ノ割

二七〇

合ニ依リ分割シテ之ヲ定ム補助ヲ受クル區間  
ヲ分チテ計算スル場合亦同シ

第八條 補助ヲ受クル輕便鐵道ハ營業年度毎ニ  
第六號乃至第二十四號様式ニ依リ建設費豫算  
決算差引對照表、營業收入決算表、營業費決  
算表、運輸數量及列車走行哩表、線路曲線表  
並線路勾配表ヲ提出スヘシ但シ前年度ニ比シ  
異動ナキモノニ限リ其ノ旨ヲ記シテ之ヲ省略  
スルコトヲ得

第九條 區間ヲ分チテ營業ヲ開始スル場合ニ於  
テハ建設費ハ區間毎ニ之ヲ計上スヘシ  
前項ノ場合ニ於テ二區間以上ニ關聯スル建設  
費ハ關係各區間ニ於ケル當該營業年度ノ建設  
費決算額ノ割合ニ依リテ之ヲ分割スヘシ

第十條 建設及營業ニ關聯スル費用ハ當該營業  
年度ニ於ケル建設費及營業費ノ決算額ノ割合  
ニ依リテ之ヲ分割スヘシ

第十一條 補助ヲ受クル輕便鐵道カ他ノ業務ヲ  
營ム場合ニ於テハ相互ニ關聯スル興業費、營  
業收入又ハ營業費ハ當該營業年度ニ於ケル興  
業費、營業收入又ハ營業費ノ決算額ノ割合ニ  
依リテ之ヲ分割スヘシ

前項ノ場合ニ於テ興業及營業ニ關聯スル費用  
ハ當該營業年度ニ於ケル興業費及營業費ノ決  
算額ノ割合ニ依リテ之ヲ分割スヘシ

附則

本令ハ大正三年法律第四十一號施行ノ日ヨリ之  
ヲ施行ス

輕便鐵道補助法施行規則

大正三年法律第四十一號施行ノ際現ニ補助ヲ受  
クル輕便鐵道ニ付テハ同法施行ノ日ノ屬スル營  
業年度ヨリ本令ヲ適用ス

前項ノ輕便鐵道ニシテ其ノ營業費決算額カ第二  
條第三號ノ規定ニ依ル營業費ヲ超ユルモノニ付  
テハ當分ノ内政府ニ於テ算定シタル金額ヲ以テ  
之ニ代フルコトヲ得

二七一

第一號樣式

何々間建設

輕便鐵道補助法施行規則

項	目	數量	平均 單價 円	金額
測量及監督費	俸旅手、 給費當、			
用地費	線路用地、 停車場用地、 發電所用地、	坪 坪 坪		
土工費	取築、 切堤、	立坪 坪		
橋梁費	何川橋、 何川外何橋、 何溝何橋	延長尺 尺 尺		
隧道費	何々隧道	延長尺 尺		
軌道費	軌條及附屬品、 枕砂敷、 設、	哩 立坪 哩		
停車場費	何々驛、 何驛外何所			
車輛費	機關車、 客車	輛 輛		

二七三

費明細表

何哩何鎖

輕便鐵道補助法施行規則

項	目	數量	平均 單價 円	金額 円
諸建物費	貨、車、 本社建、 本倉、	輛 數 數		
電信線費	電電機、 線柱、	哩 本 本		
發電所費	建發、 電、 物機、	哩 又八 數 臺		
變電所費	建變、 壓、 物器、	哩 又八 數 臺		
電線路費	饋送電電、 電電車、 線線柱、	哩 哩 哩		
何總係費	報俸旅手、 酬給費當、			
合一哩 = 計付				

二七二





第十號様式

各事業興業營業關聯費明細表

本表ハ第八號様式ニ準シ調製スヘシ

第十一號様式

建設營業關聯費分割表

自年月日至年月日

事業種別	各事業 專屬興業 費當期決 算額	各事業 專屬營業 費當期決 算額	各事業專 屬興業營 業關聯費 當期決算 額	合計	分割率 (百分 比例)	興業營 業關聯 費分擔 額
輕便鐵道業						
軌道業						
水運業						
電氣業						
倉庫業						
何々						
合計						

第十二號様式

建設營業關聯費明細表

自年月日至年月日

科目	金額	備考
測量及監督費 俸、給、	円	
總係、報酬給、		
報俸、々、		
何、計		
興業營業關聯費分擔額 合計		

雜費等ノ科目ヲ以テ總括記載スルモノアルト  
キハ其ノ主ナルモノノ種類及金額ヲ備考欄ニ  
記載スヘシ

輕便鐵道補助法施行規則

二七九

第九號様式

各事業興業營業關聯費分割表

自年月日至年月日

事業種別	各事業 專屬興業 費當期決 算額	各事業 專屬營業 費當期決 算額	各事業專 屬興業營 業關聯費 當期決算 額	合計	分割率 (百分 比例)	興業營 業關聯 費分擔 額
輕便鐵道業						
軌道業						
水運業						
電氣業						
倉庫業						
何々						
合計						

各事業專屬興業費當期決算額ハ第七號表中當  
期決算額合計ノ金額ヲ記載スヘシ

各事業專屬營業費當期決算額ハ第二十號表中  
當期決算額合計ノ金額ヲ記載スヘシ

各事業專屬興業營業關聯費當期決算額ハ第十  
二號表ノ合計金額ヨリ興業營業關聯費分擔額  
ヲ控除シタル金額ヲ記載スヘシ各事業專屬興  
業費營業費及興業營業關聯費ノ當期決算額ハ  
前三項ニ該當セサルモノト雖モ總テ之ヲ各相  
當關ニ計上スヘシ

輕便鐵道補助法施行規則

二七八

第十五號樣式  
營業收入決算表  
自年月日至年月日

科目	決算額	備考
運輸客	円	
旅客		
手荷物		
郵便		
貨物		
貨車		
貨發		
雜		
車入		
預株		
計關		

前年度ニ比シ著シキ増減アルモノハ其ノ事由  
ヲ備考欄ニ記載スヘシ  
雜入等ノ科目ヲ以テ總括記載スルモノアルト  
キハ其ノ主ナルモノノ種類及金額ヲ備考欄ニ  
記載スヘシ

輕便鐵道補助法施行規則

第十三號樣式  
各區間關聯建設費分割表  
自年月日至年月日

區間	建設費 當期決算額	分割率 百分比	測量及監督費	何々	總係費	各事業 關聯費 分擔額	各事業 關聯費 分擔額	合計
何々間	円		円	円	円	円	円	円
何々間								
合計								

第十四號樣式  
各區間關聯建設費明細表  
自年月日至年月日

科目	金額	備考
測量及監督費	円	
給、々、費		
給、々、費		
給、々、費		
給、々、費		
給、々、費		
給、々、費		
給、々、費		
給、々、費		
給、々、費		
計關		

雜費等ノ科目ヲ以テ總括記載スルモノアルト  
キハ其ノ主ナルモノノ種類及金額ヲ備考欄ニ  
記載スヘシ

輕便鐵道補助法施行規則

第十八號様式

運輸收入區間分割表

自年月日至年月日

區間	哩數	運輸數量	分割率 (百分比) (分例)	分當額	備考
何々間				円	
何々間					
合計					

運輸數量欄ニハ第二十二號表中各相當區間ノ  
延入哩ト延噸哩ニ蒸氣ヲ動力トスル軌間三呎  
六吋ノモノニ在リテハ 1.7 ナ、同二呎六吋ノ  
モノニ在リテハ 2.2 ナ、電氣ヲ動力トスルモ  
ノニ在リテハ 2.0 ナ、其ノ他ノモノニ在リテ  
ハ別ニ指定スル數ヲ乘シタルモノトノ合計ヲ  
記載スヘシ

輕便鐵道補助法施行規則

第十六號様式

各事業關聯營業收入分割表

自年月日至年月日

事業種類	各事業關聯 營業收入當 割率	分割率 (百分比) (分例)	關聯營業 收入分當 額	備考
輕便鐵道業			円	
軌道業				
水運業				
電氣業				
倉庫業				
何々業				
合計				

輕便鐵道補助法施行規則

第十七號様式

各事業關聯營業收入明細表

自年月日至年月日

科目	金額	備考
雑收入	円	
預金利息		
株金延滞利息		
株分書替手数料		
何々		
合計		

雑入等ノ科目ヲ以テ總括記載スルモノアルト  
キハ其ノ主ナルモノノ種類及金額ヲ備考欄ニ  
記載スヘシ





第二十三號樣式  
何々間曲線表

輕便鐵道補助法施行規則

何哩何分												備考	
曲線/起點	曲線/終點	半徑	交角	方向	切ノ長	曲線/度	曲線/長	間長	哩	分	秒		
													備考

二八七

交角トハ兩切線ノ交叉點ニ於ケル偏倚角ヲ謂フ  
補助ヲ受ケサル區間ニ對シテハ本表ヲ提出スルコトヲ要セス

第二十二號樣式  
何々間運輸數量及列車走行哩表

輕便鐵道補助法施行規則

自年月日至年月日		何哩何分		備考
延人哩	延噸哩	列車走行哩	備考	
何月				
何月				
、				
、				
、				
、				
合計				

定期乗車券ニ對スル延人哩ハ當該區間ナ一日一往復乗車スルモノトシテ計算スヘシ  
數區共用ノ乗車券ニ對スル延人哩ハ各區間ヲ平均ニ乗車スルモノトシテ計算スヘシ  
列車單位著シク不同ナルモノニ在リテハ其ノ列車走行哩ヲ區分シテ記載スヘシ  
電氣ヲ動力トスルモノニ在リテハ列車ノ重量(自重ト積重トノ和但シ客車ニ在リテハ定員ニ百二十封度ヲ乘シタルモノヲ積重トス)十八噸以上ニシテ其ノ一噸ニ對スル電動機ノ容量七馬力以上ノモノト其ノ他ノモノトノ列車走行哩ヲ區分シテ記載スヘシ  
營業年度ノ中間ニ於テ補助開始又ハ終了シタルトキハ其ノ月日ヲ備考欄ニ記載スヘシ

二八六



# 露光量違いの為重複撮影

## 軌道條令

二九〇

### ○軌道條令

(明治二十三年八月二十三日)  
法律第七一號

### ○軌道條令取扱方心得

(明治三十四年十月二十五日)  
内務省訓令一七號

改正(四十四年十月)  
内閣訓令第一號

第一條 一般運輸交通ノ便ニ供スル馬車鐵道及其他之ニ準スヘキ軌道ハ起業者ニ於テ内務大臣ノ特許ヲ受ケ之ヲ公共道路上ニ布設スルコトヲ得

第二條 馬車鐵道及其他之ニ準スヘキ軌道布設ノ爲起業者ノ負擔ヲ以テ在來ノ道路ヲ取擴メ又ハ更正シ若ハ更ニ軌道敷ヲ設クルノ必要アルトキハ之ニ要スル土地ハ起業者ニ於テ土地收用法ノ規定ニ依リ内閣ノ認定ヲ經テ之ヲ收用スルコトヲ得

第三條 在來ノ道路ヲ取擴メ又ハ更正シタル部分及新設シタル軌道敷ハ俱ニ道路敷ニ編入ス

明治二十三年法律第七一條軌道條令取扱方自今左ノ通心得ヘシ但明治二十三年内務省訓令第六二號及明治二十七年訓令第六六四號訓令ハ之ヲ廢ス

第一條 願書ニハ起業目論見書工事方法概略書並圖面、線路豫測圖(縮尺二萬分ノ一以上)、工費概算書及營業上ノ收支概算書ヲ添付セシムルコトヲ要ス

第二條 地方長官ハ軌道ヲ敷設スヘキ公共道路

# 軌道條例關係法令

軌道條例

## ○軌道條例令

(明治三十三年八月二十二日 法律第七十七號)

第一條 一般運輸交通ノ便ニ供スル馬車鐵道及

其他之軌道ハ其軌道ノ起業者ニ於テ內務大臣ノ特許ヲ受ケ之ヲ公共道路トシテ布設スルコトヲ得

第二條 馬車鐵道及其他之軌道ハ其軌道布設ノ爲起業者ノ負擔ナリ。在來ノ道路ヲ取捨シ又ハ更正シ若シ更正ノ軌道敷ヲ設クルニ必要ナルトキハ之ニ要スル土地ハ起業者ニ於テ土地收用法ノ規定ニ依リ內閣ノ認定ヲ經テ之ヲ敷用スルコトヲ得

第三條 在來ノ道路ヲ取捨シ又ハ更正シタル部分及新設シタル軌道敷ハ俱ニ道路敷ニ編入ス

二九〇

## ○軌道條例取扱方心得

(明治三十四年十月二十五日 內務省訓令第七號)

改正(四十四年十月 內閣訓令第一號)

明治三十三年法律第七十一條軌道條例取扱方自今左ノ通心得ヘシ但明治三十三年內務省訓令第六十二號及明治三十七年訓令第六十四號訓令ハ之ヲ廢ス

第一條 願書ニハ起業目論見書工事方法概略書並圖面、線路探測圖縮尺二萬分ノ一以上、工費概算書及營業上ノ收支概算書ヲ添付セシムルコトヲ要ス

第二條 地方長官ハ軌道敷設ニハ公共道路

ノ維持費ヲ負擔スル府縣郡市町村其ノ他公共團體ノ議會若ハ之ニ準スヘキ議會ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス但軌道力單ニ道路ヲ橫斷スルニ止マルトキハ此ノ限ニ在ラス

府縣制又ハ郡制實施ノ地方ニ於テ府縣郡會召集ノ時期ニアラサル場合ニ出願アリタルトキハ其ノ府縣郡參事會ノ意見ヲ以テ前項府縣郡會ノ意見ニ代フルコトヲ得

第三條 地方長官ハ意見書ヲ作り別記命令書雜形ニ準シ土地ノ狀況ヲ斟酌シテ命令書案ヲ調製シ之ニ添付スヘシ

電氣以外ノ原動力ノ場合ニ於テハ其ノ原動力ノ種類ニ應シ命令書案ヲ調製スルコトヲ要ス命令書案第一條ニ記載スヘキ軌道敷設線路ノ

軌道條令取扱方心得

發著點ニハ市區町村字名並番地若ハ地先番地ヲ掲記シ其ノ經過線路ハ成ルヘリ細別シ國縣里道若ハ新設軌道敷ノ種類ニ應シ經過線路ノ順序ニ從テ列記スヘシ

第四條 命令書案雜形第五條第一項第四號及第五號中ニ規定セル幅員ハ最少限ヲ示セルモノナレハ命令書案調製ニ當リテ地方長官ハ交通上ノ關係ハ勿論其ノ他軌道敷設ノ爲生スヘキ利害ヲ比較シテ周到ナル審査ヲ爲シ單ニ現在ノ利害ノミナラス將來交通上ノ得失ヲ參酌シ適當ナル制限ヲ設クルコトヲ要ス

第五條 命令書案雜形第五條第一項第十一號ノ屈曲ノ半徑ニ關スル規定ハ車體ノ構造ニ依リ相當變更スルコトヲ妨ケス

軌道條例取扱方心得

二九二

- 第六條 保證金ハ工事著手前ニ差出サシムヘシ
- 第七條 車輛進行ノ速度ハ道路上ニ在リテハ一時八哩以内専用軌道敷ニ在リテハ踏切其ノ他危険ノ虞アル場所ヲ除クノ外一時間二十五哩以内ニ於テ相當制限スルコトヲ妨ケス
- 第八條 地方長官ニ於テ交通ノ狀況及車體ノ構造ニヨリテハ二車ニ限リ聯結進行セシムルモ支障ナシト認ムルトキハ命令書案難形第十四條ヲ變更スルコトヲ得但此ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ副申スヘシ
- 第九條 地方長官ハ運輸開始許可ノ申請アリタルトキハ工事方工事方法書ニ違反セルコトナキヤ又ハ軌道ノ設備力運輸ヲ開始スルニ不適當ナルコトナキヤ否ヤ嚴正検査スヘシ

- 第十條 特許狀並命令書ヲ交付シタルトキハ請書ヲ徴シ之ヲ進達スヘシ  
特許狀並命令書交付ノ時日ハ之ヲ報告スヘシ  
(別記)
- 命令書案難形
- 第一條 今般何某ニ對シ特許シタル軌道ノ線路ハ左ノ如シ
  - 一 ヨリ 二至ル國道
  - 一 ヨリ 二至ル縣道
  - 一 ヨリ 二至ル里道
  - 一 ヨリ 二至ル新設軌道敷
- 第二條 營業年限ハ明治何年何月何日迄トス
- 第三條 原動力ノ方式ハ何々トス
- 第四條 電氣ニ關スル事項ニ付テハ明治三十

五年遞信省令第三十六號電氣事業取締規則

- ノ規定ニ依ルヘシ但同規則第十條ノ出願ハ此ノ命令書交付ノ日ヨリ六箇月内ニ之ヲ爲スヘシ
- 第五條 特許ヲ受ケタル者ハ前條但書ニ依リ出願ヲ爲シ其ノ許出ヲ得タル日ヨリ六箇月内ニ左ノ各號ニ準據シ線路實測圖(平面圖ハ縮尺二千分ノ一、縱斷面圖ハ縱二百分ノ一、横二千分ノ一、横斷面圖ハ二百分ノ一トス)、工事方法書、圖面及工費豫算書ヲ調製シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ
- 一 軌間ハ内法何尺何寸トス
- 二 軌條ハ何々ヲ用エ其重量ハ一碼ニ付何

二九三

- 封度以上トス
- 三 軌條間ノ全部及其左右各一尺五寸通ハ木石砂利其ノ他適當ノ材料ヲ敷キ鐵軌面ト道路面ト高低ナカラシムヘシ
- 四 軌道ヲ敷設スル道路ハ左ノ幅員ヲ有スルコトヲ要ス
  - 單線軌道ノ場合ニ於テハ兩側人家連橋ノ場所又ハ連橋スヘキ場所ハ四間以上其他ノ場所ハ三間以上
  - 複線軌道ノ場合ニ於テハ兩側人家連橋ノ場所又ハ連橋スヘキ場所ハ五間以上其ノ他ハ四間以上
- 五 軌道ハ兩側人家連橋ノ場所又ハ連橋スヘキ場所ニ於テハ道路ノ中央ニ之ヲ敷

軌道條例取扱方心得

設スヘシ但車體外一側ニ各二間以上ノ幅員ヲ存スルコト能ハサルトキハ其ノ一側ニ二間以上他ノ一側ニ三尺以上ノ幅員ヲ存スル點迄一方ニ偏シテ之ヲ敷設スルコトヲ得  
前項以外ノ場所ニ於テハ道路ノ一方ニ偏シ路端ヨリ車體外三尺以上ノ地ヲ餘シテ軌道ヲ敷設スヘシ但國道及縣道ニ在テハ車體外ノ一側ニ二間以上ノ幅員ヲ存スルコトヲ要ス  
道路ノ屈折部ノ内角ノ前後ニ於テ車體外各二間以上ノ幅員ヲ存スルトキハ其ノ内角ニ於テ少クトモ二間ノ幅員ヲ存スルヲ要ス其ノ他ノ場合ニ於テハ内角

ニ於ケル幅員ノ最小限ハ三尺ニシテ其ノ外角ノ側方ニハ二間以上ノ幅員ヲ存スルヲ要ス  
井戸、竝木、電柱、街燈、郵便筒其ノ他道路上ノ建設物ヨリ其ノ側ノ路端迄ノ距離、溝渠敷地及人道、車馬道ヲ區別セル道路ニ在テハ其ノ人道ハ前三項ノ幅員ニ算入セス  
六 軌道ノ一方ヨリ他ノ一方ニ軌道線ヲ移ス箇所ハ木又ハ石ヲ用キテ踏切ヲ設クヘシ  
七 軌道方道路ヲ横斷スル箇所亦前號ニ同シ  
八 橋梁ノ幅員及耐力ハ地方長官ノ指定ス

ル所ニ依ルヘシ

- 九 軌道敷設ノ爲ニ生スル道路面及軌道内ニ於ケル雨水ノ滞留ニ付テハ完全ナル排除ノ方法ヲ設クヘシ
- 十 勾配ハ二十五分ノ一ヲ超ユヘカラス
- 十一 屈曲ノ半徑ハ三十六尺ヲ以テ最小限トス
- 十二 車輛ニハ相當ノ遮離器、制度器、驗速器及信號器ヲ裝置スヘシ
- 十三 地下ニ埋設シタル公衆通信用ノ電信又ハ電話線路、水管、瓦斯管其ノ他公共用ノ地下工作物ト交叉シテ軌道ヲ敷設スルトキハ其ノ線路又ハ工作物ヲ毀損セサル爲適當ノ豫防裝置ヲ

軌道條例取扱方心得

爲スヘシ

- 十四 各種ノ人孔、制水瓣蓋等ニ接近シテ軌道ヲ敷設スルトキハ操業上障害ヲ與ヘサル爲適當ノ距離ヲ保タシムヘシ
- 十五 特許ヲ受ケタル者ニ於テ新設スヘキ軌道敷ハ車體外左右各三尺以上ノ幅員ヲ有スルコトヲ要ス  
前項第三號乃至第六號及第九號ハ新設軌道敷ニ之ヲ適用セス
- 第六條 特許ヲ受ケタル者ハ前條ノ認可ヲ得タル日ヨリ六箇月内ニ工事ニ著手シ著手ノ日ヨリ何年内ニ竣工スヘシ但天災其ノ他正當ノ事由ニ因リテ本條ノ期間内工事ニ著手



軌道條例取扱方心得

シ又ハ竣工スルコト能ハサルトキハ相當ノ延期ヲ與フルコトアルヘシ

第七條 特許ヲ受ケタル者ニ於テ擴張シタル道路及改築シタル橋梁ハ竣工ト同時ニ無償ニテ國又ハ公共團體ノ有ニ歸ス

第八條 軌道敷設ノ爲道路ノ地表又ハ地下ニ於ケル建設物ノ移轉其ノ他ノ工事ヲ要スルトキハ特許ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ施行シ又ハ其ノ費用ヲ負擔スヘシ

第九條 工事ノ全部又ハ一部竣工シ運輸ヲ開始セントスルトキハ特許ヲ受ケタル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ  
工事カ工書方法書ニ違反スルモノト認ムルトキハ地方長官ハ其ノ改築又ハ停止ヲ命ス

ヘシ

第十條 乗客ノ定員、荷物ノ制限、運送貨及發車並營業時間ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ

第十一條 電氣ニ關スル技術員、車掌及運轉手ノ資格及採用ノ方法ハ特許ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ

第十二條 車輛ハ一輛毎ニ地方長官ノ検査ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス  
第十三條 進行ノ速度ハ道路上ニ在リテハ一時間「」哩以内専用軌道敷ニ在リテハ踏切其ノ他危險ノ虞アル場所ヲ除クノ外一時間「」哩以内トス

第十四條 車輛ハ二車又ハ二車以上ヲ聯結シテ進行セシムルコトヲ得ス

進行中ハ各車ノ間ニ相當ノ距離ヲ保タシムヘシ

日出前日没後ハ五町以上ノ距離ニ於テ容易ニ認メ得ヘキ燈火ヲ車輛ノ前後ニ點スヘシ

第十五條 乗客ノ昇降ノ爲ニスルノ外故ナク道路上ニ停車セシムルコトヲ得ス但乗客昇降ノ場合ト雖モ道路ノ交叉部ニ於テ停車セシムルコトヲ得ス

第十六條 地方長官ノ指定シタル場所ニハ特ニ信號人ヲ置キ其ノ場所ニ於テハ進行ノ速度ハ一時間五哩ヲ超過セシムルコトヲ得ス

第十七條 左ニ掲ケタル箇所ハ地方長官ノ命軌道條例取扱方心得

スル所ニ從ヒ特許ヲ受ケタル者ニ於テ其ノ改築、修繕、掃除、撤水及除雪ヲ爲シ又ハ其ノ費用ヲ負擔スヘシ

一 道路及横切下水ハ軌條間ノ全部及其ノ左右各二尺通

二 橋梁ノ改築又ハ修繕ハ前號ニ定メタル幅員ト橋梁ノ幅員トノ比例ヲ以テ標準トシ其ノ橋梁ノ改築又ハ修繕費ノ全部ニ對シ特許ヲ受ケタル者ニ於テ負擔スヘキ費用ノ歩合ヲ定ム橋梁ノ掃除、撤水及除雪ハ前號ニ依ルモノトス

特許ヲ受ケタル者ノ軌道ト他ノ軌道ト交叉スル場合ニ於テハ其ノ交叉面ニ係ル前項ノ義務ハ關係者ノ負擔トス

軌道條例取扱方心得

第十八條 車輛ハ常ニ清潔ニ保持シ其ノ修繕ヲ怠ルヘカラス

第十九條 地方長官ハ何時ニテモ軌道、車輛其ノ他ノ工作物ヲ監査シ危險ナリト認ムルトキハ改築修補ヲ命シ其ノ命ヲ執行シ終ルマテ其ノ使用又ハ營業ヲ停止スルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ危險切迫ナリト認ムルトキハ地方長官ハ自ラ其ノ改築修補ヲ爲スコトアルヘシ

第二十條 地方長官ハ何時ニテモ營業ニ關スル實況ヲ監査シ此ノ命令書ノ條項又ハ此ノ命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ違反セル事實アルトキハ之ヲ督責シ特許ヲ受ケタル者

ニ於テ之ヲ更正スル迄營業ヲ停止スルコトアルヘシ

第二十一條 特許ヲ受ケタル者ハ内務大臣ノ許可ヲ得ルニ非サレハ一部ノ營業ヲ廢止スルコトヲ得ス

第二十二條 特許ヲ受ケタル者ハ地方長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業ヲ休止スルコトヲ得ス

第二十三條 内閣總理大臣及内務大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ何時ニテモ原動力ノ變更、其ノ方式設備線路若ハ敷設順序ノ變更又ハ交通上必要ナル線路ノ新設若ハ延長又ハ道路ノ擴張又ハ複線ノ敷設若ハ撤去又ハ一部ノ線路ノ廢止ヲ命スルコトアルヘシ

第二十四條 地方長官ハ運賃、乗客ノ定員、荷物ノ制限、運送賃及發車並營業時間ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第二十五條 道路、橋梁、水道其ノ他ノ公共事業ノ爲必要アルトキハ地方長官ハ軌道其ノ他ノ工作物ノ改築若ハ一時撤去ヲ命シ又ハ一時車輛ノ運轉ヲ停止スルコトアルヘシ交通上危險ノ虞アルトキハ地方長官ハ其ノ必要ノ部分ニ限り一時車輛ノ運轉ヲ停止スルコトアルヘシ

第二十六條 軌道ヲ交叉シ若ハ之ニ接續シ又ハ之ニ接近シテ道路、橋梁、運河、鐵道又ハ他ノ軌道ヲ設クルコトアルモ特許ヲ要ケタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

軌道條例取扱方心得

第二十七條 道路ニ敷設セル工作物其ノ他營業上必要ナル物件ハ特許ヲ受ケタル者ニ於テ地方長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之レヲ讓渡シ又ハ義務履行ノ擔保ト爲スコトヲ得ス

第二十八條 内閣總理大臣及内務大臣又ハ地方長官ハ公益上必要ト認ムル事項ヲ特許ヲ受ケタル者ニ命スルコトアルヘシ  
内閣總理大臣及内務大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ此ノ命令書ノ條項ヲ條更スルコトアルヘシ

第二十九條 將來定メラルル所ノ法令ノ結果トシテ此ノ命令書ノ條項ニ變更ヲ來スコトアルモ特許ヲ受ケタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ

軌道條例取扱方心得

得ス

第三十條 特許ヲ受ケタル者ハ半年毎ニ營業ノ報告書ヲ調製シ三十日內ニ地方長官ニ差出スヘシ

地方長官ハ何時ニテモ營業ニ關スル帳簿、書類等ヲ檢閲スルコトアルヘシ

第三十一條 國又ハ公共團體ニ於テ公益ノ爲軌道其ノ他營業上必要ナル物件ノ全部若ハ一部ノ専用又ハ買收ヲ爲サムトスルトキハ特許ヲ受ケタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス但之ニ對シ補償ヲ求ムルコトヲ得  
前項ノ物件ノ範圍ニ付爭アルトキハ内閣總理大臣及内務大臣之ヲ定ム

第三十二條 前條全部専用ノ場合ニ於テ月ヲ

三〇〇

以テ専用期間ヲ算スルトキハ前年ニ於ケル平均收入月額又ハ前年ノ相當月ノ收入額ヲ標準トシ補償金額ヲ定メ日ヲ以テ専用期間ヲ算スルトキハ前月ニ於ケル平均收入日額又ハ前年若ハ前月ノ相當日ノ收入額ヲ標準トシ補償金額ヲ定ム但其ノ撰擇ハ特許ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

前條一部専用ノ場合ニ於テハ特許ヲ受ケタル者ノ撰擇スル所ニ從ヒ全部ノ延長ニ對スル専用部分ノ延長ノ比例ヲ以テ全部専用ノ場合ニ於ケル補償金額ニ乘シ又ハ前項ト同一ノ方法ニ依リ其専用部分ニ對スル補償金額ヲ定ム  
前條全部買收ノ場合ニ於テハ年率七分ヲ以

テ前五箇年間ノ純益平均年額ヲ除シ補償金額ヲ定ム但其ノ地方ニ於ケル金利率年率ニ著シキ變更ヲ來シタルトキハ内閣總理大臣及内務大臣ハ本項ノ年率ヲ變更スルコトアルヘシ

役員賞與ノ性質ヲ有スル支出ハ前項純益金ノ內ニ算入ス

前條一部買收ノ場合ニ於テハ前三項ノ規定ヲ準用シテ補償金額ヲ定ム

開業ノ後本條ニ規定シタル時日ヲ經過セサルトキハ既往營業時日ヲ標準トシテ平均額ヲ算出ス

第三十三條 他ノ軌道營業者ニ於テ内閣總理大臣及内務大臣ノ許可ヲ得テ特許ヲ受ケタ

軌道條例取扱方心得

ル者ノ軌道其ノ他營業上必要ナル物件ノ一部ヲ共同使用セントスルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス但其ノ共同使用ノ條件ハ協議ノ上之ヲ定メ協議調ハサルトキハ内閣總理大臣及内務大臣之ヲ定ム

第三十四條 左ノ場合ニ於テハ特許ハ其ノ效力ヲ失フ

- 一 第四條但書ノ出願ヲ爲ササルトキ又ハ其ノ許可ヲ得サルトキ若ハ之ヲ取消サレタルトキ
- 二 第五條ノ期間內ニ許可ヲ申請セサルトキ又ハ其ノ認可ヲ得サルトキ
- 三 第六條ノ期間內ニ工事ニ著手セサルトキ

軌道條例取扱方心得

- 四 第四十二條第一項ノ保證金ヲ差出ササルトキ
- 五 明治三十五年遞信省令第三十六號電氣事業取締規則第十三條ニ依ル工事施行ノ認可ヲ得サルトキ又ハ之ヲ取消サレタルトキ
- 六 全部ノ營業ヲ廢シタルトキ
- 七 特許ヲ受ケタル者總テ死亡シタルトキ又ハ會社解散シタルトキ
- 八 營業滿期ノトキ
- 第五條ノ認可申請以前ニ會社成立セサルトキハ特許ハ其ノ效力ヲ失フ
- 創立總會ニ於テ又ハ總社員ニ於テ此ノ命令書ノ條項ヲ遵守シテ營業スルコトヲ議決シ

又ハ同意スルニ非サレハ特許ハ其ノ效力ヲ失フ

- 第三十五條 前條ニ掲ケタル場合ノ外特許ヲ受ケタル者ニ於テ此ノ命令書ノ條項又ハ此ノ命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シタルトキハ内閣總理大臣及内務大臣ハ特許ノ全部又ハ一部ヲ解クコトアルヘシ
- 特許ヲ受ケタル者力不可抗力ニ因ラスシテ滿一箇月間工事ヲ休止シ更ニ起工セサルトキ又ハ特許ヲ受ケタル者ノ中死亡若ハ脫退者アリタル場合ニ於テ内閣總理大臣及内務大臣力殘存者ノミニテハ事業ヲ營ムニ適セスト認ムルトキ亦前項ニ同シ
- 第三十六條 特許ノ消滅シタル場合ニ於テハ

地方長官ハ期限ヲ定メテ道路ヲ原形ニ復セ

シムルコトアルヘシ

- 第三十七條 特許ノ消滅シタル場合ニ於テハ國又ハ公共團體力軌道其ノ他營業上必要ナル物件ノ全部又ハ一部ヲ買收セントスルトキハ特許ヲ受ケタル者ハ最近ノ財産目錄ニ記載シタル物件ノ價格ヲ以テ之ヲ賣渡スヘシ
- 買收者ニ於テ前條ノ價格ニ關シ異議アルトキハ其ノ申請ニ依リ内閣總理大臣及内務大臣ハ地方長官、買收者及特許ヲ受ケタル者ヲシテ各三名ノ評價委員ヲ選定セシメ其ノ意見ヲ徵シテ其ノ價格ヲ定ム
- 本條ノ場合ニ於テハ第三十一條第二項ノ規

軌道條例取扱方心得

定ヲ準用ス

- 第三十八條 特許ヲ受ケタル者ハ内閣總理大臣及内務大臣ノ許可ヲ得ルニアラサレハ特許ニ因リテ生スル權利義務ヲ他人ニ移スコトヲ得ス
- 第三十九條 特許ヲ受ケタル者ニ於テ此ノ命令書及此ノ命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ依リ履行スヘキ義務ヲ履行セサルトキハ地方長官ハ自ラ代之ヲ執行シ又ハ他人ヲシテ之ヲ執行セシムルコトアルヘシ
- 第四十條 特許ヲ受ケタル者力許可ヲ得スシテ營業ヲ休止シ又ハ一部ノ營業ヲ廢止シタルトキハ内閣總理大臣及内務大臣ハ市町村ヲシテ營業年限内特許ヲ受ケタル者ノ計

軌道條例取扱方心得

算ヲ以テ營業ヲ爲サシメ又ハ他人ヲシテ無償ニテ特許ヲ受ケタル者ノ軌道其ノ他營業上必要ナル物件ヲ使用シ營業ヲ爲サシムルコトアルヘシ

本條ノ場合ニ於テハ第三十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

第四十一條 此ノ命令書及此ノ命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ依リ特許ヲ受ケタル者ニ於テ履行スヘキ義務ノ爲ニ生スル費用並第十九條第二項及第三十九條ノ費用ハ總テ特許ヲ受ケタル者ノ負擔トス  
此ノ命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ因リ特許ヲ受ケタル者ニ於テ損害ヲ受クルコトアルモ其ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

三〇四

第四十二條 特許ヲ受ケタル者ハ保證金トシテ工費豫算額ノ五十分ノ一以上ニ當ル金額又ハ此ノ金額ニ相當スル公債證書(記名公債證書ナレハ讓渡證書ヲ添ヘ)ヲ地方長官ノ定メタル期日マテニ地方長官ニ差出スヘシ

前項保證金差出後公債證書ノ價格下落シタルトキハ地方長官ハ前項ノ割合ニ依リ保證金を増加セシムルコトアルヘシ

第四十三條 保證金ハ第十九條第二項、第三十九條及第四十條ノ費用ニ充用セラル、コトアルヘシ但此場合ニ於テハ直ニ前條第一項ノ金額ヲ填補スルコトヲ要ス

第四十四條 特許ノ消滅シタル場合ニ於テハ

四 軌道ニ關スル事項

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○勅令第二百六十六號 (十月二十一日)

第一條 軌道條例ニ依リ内務大臣ノ特許ヲ受ケ一般運輸ノ業ヲ營マムトスル者ハ遞信大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第二條 及第三條ハ鐵道及軌道ニ關係無キヲ以テ之ヲ略ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○二省以上交渉ノ事項ニ關スル件

○勅令第二百六十五號 (十月二十)

遞信省官制中左ノ通改正ス

第四條ニ左ノ一號ヲ加フ

勅令第二百六十五號 勅令第二百六十六號

第三十六條又ハ第三十七條ノ處分ヲ了シタル後地方長官ハ保證金ヲ還付ス但前條ニ依リ充用スヘキ費用アルトキハ其ノ殘額ヲ還付スルモノトス

第四十五條 特許ノ消滅シタル場合ニ於テハ特許ヲ受ケタル者ハ特許狀及此ノ命令書ヲ地方長官ノ定メタル期日マテニ返納スヘシ

大正 年 月 日

内閣總理大臣 爵氏名印  
内務大臣 爵氏名印

二省以上交渉ノ事項ニ關スル件

(明治四十一年十月二十二日)  
勅令第二六六六號

改正(四十年)  
勅令第三〇七號

第一條 軌道條例ニ依リ内務大臣ノ特許ヲ受ケ  
一般運輸ノ業ヲ營マントスル者ハ内閣總理大  
臣ノ許可ヲ受クヘシ

第二條 産業講習所又ハ産業組合ニ關スル規程  
ヲ定メ又ハ廢止變更セムトスルトキハ農商務  
大臣ハ産業講習所ニ關シテハ文部大臣産業組  
合ニ關シテハ内務大臣ニ協議スヘシ

第三條 實業學校ニ關スル規程ヲ定メ又ハ廢止  
變更セントスルトキハ文部大臣ハ農商務大臣  
ニ協議スヘシ

三〇六

○軌道條例及四十一年勅令第二  
百六十六號ニ依ル願書差出方  
ノ件 (明治四十一年十月二十二日)  
遞信省令第四五號

軌道條例及明治四十一年勅令第二百六十六號ニ  
依ル願書ハ内務、遞信兩大臣宛トシ地方長官ヲ  
經由シテ之ヲ差出スヘシ

### ○鐵道抵當法

(明治三十八年三月十三日)  
法律第五十三號

#### 第一章 總則

第一條 本法ニ於テ會社ト稱スルハ私設鐵道株  
式會社ヲ謂フ

第二條 會社ハ抵當權ノ目的ト爲ス爲鐵道ノ全  
部又ハ一部ニ付鐵道財團ヲ設クルコトヲ得  
鐵道財團ニ屬スルモノハ同時ニ他ノ鐵道財團  
ニ屬スルコトヲ得ス

鐵道財團ハ之ヲ一箇ノ物ト看做ス

鐵道財團ハ抵當權ノ消滅ニ因リテ消滅ス

第三條 鐵道財團ハ左ニ掲ケルモノニシテ鐵道  
財團ノ所有者ニ屬スルモノヲ以テ之ヲ組成ス  
一 鐵道線路、其ノ他ノ鐵道用地及其ノ上ニ

鐵道抵當法

存スル工作物竝之ニ屬スル器具機械  
二 工場、倉庫、發電所、變壓所、配電所、事務  
所、舍宅及其ノ敷地竝之ニ屬スル器具機  
械

三 鐵道用水ニ關スル工作物及其ノ敷地竝之  
ニ屬スル器具機械

四 鐵道用通信、信號又ハ送電ニ用スル工作  
物及其ノ敷地竝之ニ屬スル器具機械

五 前四號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使  
用スル爲他人ノ不動產ノ上ニ存スル地上  
權、登記シタル賃借權及前四號ニ掲ケタ  
ル土地ノ爲ニ存スル地役權

六 車輛及之ニ屬スル器具機械

七 保線ニ要スル材料及器具機械

三〇七

鐵道抵當法

第四條 鐵道財團ハ所有權及抵當權以外ノ物權又ハ差押、假差押若ハ假處分目的ト爲スコトヲ得ス

鐵道財團ニ屬スルモノハ所有權以外ノ物權又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的ト爲スコトヲ得ス

鐵道財團ニ屬スヘキモノニシテ所有權以外ノ物權又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的タルトキ又ハ鐵道財團ニ屬スヘキ不動産ニシテ賃借權ノ目的タルトキハ會社ハ鐵道財團ヲ設クルコトヲ得ス但シ不動産ニ關スル權利ニ付其ノ登記ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 抵當權ノ設定又ハ變更ハ總株金四分ノ一以上ノ拂込アリタル後定款變更ト同一方法

ノ決議ヲ經主務官廳ノ認可ヲ受クルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第六條 鐵道財團ヲ抵當ト爲ス債務ノ額ハ社債ノ額ト合セテ總株金拂込額ヲ超ユルコトヲ得ス但シ舊債償還ノ爲ニスル場合ニ於テハ舊債務ノ額ハ之ヲ算入セス

第七條 抵當權設定ノ認可ヲ申請スルニハ抵當證書及鐵道財團目錄ヲ差出スヘシ但シ擔保附社債ヲ發行スル場合ニ在リテハ信託證書ヲ以テ抵當證書ニ代フ

抵當證書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 鐵道財團ニ屬スル線路ノ表示
- 二 抵當權者債務者及鐵道財團ノ所有者ノ名稱及住所

三 抵當權ノ順位

四 債權額及償還ノ方法並期限

五 利率及利息支拂ノ方法並期限

抵當證書又ハ信託證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生スヘキ契約ハ主務官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第八條 抵當權ノ設定認可ノ申請アリタルトキ

ハ主務官廳ハ直ニ官報ヲ以テ鐵道財團ニ屬スヘキモノニ關シ第四條第三項ノ權利ヲ有スル者又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ債權者ハ一定ノ期限内ニ申出ツヘキ旨ヲ公告スヘシ但シ其ノ期間ハ一箇月ヲ下ルコトヲ得ス

主務官廳ハ抵當權ノ設定認可ノ申請前ニ於テモ會社ノ申請ニ因リ豫メ前項ノ公告ヲ爲スコ

鐵道抵當法

トヲ得此ノ場合ニ於テ公告後六箇月内ニ抵當權設定認可ノ申請ナキトキハ公告ハ其ノ效力ヲ失フ

會社カ前項ノ申請ヲ爲ストキハ鐵道財團目錄ヲ差出スヘシ

第九條 前條第二項ニ依ル公告ヲ爲シタルトキ又ハ抵當權ノ設定認可ノ申請ヲ爲シタルトキハ鐵道財團ニ屬スヘキモノハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

第十條 第八條ノ公告アリタル後ハ同條第二項ニ依ル公告カ效力ヲ失ハサル間、抵當權ノ設定認可ノ申請カ却下セラレタル間及其ノ認可カ效力ヲ失ハサル間ハ鐵道財團ニ屬スヘキ不動産ニ關スル權利ニ付競落ヲ許ス決定ヲ爲ス

鐵道抵當法

コトヲ得ス

前項ノ規定ハ動産ニ對スル競賣ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 抵當權設定ノ認可アリタルトキハ其ノ鐵道ニ關スルモノニシテ第三條ニ掲ケタルモノハ當然鐵道財團ニ屬ス其ノ抵當權設定後新ニ鐵道財團ノ所有者ニ屬シタルモノ亦同シ前項ニ掲ケタルモノニ關シ第四條第三項ノ權利アルトキハ不動産ニ關スルモノノ登記ハ其ノ效力ヲ失ヒ動産ニ關スルモノハ存セサルモノト看做シ差押、假差押若ハ假處分ハ其ノ效力ヲ失フ但シ抵當權設定ノ認可カ效力ヲ失ヒタルトキハ此ノ限ニ在ラス  
前項ノ場合ニ於テハ第四條第三項ノ權利ヲ有

スル者又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ債權者ハ鐵道財團ノ所有者ニ對シ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ第八條ノ公告アリタルモノニ付期間内ニ申出ヲ爲ササル債權者並期間經過後ニ於テ登記ノ申請ヲ爲シタル者、動産ニ關シ所有權以外ノ物權ヲ取得シタル者又ハ差押、假差押若ハ假處分ヲ爲シタル者ハ此ノ限ニアラス

第十二條 第八條第二項ニ依ル公告カ效力ヲ失ヒタルトキ、抵當權ノ設定カ認可セラレサルトキ又ハ其ノ認可カ效力ヲ失ヒタルトキハ主務官廳ハ直ニ官報ヲ以テ其ノ旨ヲ公告スヘシ  
第十三條 抵當權設定ノ認可アリタル後二箇年内ニ其ノ登録ノ申請ナキトキハ認可ハ其ノ效

カラ失フ

第十四條 抵當權ハ債權成立以前ニ於テモ其ノ效力ヲ生ス

第十五條 抵當權ノ得喪者ハ變更又ハ鐵道財團ノ所有權ノ移轉ハ登録ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十六條 數箇ノ債權ヲ擔保スル爲同一ノ鐵道貨團ニ付抵當權ヲ設定シタルトキハ其ノ抵當權ノ順位ハ登録ノ前後ニ依ル

第十七條 抵當權者ハ鐵道財團ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得  
第十八條 抵當權者ハ債權ノ全部ノ辨濟ヲ受クル迄ハ鐵道財團ノ全部ニ付其ノ權利ヲ行フコトヲ得

鐵道抵當法

第十九條 抵當權ハ鐵道財團又ハ之ニ屬スルモノノ讓渡、貸付、滅失又ハ毀損ニ因リテ會社カ受クヘキ金錢其ノ他ノ物ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ抵當權者ハ其ノ拂渡又ハ引渡前ニ差押ヲ爲スコトヲ要ス

第二十條 會社カ鐵道財團ヲ讓渡シ、貸付シ若ハ抵當ト爲シ、鐵道財團ニ關スル營業ノ管理委託ヲ爲シ、其ノ線路ヲ變更シ又ハ其ノ線路ノ全部若ハ一部ニ付營業ヲ休止セムトスルトキ又ハ鐵道財團ニ屬スルモノヲ處分セムトスルトキハ抵當權者ニ對シ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ催告スヘシ但シ其ノ期間ハ二箇月ヲ下ルコトヲ得ス  
抵當權者カ前項ノ期間内ニ異議ヲ述ヘタルト



鐵道抵當法

キハ會社ハ主務官廳ノ裁定ヲ求ムヘシ此ノ裁定ハ終局トス

抵當權者カ外國ニ住所ヲ有スル場合ニ於テハ第一項ノ期間ハ四箇月ヲ下ルコトヲ得ス  
本條ノ規定ハ抵當權者カ豫メ同意ヲ與ヘタル場合ニハ之ヲ適用セス

第二十一條 會社カ鐵道財團ニ關スル工事方法ノ變更ニ付認可ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ變更カ鐵道財團ノ價額ヲ著シク減スヘキ虞アリト認ムルトキハ主務官廳ハ會社ヲシテ抵當權者ニ對シ異議アラハ之ヲ述フヘキ旨ヲ催告セシムヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條 免許ノ失效又ハ取消ノ場合ニ於テ

ハ抵當權者ハ其ノ權利ヲ實行スルコトヲ得前項ニ依リ抵當權ヲ實行セムトスルトキハ抵當權者ハ免許ノ失效又ハ取消ノ日ヨリ六箇月内ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ  
免許ハ前項ノ期間及抵當權實行ノ終了ニ至ル迄仍存續スルモノト看做ス

第二十三條 債權者カ同一ノ債權ノ擔保トシテ數箇ノ鐵道財團ノ上ニ抵當權ヲ有スル場合ニ於テ同時ニ其ノ代價ヲ配當スヘキトキハ其ノ各鐵道財團ノ價額ニ準シテ其ノ債權ノ負擔ヲ分ツ

或鐵道財團ノ代價ノミヲ配當スヘキトキハ抵當權者ハ其ノ代價ニ付債權ノ全部ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ次ノ順位ニ在

ル抵當權者ハ前項ノ規定ニ從ヒ右ノ抵當權者カ他ノ鐵道財團ニ付辨濟ヲ受クヘキ金額ニ滿ツル迄之ニ代位シテ抵當權ヲ行フコトヲ得

第二十四條 前條ノ規定ニ從ヒ代位ニ因リテ抵當權ヲ行フ者ハ其ノ抵當權ノ登錄ニ其ノ代位ヲ附記スルコトヲ得

第二十五條 抵當權者ハ鐵道財團ノ代價ヲ以テ辨濟ヲ受ケサル債權ノ部分ニ付テノミ他ノ財產ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ得

前項ノ規定ハ鐵道財團ノ代價ニ先チテ他ノ財產ノ代價ヲ配當スヘキ場合ニハ之ヲ適用セス但シ他ノ債權者ハ抵當權者ヲシテ前項ノ規定ニ從ヒ辨濟ヲ受ケシムルカ爲之ニ配當スヘキ金額ノ供託ヲ請求スルコトヲ得

鐵道抵當法

第二十六條 政府カ鐵道及附屬物件ヲ買上ケタル場合ニ於テ抵當權設定後二十箇年又ハ據置年限ヲ經過シタルトキハ抵當附債務ヲ辨濟スルコトヲ得但少クトモ一箇年前ニ豫告スヘシ

第二章 登錄

第二十七條 鐵道財團ニ關スル登錄ヲ爲ス爲主務官廳ニ鐵道抵當原簿ヲ備フ

鐵道抵當原簿ハ一箇ノ鐵道財團ニ付一用紙ヲ設ク

第二十八條 登錄ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外當事者ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第二十九條 抵當權設定ノ登錄申請書ニハ左ノ書面ヲ添付スヘシ

一 抵當權ノ設定ニ關スル證書

鐵道抵當法

二 鐵道財團目錄

當事者ハ抵當權設定認可ノ申請書ニ添附シタル鐵道財團目錄ヲ前項第二號ノ書面トシテ引用スルコトヲ得

第一項第二號ノ書面ハ第二以下ノ順位ノ抵當權設定ノ登録申請書ニハ之ヲ添附スルコトヲ要セス

第三十條 抵當權設定ノ登録ハ鐵道抵當原簿ニ左ノ事項ヲ記載スルニ依リテ之ヲ爲ス

- 一 第七條第二項第一號乃至第五號ニ掲ケタル事項
- 二 免許ニ附シタル條件
- 三 抵當權ヲ設定シタルコト
- 四 抵當權設定認可ノ年月日

五 登録ノ年月日

第七條第二項第一號及前項第二號ニ掲ケタル事項ハ第二以下ノ順位ノ抵當權ニ付テハ之ヲ登録スルコトヲ要セス

第三十一條 登録シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其ノ事項消滅シタルトキハ當事者ハ遲滞ナク變更又ハ消滅ノ登録ヲ申請スヘシ

前項ノ申請書ニハ變更又ハ消滅ノ事由ヲ記載シ之ヲ證スル書面ヲ添付スヘシ

變更又ハ消滅カ主務官廳ノ命令又ハ認可ニ因リテ生シタル場合ニ於テハ前項ノ證明書ハ之ヲ添付スルコトヲ要ス

第三十二條 同一ノ債權ノ擔保トシテ數箇ノ鐵道財團ノ上ニ抵當權ヲ設定シタル場合ニ於テ

ハ其ノ各鐵道財團ノ用紙ニ他ノ鐵道財團ヲ表示シ之ト共ニ抵當權ノ目的タル旨ヲ記載スヘシ

他ノ鐵道財團ニ關スル變更又ハ消滅ノ登録カ前項ノ記載ヲ變更スルコトヲ要スルニ至リタルトキハ其ノ記載ニ變更ヲ附記シ他ノ鐵道財團ニ關スル消滅ノ登録カ前項ノ記載ヲ要セサルニ至リタルトキハ其ノ記載ヲ抹消スヘシ

第三十三條 鐵道抵當原簿ニ抵當權ノ設定ヲ登録シタルトキハ鐵道財團目錄ニ爲シタル記載ハ登録ト同一ノ效力ヲ生ス

第三十四條 鐵道財團目錄ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其ノ事項消滅シタルトキハ會社ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ届出ヘシ

鐵道抵當法

前項ノ届書ハ鐵道財團目錄ニ編綴スルニ依リテ前條ノ效力ヲ生ス

第三十五條 一用紙ノ抵當權ノ登録カ全部抹消セラレタルトキハ主務官廳ハ其ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

第三十六條 左ノ場合ニ於テハ主務官廳ハ直ニ其ノ旨ヲ管轄登記所ニ通知スヘシ但シ第二號ノ場合ニ於テハ新ナル管轄登録所ニノミ通知スヘシ

- 一 第一順位ノ抵當權ノ設定ヲ登録シタルトキ
- 二 不動産ニ關スル權利カ新ニ鐵道財團ニ屬シタルトキ
- 三 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖シタルトキ

鐵道抵當法

前項第一號又ハ第三號ノ場合ニ於テハ主務官廳ハ直ニ官報ヲ以テ其ノ旨ヲ公告スヘシ

第三十七條 登記官吏カ前條第一號又ハ第二號ノ通知ヲ受ケタルトキハ第三條ノ通知ヲ受ケル迄ハ鐵道財團ノ所有者ニ屬スルモノニ付所有權以外ノ物權、賃借權又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ登記ヲ爲スコトヲ得ス但シ所有權以外ノ物權、賃借權又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的タルモノカ主務官廳ノ證明書ニ依リ鐵道財團ニ屬セサルコト明白ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條 何人ト雖鐵道抵當原簿及鐵道財團目錄ノ閲覧ヲ請求シ又ハ手数料ヲ納付シテ鐵道抵當原簿ノ謄本若ハ抄本交付ヲ請求スルコトヲ得

トヲ得  
手数料ノ外郵送料ヲ納付シテ鐵道抵當原簿ノ謄本又ハ抄本ノ送附ヲ請求スルコトヲ得  
第三十九條 鐵道抵當原簿ノ調製、鐵道財團目錄ノ様式其ノ他登錄ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

第三章 強制競賣及強制管理

第四十條 鐵道財團ニ對スル抵當權ノ強制執行ハ強制競賣又ハ強制管理ニ依リテ之ヲ爲ス  
抵當權者ハ自己ノ選擇ニ依リ前項ニ掲ケタル一箇ノ方法ヲ以テ又ハ二箇ノ方法ヲ併セテ強制執行ヲ爲スコトヲ得

第四十一條 抵當證書又ハ信託證書及之ニ記載シタル事項ヲ變更スル契約證書ハ強制執行ニ

關シテハ公證人ノ作成シタル債務名義ト看做ス但シ其ノ執行力アル正本ハ主務官廳ノ官吏之ヲ付與ス

第四十二條 強制執行ハ鐵道財團ノ所有者タル會社ノ本店所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第四十三條 強制競賣ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

- 申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ其ノ代理人之ニ署名捺印スヘシ
- 一 債務者タル會社及鐵道財團ノ所有者タル會社ノ商號及其ノ本店ノ所在地
  - 二 競賣ニ付スヘキ鐵道財團ノ表示
  - 三 競賣ノ原因タル事由

鐵道抵當法

四 年月日

五 裁判所

申立書ニハ執行力アル正本ノ外鐵道抵當原簿ノ謄本ヲ添附スヘシ但シ強制管理ノ開始アリタル場合ニ於テハ鐵道抵當原簿ノ謄本添附スルコトヲ要セス

第四十四條 強制競賣ノ申立ハ競落期日迄ハ競賣人ノ同意アル場合ニ限り之ヲ取下ルコトヲ得

第四十五條 競賣手續ノ開始ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

開始決定ニハ申立人ノ名稱、住所及第四十三條第二項第一號乃至第四號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ決定ヲ爲シタル判事之ニ署名捺印スヘキ

鐵道抵當法

第四十六條 裁判所カ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ鐵道抵當原簿ニ競賣申立ノ登録ヲ爲スヘキ旨ヲ主務官廳ニ囑託スヘシ  
主務官廳ニ於テ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ直ニ登録ヲ爲シ其ノ旨ヲ裁判所ニ通知スヘシ  
第四十七條 裁判所カ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ租稅其ノ他ノ公課ヲ主管スル官廳及公署ニ對シ一定ノ期間内ニ鐵道財團ノ所有者ニ對スル權利ノ有無及其ノ限度ヲ申立ツヘキ旨ヲ公告スヘシ  
第四十八條 裁判所ハ主務官廳ノ意見ヲ聽キ鑑定人ヲ選定シ競賣ニ付スヘキ鐵道財團ヲ評價セシメ其評價額ヲ以テ最抵競賣價額ト爲スヘシ

第四十九條 裁判所ハ競賣期日ヲ定メ官報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ  
前項ノ公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ  
一 競賣ニ付スヘキ鐵道財團ノ表示  
二 競賣期日ノ場所、日時及入札締切ノ時  
三 最低競賣價額  
四 競落期日ノ場所及日時  
五 執行記録ヲ閱覽シ得ヘキ場所  
第五十條 鐵道事業ヲ營ム者ニ非スシテ競賣ニ加入スルニハ競賣ニ付セラレタル鐵道ノ營業ヲ目的トシ會社ノ發起セムトスル者七人以上合同スルコトヲ要ス  
前項ニ依リ競賣ニ加入スル者ハ競賣ノ申込ニ關シテハ連帶シテ其ノ責ニ任ス

第五十一條 前條第一項ニ依リ競賣ニ加入スル者ハ競賣ノ申込ト共ニ保證トシテ最低競賣價額百分ノ五ニ相當スル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ供託スヘシ  
前項ノ規定ハ競買人ニシテ抵當權者カ之ニ加ハルモノニ付テハ其ノ債權額カ最低競賣價額ノ百分ノ五以上ニ相當スル場合ニ限り之ヲ適用セス  
第五十二條 競賣ハ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フ  
第五十三條 裁判所ハ競買人ノ面前ニ於テ入札ヲ開封スヘシ  
競落ト爲ルヘキ同價額ノ入札二箇以上アルトキハ裁判所ハ同價額ノ競買人ヲシテ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシムヘシ

鐵道抵當法

再度入札ヲ爲スモ仍同價額ノ入札アルトキハ裁判所ハ直ニ抽籤ヲ以テ最高價競買人ヲ定ムヘシ  
第五十四條 競買ニ加入スルコトヲ得サルコトヲ得サル者ノ爲シタル入札ハ無効トス  
第五十五條 競賣期日ニ於テ入札ナキトキ、許スヘキ入札ナキトキ又ハ最低競賣價額ニ達スル入札ナキトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ更ニ競賣期日ヲ定ムヘシ  
前項ノ場合ニ於テ裁判所ハ鑑定人ノ意見ヲ聽キ最低競賣價額ヲ低減スルコトヲ得  
第五十六條 入札ハ之ヲ變更シ又ハ取消スコトヲ得ス  
入札ハ其ノ入札ヲ爲シタル競買人以外ノ者ニ

鐵道抵當法

競落ヲ許ス決定カ確定シタルトキ、競落ヲ許ササル決定カ確定シタルトキ又ハ競落ヲ爲サスシテ競賣手續ヲ終了シタルトキハ其效力ヲ失フ

第五十七條

裁判所ハ最高價競買人ノ名稱及其ノ競買價額ヲ表示シ競賣ノ終局ヲ告知スヘシ

第五十八條 裁判所ハ競賣ニ關スル調書ヲ作成シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 競賣ニ付セラレタル鐵道財團ノ表示
  - 二 競賣申立人ノ表示
  - 三 入札及開札ノ日時
  - 四 總テノ競買價額及競買人ノ名稱、住所又ハ入札ナキコト、許スヘキ入札ナキコト
- 若ハ最低競買價額ニ達スル入札ナキコト

三二〇

並第五十三條第二項又ハ第三項ノ手續ヲ爲シタルコト

五 競賣ノ終局ヲ告知シタル日時並最高價競買人ノ名稱及其ノ競買價額

第五十九條 裁判所ハ競落期日ニ出頭シタル債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者及競買人ニ競落ノ許可ニ付陳述ヲ爲サシムヘシ

第六十條 強制競賣申立ノ取下若ハ強制執行ノ取消アリタル場合又ハ第四十八條乃至第五十四條若ハ第五十七條ノ規定ニ違反シテ競賣ヲ爲シタル場合ニ限り債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者又ハ競買人ハ競落ノ許可ニ付異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第六十一條 裁判所ハ異議ノ申立ヲ正當トスル

場合ニ於テ更ニ競賣ヲ許スヘキトキハ職權ヲ以テ競賣期日ヲ定ムヘシ

前項ニ依リ競賣期日ヲ定ムル場合ノ外競落ノ許否ハ決定ヲ以テ之ヲ言渡スヘシ

第六十二條 競落ノ許可ニ付異議ノ申立ヲ爲シタル者ハ第六十條ニ掲ケタル理由アル場合ニ限り競落ヲ許ス決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

競落期日ニ出頭シ競落ノ許可ニ付異議ノ申立ヲ爲ササル者ハ競落ヲ許ササル理由ナキ場合ニ限り競落ヲ許ササル決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第六十三條 裁判所ハ競落ニ關スル調書ヲ作成

鐵道抵當法

スヘシ

第六十四條 競落ヲ許ス決定カ確定シタルトキハ裁判所ハ其ノ決定ノ謄本ヲ主務官廳ニ送付スヘシ

第六十五條 競落代金ハ競落ヲ許ス決定カ確定シタル日又ハ本免許ヲ受ケルコトヲ要スル者ニ在リテハ本免許ヲ受ケタル日ヨリ一週間以内ニ之ヲ裁判所ニ支拂フヘシ但シ債權者カ競落人タル場合ニ於テハ自己カ競落代金中ヨリ受取ルヘキ金額ヲ控除シ其ノ殘額ノミヲ支拂フヲ以テ足ル

第六十六條 競落代金ノ支拂アリタルトキハ競賣ニ付セラレタル鐵道財團ニ關スル權利ハ競落人ニ、競落人カ第五十條第一項ニ依リ競賣

鐵道抵當法

ニ加入シタル者ナルトキハ其ノ競落人ニ依リ

テ發起セラレタル會社ニ移轉ス

抵當權ハ前項ニ依リ鐵道財團ニ關スル權利カ  
移轉シタルトキニ消滅ス

第六十七條 本免許狀ノ下付ナキトキ、第七十

三條ノ期間内ニ本免許ノ申請ナキトキ又ハ第

六十五條ノ期間内ニ競落代金ノ支拂ナキトキ

ハ裁判所ハ職權ヲ以テ競落ヲ許ス決定ヲ取消

シ更ニ競賣期日ヲ定ムヘシ

前項ニ依リ競落ヲ許ス決定力取消サレタルト

キハ本免許ハ取消サレタルモノトス

競落人ハ新競賣ニ加入スルコトヲ得ス且新競

賣ニ於ケル競落代金カ最初ノ競落代金ヨリ少

ナキトキハ其ノ不足額及手續ノ費用ヲ賠償ス

ヘシ

第六十八條 裁判所ハ競落代金ノ中ヨリ順次ニ

競賣ノ費用及租稅其ノ他ノ公課ヲ控除シ其ノ

殘額ハ抵當權ノ順位ニ從ヒ之ヲ抵當權者ニ配

當シ仍殘餘アルトキハ之ヲ鐵道財團ノ所有者

ニ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ其ノ旨ヲ主務官

廳ニ通知シ競賣申立ノ登録ノ抹消ヲ囑託スヘ

シ

主務官廳ニ於テ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ

左ノ手續ヲ爲スヘシ

一 第四十六條第二項ニ依リテ爲シタル登録

及抵當權ノ登録ヲ抹消スルコト

二 競落ヲ許ス決定アリタルコトヲ管轄登記

所ニ通知シ競落人又ハ競落人ニ依リテ發起セ  
ラレタル會社力取得シタル不動産ニ關スル權

利ノ登記並第十一條第二項ニ依リ效力ヲ失ヒ

タル登記ノ抹消ヲ囑託スルコト

第六十九條 競落ヲ爲サシテ競賣手續ヲ終了

シタルトキハ裁判所ハ其ノ旨ヲ主務官廳ニ通

知シ競賣申立ノ登録ノ抹消ヲ囑託スヘシ

主務官廳ニ於テ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ

第四十六條第二項ニ依リテ爲シタル登録ヲ抹

消スヘシ

第七十條 裁判所ハ二回以上競賣期日ヲ開始

シタルモ入札ナキトキ、許スヘキ入札ナキト

キ又ハ最低競賣價額ニ達スル入札ナキトキハ

抵當權者ノ同意アル場合ニ限り競賣ニ付シタ

鐵道抵當法

ル鐵道財團ヲ箇箇ノモノトシテ競賣ニ付スル  
コトヲ得

前項ノ場合ニ於テ裁判所ハ抵當權者ノ意見ヲ

聽キ鐵道財團ニ屬スルモノヲ分割シテ競賣ニ

付スルコトヲ得

第七十一條 前條ノ競賣ニ關シテハ第四十八條

第四十九條、第五十二條乃至第六十六條、第六

十七條第一項第三項、第六十八條及第六十九

條ノ規定ヲ準用ス

競買人ハ競買ノ申込ト共ニ保證トシテ最低競

賣價額百分ノ五ニ相當スル金額ヲ現金又ハ有

價證券ヲ以テ供託スヘシ

七十二條 競落人カ第五十條第一項ニ依リ競

賣ニ加入シタル者ナルトキハ發起人トナリテ

鐵道抵當法

會社ヲ設立スヘシ

第七十三條 競落人ニ依リテ發起セラレタル會社又ハ競落人タル會社ハ競落ヲ許ス決定力確定シタル日ヨリ三箇月内ニ本免許ヲ申請スヘシ

第七十四條 競落人ニ依リテ發起セラレタル會社カ本免許ヲ申請スルニハ左ニ掲クル書類ヲ添付スヘシ

一 定款

二 發起人ニ於テ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ検査役力裁判所ニ爲シタル報告書ノ謄本及裁判所カ検査役ノ報告ヲ聽キ爲シタル決定ノ謄本

三 株主ヲ募集シタルトキハ株式申込證ノ謄

三二四

本、發起人、取締役、監査役又ハ検査役ヨリ創立總會ニ爲シタル報告ノ要領及創立總會ノ議事及決議ノ要領

第七十五條 競落人タル會社カ本免許ヲ申請スルニハ定款ノ變更ト同一方法ノ決議ニ依ルヘシ

本免許ノ申請ハ定款變更ノ決議認可ノ申請ト共ニ之ヲ爲スヘシ

第七十六條 主務官廳ハ前三條ノ規定ニ依ル申請アリタルトキハ本免許狀ヲ下附スヘシ

第七十七條 本免許ハ會社カ競落代金ヲ支拂ヒタルトキニ其ノ效力ヲ生ス

本免許カ效力ヲ生シタルトキハ會社ハ原免許ニ屬スル權利及義務ヲ承繼ス

第七十八條 強制管理ニ付テハ第四十三條、第四十五條乃至第四十七條ノ規定ヲ準用ス

第七十九條 強制管理開始ノ決定確定シタルトキハ裁判所ハ其ノ決定ノ謄本ヲ主務官廳ニ送付スヘシ

第八十條 前條決定ノ謄本ノ送付アリタルトキハ主務官廳ハ一人又ハ數人ノ管理人ヲ選任スヘシ但シ強制管理ノ申立人ハ適當ノ人ヲ推薦スルコトヲ得

商事會社ハ管理人タルコトヲ得

第八十一條 主務官廳ハ管理人ヲ監督シ、管理方法ニ付指揮ヲ爲シ且管理人ニ與フヘキ報酬ノ額ヲ定ムヘシ

主務官廳ハ前項ニ掲ケタル事項ニ付債務者、

鐵道抵當法

鐵道財團ノ所有者、抵當權者及鑑定人ノ意見ヲ聽クコトヲ得

主務官廳ハ管理人ノ擔保ヲ供スヘキコトヲ命シ又ハ之ヲ解任スルコトヲ得

第八十二條 主務官廳カ管理人ヲ任免シタルトキハ其ノ旨ヲ債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者及裁判所ニ通知スヘシ

第八十三條 鐵道財團ノ所有者カ管理人選任ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ鐵道財團ヲ管理人ニ引渡スヘシ

管理人ハ鐵道財團ノ所有者ニ對シ管理ニ必要ナル書類其ノ他ノ物ノ引渡ヲ求ムルコトヲ得鐵道財團ノ所有者カ前二項ノ引渡ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ管理人ノ申立ニ依リ執達吏ヲ

三二五

鐵道抵當法

シテ其ノ引渡ヲ爲サシムヘシ

第八十四條 強制管理ノ申立人ハ管理人ノ請求

ニ因リ管理ノ費用ヲ立替支辨スヘシ

第八十五條 管理人ハ鐵道財團ノ管理及收益ニ

付必要ナル裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲スヘ

シ

第八十六條 鐵道財團ノ管理ニ付官廳ニ對スル

取締役ノ責任ハ管理人ノ之ヲ負フ

第八十七條 管理人ハ每營業年度ノ終ニ於テ鐵

道財團ノ收入ヨリ順次ニ管理ノ費用、管理人

ノ報酬及租稅其ノ他ノ公課ヲ控除シ其ノ殘額

ヲ抵當權者ニ交付スヘシ

第八十八條 管理人ハ每營業年度ノ終ニ於テ計

算報告書ヲ主務官廳ニ差出スヘシ

三二六

主務官廳ハ前項計算報告書ノ謄本ヲ債務者、

鐵道財團ノ所有者及抵當權者ニ送付シ且一定

ノ期間内ニ異議アラハ之ヲ申出ツヘキ旨ヲ催

告スヘシ

前項ノ期間内ニ異議ヲ申出テサリシ者ハ計算

ヲ承認シタルモノト看做ス

異議ヲ申出テタル者アリタルトキハ主務官廳

ハ管理人ノ陳述ヲ聽キタル後之ヲ裁定ス此ノ

裁定ハ終局トス

第八十九條 管理人ハ前條第二項ノ期間ヲ過キ

又ハ前條第四項ノ裁定ヲ經タル後ニ非サレハ

抵當權者ニ對シ配當額ノ交付ヲ爲ス事ヲ得ス

管理人ハ配當額ノ交付ヲ爲シタルトキハ抵當

權者ノ名稱及配當額ヲ主務官廳及裁判所ニ通

第九十二條 左ノ場合ニ於テハ取締役又ハ管理

人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ定メタル裁定ヲ遵守セサルトキ

二 第九條ノ規定ニ違反シタルトキ

三 第二十條又ハ二十一條ノ催告ヲ爲ササル

トキ

四 登錄ニ關シ不正ノ申請ヲ爲シタルトキ又

ハ第三十一條ノ登錄ノ申請ヲ爲ササルトキ

五 鐵道財團目錄ニ不正ノ記載ヲ爲シタルト

キ、第三十四條ノ届出ヲ爲ササルトキ又

ハ不正ノ届出ヲ爲シタルトキ

六 管理方法ニ付主務官廳ノ命令ニ違反シタ

ルトキ

七 第八十八條ノ計算報告書ヲ差出ササルト

三二七

知スヘシ

第九十條 強制管理ノ取消ハ裁判所ノ決定ヲ

以テ之ヲ爲ス

強制管理ノ申立ヲ爲シタル抵當權者カ辨濟ヲ

受ケタルトキハ裁判所ハ強制管理ノ取消ヲ命

スヘシ

強制管理ノ申立人カ管理費用ノ立替支辨ヲ爲

ササルトキハ裁判所ハ管理人ノ申立ニ因リ強

制管理ノ取消ヲ命スルコトヲ得

第九十一條 前條第二項ノ場合ニ關シテハ第六

十八條第二項及第三項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ヲ除クノ外強制管理ノ取消ニ關シ

テハ第六十九條ノ規定ヲ準用ス

第四章 罰 則

鐵道抵當法



鐵道抵當法施行期日ノ件 擔保附社債信託法

行ス

○擔保附社債信託法

(明治三十八年三月十三日 法律第五十二號)

改正(四十二年法律第二九號) (四十五年法律第一四號)

第一章 總則

- 第一條 本法ニ於テ信託會社ト稱スルハ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム會社ヲ謂フ
- 第二條 社債ニ物上擔保ヲ附セムトスルトキハ其ノ社債ヲ發行スル會社ト信託會社トノ信託契約ニ從ヒ之ヲ發行スヘシ
- 第三條 本法ニ依ル信託ノ引受ハ之ヲ商行爲トス

- 八 配當額ノ交付ヲ爲ササルトキ又ハ第八十七條若ハ第八十九條第一項ノ規定ニ違反シテ配當額ノ交付ヲ爲シタルトキ
- 九 第八十九條第二項ノ通知ヲ爲ササルトキ
- 第九十三條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○鐵道抵當法施行期日ノ件

(明治三十八年六月二十六日 勅令第一八六號)

鐵道抵當法ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施

鐵道抵當法  
擔保附社債信託法

鐵道抵當法施行期日ノ件 擔保附社債信託法  
キ又ハ不正ノ報告ヲ爲シタルトキ

- 八 配當額ノ交付ヲ爲ササルトキ又ハ第八十七條若ハ第八十九條第一項ノ規定ニ違反シテ配當額ノ交付ヲ爲シタルトキ
- 九 第八十九條第二項ノ通知ヲ爲ササルトキ
- 第九十三條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ニ前條ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○鐵道抵當法施行期日ノ件

(明治三十八年六月二十六日勅令 第八六號)

鐵道抵當法ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○擔保附社債信託法

(明治三十八年三月十三日法律第五十二號)

改正(四十二年法律第二十九號)(四十五年法律第一四號)

第一章 總則

- 第一條 本法ニ於テ信託會社ト稱スルハ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム會社ヲ謂フ
- 第二條 社債ニ物上擔保ヲ附セスルトキハ其ノ社債ヲ發行スル會社ト信託會社トノ信託契約ニ從ヒ之ヲ發行ス
- 第三條 本法ニ依ル信託ノ引受ハ之ヲ商行爲トス

第四條 社債ニ附スルコトヲ得ヘキ物上擔保ハ

左ニ掲グルモノニ限ル

- 一 動産質
- 二 證書アル債權質
- 三 不動産抵當
- 四 船舶抵當
- 五 鐵道抵當
- 六 工場抵當
- 七 鑛業抵當
- 八 軌道抵當
- 九 輕便鐵道抵當

第五條 擔保附社債ニ關スル信託事業ハ特別ノ

法律ニ依ル場合ヲ除クノ外主務官廳ノ免許ヲ

受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第六條 信託會社ハ銀行事業ヲ除クノ外他ノ事

業ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第七條 信託會社ノ資本又ハ金錢ヲ目的トスル

出資ノ總額ハ百萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

第八條 信託會社ハ資本又ハ金錢ヲ目的トスル

擔保附社債信託法

出資ノ拂込金額が五十萬圓ニ達スル迄其ノ事

業ニ著手スルコトヲ得ス

第九條 信託ノ業務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

第十條 主務官廳ハ何時ニテモ信託會社ヲシテ

其ノ事業ノ報告ヲ爲サシメ又ハ業務及財産ノ

狀況ヲ檢査スルコトヲ得

第十一條 主務官廳ハ信託會社ノ業務又ハ會社

財産ノ狀況カ信託事業ノ執行ニ適セスト認ム

ルトキハ其ノ事業ノ停止又ハ業務執行方法ノ

變更ヲ命シ其ノ他委託會社及社債權者ノ利益

ヲ保護スルニ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ

得

第十二條 信託會社カ法令、定款若ハ主務官廳

ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シ

擔保附社債信託法

タルトキハ主務官廳ハ其ノ事業ノ停止若ハ取締役ノ改選ヲ命シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得  
第十三條 擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ專業トスル會社ハ免許ノ取消ニ因リテ解散ス  
第十四條 信託會社カ免許ノ取消ニ因リテ解散シタルトキハ主務官廳ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス  
第十五條 商法第八十八條、第八十九條、第九十六條、第二項、第一百條、第二百二十六條第二項、第二百二十八條第二項又ハ第三百三十二條ニ定ムル清算人ノ選任又ハ解任ハ主務官廳ニ於テ之ヲ爲ス  
商法第二百二十八條第二項ニ依ル請求ハ委託會社又ハ社債權者集會ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

三三〇

第十六條 信託會社ノ清算ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス  
主務官廳ハ何時ニテモ前項ノ監督ニ必要ナル検査ヲ爲スコトヲ得  
第十七條 外國ニ於テ物上擔保社債ヲ募集セムトスル會社ハ主務官廳ノ許可ヲ受ケ外國會社ト信託契約ヲ締結スルコトヲ得  
前項ノ規定ニ依リ信託ヲ引受ケタル外國會社カ日本ニ支店ヲ有セサルトキハ日本ニ於ケル代表者ヲ定ムヘシ  
商事會社ハ前項ノ代表者タルコトヲ得  
第二項ノ規定ニ依リ代表者ヲ定メタルトキハ遲滞ナク其ノ氏名及住所又ハ商號及本店ヲ主務官廳ニ届出ヘシ

日本ニ於ケル外國會社ノ代表者ハ信託事務ニ關シテハ信託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員ト同一ノ權限ヲ有ス

第二章 信託證書

第十八條 信託契約ハ信託證書ニ依リ之ヲ締結スヘシ  
第十九條 信託證書ニハ左ノ事項ヲ記載シ委託會社及受託會社ノ代表者之ニ署名スヘシ  
一 委託會社及受託會社ノ商號  
二 社債ノ總額  
三 各社債ノ金額  
四 社債發行ノ價額又ハ其ノ最低價額  
五 社債ノ利率  
六 社債償還ノ方法及期限  
擔保附社債信託法

三三一

七 利息支拂ノ方法及期限  
八 債券ニ記載スヘキ事項ノ表示及利札附ナルトキハ其ノ旨ノ表示  
九 擔保ノ種類、目的物、順位、先順位ノ擔保ヲ附シタル債權ノ金額其ノ他目的物ニ關シ擔保權者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ權利ノ表示  
十 第三十二條ニ依ル社債ナルトキハ其ノ事實及會社ノ負擔部分  
十一 委託及受託ノ表示  
十二 證書作成ノ年月日  
各社債ノ金額ハ均一ナルカ又ハ最低額ヲ以テ整除シ得ヘキモノナルコトヲ要ス  
第二十條 信託證書ハ委託會社及受託會社ニ於テ各自其ノ一通ヲ保存スヘシ

擔保附社債信託法

前項ノ信託證書ハ其ノ原本ヲ本店ニ、其ノ謄本ヲ各支店ニ備置クヘシ

第二十一條 信託證書ノ原本又ハ謄本ハ委託會社ノ株主、債權者又ハ社債應募者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ之ヲ閱覽セシムヘシ

第三章 社債募集

第二十二條 信託契約ニ依リ物上擔保附社債ヲ募集スル會社ハ左ノ事項ヲ公告スヘシ

- 一 第十九條第一項第一號乃至第七號及第十號ニ掲ケタル事項
- 二 物上擔保附社債ナルコト
- 三 信託證書ノ表示
- 四 擔保ノ價格ヲ知ラシムルニ必要ナル程度

三三二

ニ於テ第十九條第一項第九號ニ掲ケタル事項ノ概要ノ表示

五 前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘサル總額

六 會社ノ資本及拂込ミタル株金ノ總額

七 最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ノ額

八 信託證書若ハ其ノ謄本ヲ應募者ノ閱覽ニ供スヘキ時及場所

前項ノ公告ハ受託會社ノ承認ヲ得テ之ヲ爲スヘシ

第二十三條 委託會社ハ信託契約ニ依リ社債ノ募集ヲ受託會社ニ委任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ受託會

社ハ債券ノ發行、社債ノ償還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第二十四條 前條ノ場合ニ於テハ第二十二條第一項ニ掲ケタル公告ハ受託會社ニ於テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ公告ニハ受託會社カ受託會社ニ代リテ社債ノ募集ヲ爲ス旨ヲ記載スヘシ

第二十五條 受託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ第二十二條及前條ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ要セス

第二十六條 前條第一項ノ場合ニ於テ受託會社ハ其ノ引受ケタル社債ヲ分割シテ之ニ相當スル債券ノ發行ヲ委託會社ニ請求スルコトヲ得  
擔保附社債信託法

受託會社カ信託契約ニ依リ債券發行ノ權限ニ有スルトキハ委託會社ニ通知シテ前項ノ債券ヲ發行スルコトヲ得

第二十七條 受託會社カ第二十五條第一項ニ依リ引受ケタル社債ヲ讓渡サムトスルトキハ其ノ旨ヲ公告スヘシ

前項ノ公告ニ記載スヘキ事項ニ付テハ第二十二條第一項ノ規定ヲ準用ス

受託會社ハ社債ヲ讓受ケムトスル者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ信託證書又ハ其ノ謄本ヲ閱覽セシムヘシ

第二十八條 受託會社カ前條ノ規定ニ依リ社債ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ委託會社ニ代リテ其ノ社債ノ償還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ

三三三

擔保附社債信託法

行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第二十九號 委託會社又ハ受託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ從ヒ第三者ヲシテ社債ノ總額ヲ引受ケシムルコトヲ得

前項ニ依ル社債總額ノ引受ハ之ヲ商行爲トス  
第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ハ其ノ引受ケタル社債ヲ分割シテ之ニ相當スル債券ノ發行ヲ委託會社ニ請求スルコトヲ得  
受託會社カ信託契約ニ依リ債券發行ノ權限ヲ有スルトキハ受託會社ニ對シテ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三十條 第二十五條第二項、第二十七條第一項、第二項及第二十八條ノ規定ハ前條第一項ニ依リ第三者カ社債ノ總額ヲ引受ケタル場合

ニ之ヲ準用ス

第三十一條 委託會社又ハ受託會社ハ信託證書ノ謄本ヲ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ交付スヘシ

前項ノ謄本ハ委託會社又ハ受託會社ノ代表者之ニ署名シテ原本ト相違ナキコトヲ認證スヘシ  
第二十七條第三項ノ規定ハ第一項ノ謄本ニ之ヲ準用ス

第三十二條 會社ハ合同シテ社債ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ社債ノ募集ヲ受託會社ニ委任シ又ハ託受會社ヲシテ社債ノ總額ヲ引受ケシムヘシ

第三十三條 前條ノ場合ニ於テハ受託會社ハ債

券ノ發行、社債ノ償還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第三十四條 委託會社ハ商法第二百四條第二項ノ規定ニ從ヒ左ノ事項ヲ登記スヘシ

一 第十九條第一項第一號乃至第三號、第五號乃至第七號、第九號及第十條ニ掲ケタル事項

二 第二十二條第一項第二號乃至第三號ニ掲ケタル事項

三 第二十三條ニ依ル委任又ハ第二十五條第一項ニ依リ引受アリタルトキハ其ノ事實

四 第二十九條第一項ニ依リ引受アリタルトキハ其ノ事實及引受人ノ氏名又ハ商號

第四章 債券

擔保附社債信託法

第三十五條 信託證書ニ依ル債券ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 第十九條第一項第一號乃至第三號、第五號乃至第七號ニ掲ケタル事項

二 第二十二條第一項第二號及第三號ニ掲ケタル事項

三 債券ノ番號

四 前條第三號及第四號ニ掲ケタル事項  
第三十六條 受託會社ハ委託會社カ信託契約ノ條款ニ適合スル債券ヲ發行シタルトキハ其ノ請求ニ依リ債券カ信託證書ニ依ル債券ナルコトヲ證明シテ之ヲ委託會社又ハ其ノ指定シタル者ニ引渡スヘシ

前項ノ證明ハ各債券ニ記載シテ受託會社ノ取

擔保附社債信託法

締役又ハ之ヲ代表スル社員之ニ署名スルニ依  
リテ之ヲ爲ス

第三十七條 信託證書ニ依ル債券ハ前條ノ證明  
アルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第三十八條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券  
ヲ發行シタルトキハ其ノ旨ヲ各債券ニ記載シ  
受託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員之ニ  
署名スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ適用セス

第三十九條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券  
ヲ發行シタルトキハ商報第二百六條ニ依ル記  
載ハ受託會社ニ於テ之ヲ爲シ商法第二百七條  
ニ依ル請求ハ受託會社ニ對シテ之ヲ爲ス

第五章 社債原簿

内何時ニテモ之ヲ開覽セシムヘシ

第四十三條 社債原簿ノ記載ニ變更ヲ生シタル  
トキハ其ノ都度委託會社ハ取締役又ハ之ヲ代  
表スル社員ノ署名シタル書面ヲ何テ之ヲ受託  
會社ニ通知スヘシ

受託會社ハ前項ノ書面ヲ受ケタルトキハ之ヲ  
社債原簿ノ謄本ニ添附シテ保存スヘシ

第四十四條 受託會社カ委託會社ニ依リテ債務  
ヲ發行シタルトキハ社債原簿ハ受託會社ニ於  
テ之ヲ作成シ其ノ本店ニ備置クヘシ

商法第七十一條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十五條 前條第一項ノ場合ニ於テ受託會社  
ニ於テ社債原簿ノ謄本ヲ作成シテ之ヲ委託會  
社ニ交付スヘシ

擔保附社債信託法

第四十條 會社カ物上擔保附社債ヲ發行シタル  
トキハ社債原簿ニ商法第七十三條ニ掲ケタ  
ルモノノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 第十九條第一號、第七號、第九號及第十號  
ニ掲ケタル事項

二 第三十四條第二號乃至第四號ニ掲ケタル  
事項

第四十一條 委託會社ハ社債原簿ノ謄本ヲ作成  
シテ之ヲ受託會社ニ交付スヘシ

前項ノ謄本ハ受託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表  
スル社員之ニ署名シテ原本ト相違ナキコトヲ  
證認スヘシ

第四十二條 受託會社ハ前條ノ謄本ヲ其ノ本店  
ニ備置キ社債權者ノ請求アルトキハ營業時間

第四十一條第二項、第四十二條、第四十三條ノ  
商法第七十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合  
ニ之ヲ準用ス

第四十六條 委託會社又ハ受託會社カ社債原簿  
ヲ作成シタルトキハ其ノ謄本ヲ第二十九條第  
一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ交付  
スヘシ

第四十一條 第二項及第四十三條ノ規定ハ前項  
ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十七條 委託會社、受託會社又ハ第二十九  
條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者カ  
社債原簿ノ記載ニ變更ヲ生スヘキ取扱ヲ爲シ  
タルトキハ其ノ都度書面ヲ以テ社債ノ原簿ヲ  
備フル會社ニ之ヲ通知スヘシ

擔保附社債信託法

第六章 社債權者集會

第四十八條 受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ハ必要アルトキハ何時ニテモ社債權者集會ヲ招集スルコトヲ得

第四十九條 委託會社又ハ社債總額ノ十分ノ一ニ當ル社債權者ハ集會ノ目的及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ提出シテ社債權者集會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ受ケタル者カ其ノ請求アリタル後二週間内ニ集會招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ其ノ請求ヲ爲シタル者ハ主務官廳ノ許可ヲ

受ケ其ノ招集ヲ爲スコトヲ得  
第五十條 第十五條第二項、第八十九條、第九十四條又ハ第九十九條ニ定メタル集會ハ社債總額ノ十分ノ一ニ當ル社債權者ニ於テ自ラ之ヲ招集スルコトヲ得

前項ノ招集ハ信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ受託會社本店ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘシ  
第九十四條又ハ第九十九條ニ定メタル集會ハ委託會社モ亦自ラ之ヲ招集スルコトヲ得

第五十一條 商法第五十六條ノ規定ハ社債權者集會ノ招集ニ之ヲ準用ス

第五十二條 社債權者集會ノ決議ハ信託契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外行使セラレタル議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス但シ第六十四

條、第六十七條第一項、第七十五條、第八十五

條、第八十六條及第九十七條第一項ニ記載シタル事項ノ決議ハ總社債權者ノ半數以上ニシテ社債總額ノ半數以上ニ當ル社債權者カ議決權ヲ行使シタル場合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

商法第六十一條第二項乃至第四項ノ規定ハ社債權者集會ノ決議ニ之ヲ準用ス

集會ニ出席セサル社債權者ハ信託契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外書面ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得

各社債權者ハ社債ノ最低金額毎ニ一箇ノ議決權 有ス、但シ社債ノ最低金額ノ十一倍以上ヲ有スル社債權者ノ議決權ハ信託契約ヲ以テ

擔保附社債信託法

之ヲ制限スルコトヲ得

第五十三條 第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者又ハ其ノ代表者ハ社債權集會ニ出席シテ發言シ又ハ書面ヲ以テ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十四條 受託會社ノ代表者ハ社債權者集會カ第八十九條第二項ニ規定シタル事項ニ付招集セラレタル場合ヲ除クノ外之ニ出席シテ發言シ又ハ書面ヲ以テ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十五條 社債權者集會ヲ招集スル者ハ前二條ニ掲ケタル者又ハ其ノ代表者ニ招集ノ通知ヲ發スヘシ

商法第五十六條第一項及第二項ノ規定ハ前項ノ通知ニ之ヲ準用ス



擔保 取信信託法

第五十六條 社債權者集會又ハ之ヲ召集シタル者ニ於テ以要ト認ムルトキハ委託會社ニ通知シテ其ノ代表者ノ出席ヲ求ムルコトヲ得

項ハ本法ニ規定アルモノノ外特ニ信託契約ニ定メタルモノニ限ル

第五十七條 社債權者集會召集ノ手續又ハ其ノ議決ノ方法カ本法又ハ信託契約ノ條款ニ違反スルトキハ委託會社、受託會社又ハ各社債權者ハ其ノ決議ノ無効ノ宣告ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第五十九條 社債權者集會ヲ召集シタル者ハ決議録ヲ作成スヘシ

前項ノ請求ハ決議ノ日ヨリ一箇月内ニ之ヲ爲スヘシ

第六十條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議録ノ原本又ハ謄本ヲ本店及支店ニ備ヘ置クヘシ

社債權者カ第一項ノ請求ヲ爲ストキハ其ノ債券ヲ供託シ且召集ヲ爲シタル者ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スヘシ

第六十一條 受託會社以外ノ者カ決議録ヲ作成シタルトキハ自ラ其ノ原本ヲ保存シ其ノ謄本ヲ受託會社ニ交付スヘシ

第五十八條 社債權者集會ニ於テ決議スヘキ事項前條第三項ノ規定ハ謄本ニ之ヲ準用ス

第六十二條 社債權者集會ノ費用ハ受託會社又

ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ於テ召集シタル場合ヲ除クノ外集會ヲ召集シタル者ニ於テ之ヲ負擔ス

代表者數人アル場合ニ於テ集會ニ於テ別段ノ定ヲ爲ササルトキハ代表者ノ權限ニ屬スル事項ハ其ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第六十三條 社債權者集會ノ決議ハ受託會社之ヲ執行ス但シ其ノ性質カ受託會社ニ於テ執行スルコトヲ許ササルトキハ集會ニ於テ之ヲ執行スヘキ者ヲ定ム

第六十五條 代表者ハ第六十三條但書ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ自ラ執行シ又ハ他人ヲシテ執行セシムルコトヲ得

第六十四條 信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ社債權者集會ニ於テ一人又ハ數人ノ代表者ヲ選任シ其ノ決議スヘキ事項ノ決定ヲ之ニ委任スルコトヲ得

第六十六條 代表者就任シタルトキハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社、受託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ之ヲ通知スヘシ

代表者ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者又ハ社債總額ノ千分ノ一以上ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ選任ス

第六十七條 社債權者集會ハ何時ニテモ代表者ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額

ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額

ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額

ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額

ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額

ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額

ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額

ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額

ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額

ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額

ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額

ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額

ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額

ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額

ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額

ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額

ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額

ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額

ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額

ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額

ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額

ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額

ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額

ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額

ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額

ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額

ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額

ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額

ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額

ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額

ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額

ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額

ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額

ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

擔保附社債信託法

擔保附社債信託法

ヲ引受ケタル者ニ之ヲ通知スヘシ

第七章 信託契約ノ効力

第六十八條 受託會社ハ公平且誠實ニ信託事務ヲ處理スヘシ

第六十九條 受託會社ハ委託會社及社債權者ニ對シテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ信託事務ヲ處理スル義務ヲ負フ

第七十條 信託契約ニ依ル物上擔保ハ信託證書ニ記載シタル總社債ノ爲ニ受託會社ニ歸屬ス受託會社ハ總社債權者ノ爲ニ擔保權ヲ保存シ且實行スルノ義務ヲ負フ

第七十一條 社債權者ハ其ノ債權額ニ應シ平等ニ擔保ノ利益ヲ享受ス

第七十二條 信託契約ニ依ル物上擔保ハ社債成

立以前ニ於テモ其ノ効力ヲ生ス

第七十三條 民法第三百四十八條、第三百七十五條及商法第二百七十七條ノ規定ハ信託契約ニ依ル擔保權ニ之ヲ適用セス

第七十四條 受託會社ハ委託會社トノ契約ヲ以テ擔保ヲ追加スルコトヲ得

第七十五條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ委託會社トノ契約ヲ以テ擔保ヲ變更スルコトヲ得

第七十六條 前二條ノ契約ハ信託契約ト同一ノ効力ヲ有ス

第七十七條 第七十四條及第七十五條ノ契約ハ委託會社及受託會社ノ代表者ノ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ爲シ委託會社及受託會社遲滯ナ

ク各自之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債權者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

前項ノ契約證書ニハ第二十條及第二十一條ノ規定ヲ準用ス

第七十八條 信託契約ニ依ル擔保權ハ總社債權者ノ爲ニノミ之ヲ行使スルコトヲ得

第七十九條 委託會社カ定期ニ社債ノ一部ヲ償還スヘキ場合ニ於テ其ノ償還ヲ遅延シ二箇月ヲ經過シタルトキハ受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ一定ノ期間内ニ支拂ヲ爲スヘキ旨及其ノ期間内ニ支拂ヲ爲ササルトキハ社債ノ總額ニ付期限ノ利益ヲ失ハシムル旨ヲ委託會社ニ催告スルコトヲ得

擔保附社債信託法

委託會社カ前項ノ期間内ニ支拂ヲ爲ササルト

キハ社債ノ總額ニ付期限ノ利益ヲ失フ

第一項ノ催告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第八十條 前條ニ依リ委託會社カ期限ノ利益ヲ失ヒタルトキハ受託會社ハ遲滯ナク之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債權者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各

別ニ之ヲ通知スヘシ

第八十一條 前二條ノ規定ハ委託會社カ社債ノ利息ノ支拂ヲ遅延シ三箇月ヲ經過シタル場合ニ之ヲ準用ス

第八十二條 社債カ期限ニ至リ辨償セラレス又ハ委託會社カ社債ノ辨償ヲ完了セスシテ解散シタルトキハ受託會社ハ遲滯ナク社債權者集

擔保附社債信託法

會ノ決議ニ依リ擔保權ヲ實行スヘシ

民法第三百五十四條ノ規定ハ信託契約ニ依ル  
動産質ニ之ヲ適用セス

第八十三條 受託會社ハ總社債權者ノ爲ニ付與  
セラレタル執行力アル正本ニ基キ擔保物ニ付  
強制執行ヲ爲シ又ハ競賣法ニ依ル競賣ノ申立  
若ハ委任ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ債權者ニ對スル異議ハ受託  
會社ニ對シテ之ヲ主張スルコトヲ得

第八十四條 受託會社ハ託信契約ニ別段ノ定ナ  
キトキハ社債權者ノ爲ニ債權ノ辨濟ヲ得ルニ  
必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第八十五條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ  
依リ總社債ニ付支拂ヲ猶豫シ不履行ニ因リテ

社債權者ヲ確知スルコト能ハサルトキ又ハ社  
債權者カ受領ヲ拒ミ若ハ受領スルコト能ハサ  
ルトキハ受託會社ハ其社債權者ノ爲ニ前項ノ  
金額ヲ供託スヘシ

受託會社ハ必要アル場合ニ於テハ第二十九條  
第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ第  
一項及第三項ノ行爲ヲ委任スルコトヲ得

第八十九條 受託會社カ總社債權者ノ爲ニ爲ス  
ヘキ行爲ヲ怠リタルトキハ主務官廳ハ社債權  
者集會ノ申請ニ因リ特別代理人ヲ選定シテ之  
ヲ爲サシムルコトヲ得

社債權者ト受託會社トノ利益相反スル場合ニ  
於テ總社債權者ノ爲ニ裁判上又ハ裁判外ノ行  
爲ヲ爲ス必要アルトキ亦前項ニ同シ

擔保附社債信託法

三四四

生シタル責任ヲ免除シ又ハ和解ヲ爲スコト得  
第八十六條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ  
依リ總社債權者ノ爲ニ訴訟行爲ヲ爲シ又ハ破  
産手續ニ屬スル一切ノ行爲ヲ行スコトヲ得

第八十七條 受託會社カ第八十二條、第八十五  
條又ハ前條ニ掲ケタル行爲ヲ完了シタルトキ  
ハ遲滞ナク之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債  
權者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ  
引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

第八十八條 受託會社カ社債權者ノ爲ニ辨濟ヲ  
得タル金額ハ遲滞ナク債權額ニ應シテ各社債  
權者ニ交付スヘシ

受託會社カ前項ノ金額ヲ自己ノ爲ニ費消シタ  
ルトキハ民法第六百四十七條ノ規定ヲ準用ス

第九十條 本法ニ依リ總社債權者ニ代リ裁判ト  
又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス場合ニ於テハ各別ニ  
社債權者ヲ表示スルコトヲ要セス

第九十一條 受託會社ハ委託會社ニ對シ信託事  
務ノ處理ニ付相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ  
得

信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ民法第六百四  
十八條第二項及第三項ノ規定ハ信託契約ニ之  
ヲ準用ス

第九十二條 委託會社ハ受託會社カ信託事務ヲ  
處理スルニ付正當ニ支出シタル一切ノ費用及  
支出ノ日以後ニ於ケル其ノ利息ヲ償還シ及過  
失ナクシテ受ケタル一切ノ損害ヲ賠償スル義  
務ヲ負フ

三四五

擔保附社債信託法

三四六

受託會社ハ信託事務ヲ處理スルニ付要スル費用ノ前拂ヲ委託會社ニ請求スルコト得  
前二項ノ規定ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ關シ之ヲ準用ス

委託會社カ供託金ノ上ニ質權ヲ設定シタルモノト看做ス  
前項ノ質權ハ信託契約ニ依ル物上擔保ト看做ス

第九十三條 信託契約ニ依ル物上擔保ハ前條第一項ノ規定ニ依リ受託會社ニ生スヘキ債權ノ爲ニモ其ノ效力ヲ有ス

第九十五條 委託會社、第六十四條第一項ニ依リ選任セラレタル代表者又ハ社債總額ノ十分ノ一以上ニ當ル社債權者ハ何時ニテモ受託會社ニ於ケル擔保物保管ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

受託會社ハ前項ノ債權ニ付社債權者ニ優先シテ擔保物ヨリ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

無記名式ノ債券ヲ有スル者ハ債券ヲ受託會社ニ供託スルニ非サレハ前項ノ検査ヲ爲スコトヲ得ス

第九十四條 受託會社カ故意若ハ過失ニ因リ物上擔保ヲ消滅セシメ又ハ其ノ價格ヲ減少セシメタルトキハ主務官廳ハ委託會社又ハ社債權者集會ノ申請ニ因リ受託會社ヲシテ相當ノ金額ヲ供託セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ

第九十六條 民法第二百九十八條第三項ノ規定ハ信託契約ニ依ル質權ニ之ヲ準用セス

第八章 信託事務ノ承繼及終了

スルコトヲ得

第九十七條 受託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ依リ又ハ委託會社及社債權者集會ノ同意アルトキハ信託事務ヲ承繼スヘキ會社ヲ定メテ辭任スルコトヲ得

第九十八條 前二條ノ規定ニ依リ受託會社カ辭任シ若ハ辭任セラレタルトキ又ハ免許ヲ取消サレ若ハ解散シタルトキハ主務官廳ハ更ニ受託會社ヲ選任シテ信託事務ヲ承繼セシムヘシ

信託事務ヲ承繼スヘキ會社カ外國會社ナルトキハ第十七條第一項ノ規定ヲ準用ス

第九十九條 委託會社、前受託會社及新受託會社ノ代表者ノ署名シタル契約書ヲ作成スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第九十八條 委託會社ハ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ主務官廳ノ許可ヲ受ケ辭任スルコトヲ得ス

第一百條 第九十七條ニ依ル信託事務ノ承繼ハ前項ノ契約ヲ締結シタルトキハ各會社ハ遲滯ナク書面ヲ以テ之ヲ主務官廳ニ届出ヘシ

第九十九條 受託會社カ其ノ義務ニ違反シ又ハ信託事務ヲ處理スルニ不適任ナルトキ其ノ他正當ノ事由アルトキハ主務官廳ハ委託會社又ハ社債權者集會ノ申請ニ因リ受託會社ヲ解任

前條ニ依ル承繼ハ新受託會社ニ對スル主務官廳ノ命令書ヲ交付スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

擔保附社債信託法

三四七

擔保附社債信託法

三四八

第二百二條 信託事務ノ承繼ハ第九十七條ニ依ル  
場合ニ於テハ委託會社、前受託會社及新受託  
會社、第百條ニ依ル場合ニ於テハ委託會社及  
新受託會社遲滞ナク各自之ヲ公告スヘシ但シ  
知レタル社債權者及第二十九條第一項ニ依リ  
社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通  
知スヘシ

第二百三條 第九十七條ニ依リ定メラレ又ハ第百  
條ニ依リ選任セラレタル新受託會社ハ前受託  
會社ノ締結シタル條款ニ從ヒ信託事務ヲ處理  
スヘシ  
社債權者又ハ受託會社ノ爲ニ前受託會社ニ歸  
屬シタル權利義務ハ前受託會社ノ辭任、解任、  
免許ノ取消又ハ解散ノ時ニ遡リテ新受託會社

ニ移轉ス但シ前受託會社ノ契約違反又ハ不法  
行爲ニ因リテ生シタル責任ハ此ノ限ニ在ラス  
第二百四條 前受託會社ノ不法處分ニ因リ質物ノ  
占有ヲ得タル者カ惡意ナリシトキハ新受託會  
社カ其ノ者ノ爲ニ占有ヲ奪ハレタルモノト看  
做ス

第二百五條 前受託會社ノ取締役、之ヲ代表スル  
社員、清算人又ハ破産管財人ハ遲滞ナク其ノ  
委託會社又ハ社債權者ノ爲ニ保管スル物及信  
託事務ニ關スル書類ヲ新受託會社ニ移付シ其  
ノ他信託事務ヲ新受託會社ニ引繼ク爲必要ナ  
ル一切ノ行爲ヲ爲スヘシ  
前項ニ掲ケタル引繼ヲ完了シタルトキハ各會  
社ハ共同シテ書面ヲ以テ之ヲ主務官廳ニ届出

ツヘシ

前項ノ届書ニハ移付シタル物ノ目錄ヲ添附ス  
ヘシ

第二百六條 承繼ニ關スル事務ハ主務官廳ノ監督  
ニ屬ス

第十六條第二項ノ規定ハ前項ノ監督ニ之ヲ準  
用ス

第二百七條 受託會社カ信託事務ヲ終了シタルト  
キハ總計算書ヲ作成シテ之ヲ公告スヘシ

第九章 罰則

第二百八條 第五條ノ規定ニ違反シテ擔保附社債  
ニ關スル信託事務ヲ營ム者ハ十圓以上千圓以  
下ノ過料ニ處ス

第二百九條 左ノ場合ニ於テハ會社ノ業務ヲ執行

擔保附社債信託法

スル社員、取締役、清算人、破産管財人、第  
八十九條ノ特別代理人又ハ外國會社ノ代表者  
ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一 第六條ノ規定ニ違反シタルトキ

二 第八條ノ規定ニ違反シタルトキ

三 本法ニ依ル主務官廳ノ命令ニ違反シタル  
トキ

四 本法ニ依ル主務官廳ノ検査ヲ妨ケタルト  
キ

五 第十七條第一項又ハ第九十七條第二項ノ  
規定ニ違反シタルトキ

六 本法ニ依リ債券ニ記載スヘキ事項ヲ記載  
セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

七 委託會社ニ於テ債券ヲ發行シタル場合ニ

三四九

擔保附社債信託法

於テ第三十六條ニ定メタル手續ヲ履行セスシテ之ヲ交付シタルトキ

八 第七十條第二項ニ依ル擔保權ノ保存又ハ實行ヲ怠リタルトキ

九 第八十八條第一項又ハ同條第三項ノ規定ニ違反シタルトキ

十 第九十五條第一項ニ依ル検査ヲ妨ケタルトキ

十一 第一百五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ

十二 社債權者集會ノ決議ニ依ルヘキ場合ニ於テ之ニ依ラス又ハ之ニ違反シタルトキ

十三 社債權者集會又ハ其ノ代表者ニ對シテ

理由ナクシテ閱覽セシメサルトキ

四 本法ニ依リ備置クヘキ書類ヲ備置カス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

第一百一十條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ本章ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

附則

第一百十二條 本法ニ依リ署名スヘキ場合ニ於テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得

第一百十三條 擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム合名會社及合資會社ノ設立登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ非訟事件手續法第一百七十九條第二項ニ掲ケタル書面ノ外主務官廳ノ擔保附社債信託法

不實ノ報告ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

第一百十條 左ノ場合ニ於テハ會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、清算人、破産管財人、第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者第六十四條ノ代表者、第八十九條ノ特別代理人又ハ外國會社ノ代表者ヲ五百圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ定メタル届出、公告若ハ通知ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若ハ通知ヲ爲シタルトキ

二 本法ニ依リ交付スヘキ書類ヲ交付セス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

三 本法ニ依リ閱覽ヲ許スヘキ書類ヲ正當ノ

免許書又ハ其ノ認證アル謄本ヲ添附スヘシ既設ノ會社カ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム免許ヲ受ケタルニ因リ其ノ登記ヲ申請スルトキ亦前項ニ同シ

第一百十四條 信託會社ノ登記スヘキ事項ニシテ主務官廳ノ免許ヲ要スルモノニ付テハ免許書ノ到達ノ日ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第一百十五條 主務官廳カ第十一條又ハ第十二條ノ規定ニ依リ事業ノ停止ヲ命シ又ハ免許ヲ取消シタルトキハ登記所ハ主務官廳ノ囑託ニ因リテ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第一百十六條 本法ニ依ル社債ノ登記ノ申請書ニハ非訟事件手續法第九十一條ニ掲ケタル書面ノ外信託證書ヲ添附スヘシ

擔保附社債信託法施行期日ノ件 鐵道抵當法施行規則

三五二

第十七條 本法ニ依ル社債ノ登記事項ニ變更ヲ生シタルトキハ委託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員ハ遲滯ナク其ノ登記ヲ申請スヘシ

前項ノ登記ノ申請書ニハ其ノ變更ヲ證スル書類ヲ添附スヘシ

第十八條 信託契約ニ依ル擔保權設定ノ登記

ニ付テハ受託會社ヲ登記權利者トス

第十九條 信託契約ニ依ル擔保權設定ノ登記

ヲ申請スル場合ニ於テハ不動産登記法第一百

六條又ハ第十七條ニ依ル債權額ノ記載ハ社

債ノ總額ヲ表示スルヲ以テ足ル

第二十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○擔保附社債信託法施行期日ノ件

(明治三十八年六月二十六日)

勅令第一八五號

擔保附社債信託法ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○鐵道抵當法施行規則

(明治三十八年五月廿二日)

遞信省令第三十七號

改正(四十三年十二月)

閣令第一七號

第一條 鐵道抵當權設定ノ認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ會社ノ取締役之ニ署名捺印シテ差出スヘシ

一 抵當負債ヲ要スル事由

二 舊債償還ノ爲ニスル場合ニ於テハ其ノ整理ニ要スル期間

第二條 鐵道抵當權設定ノ認可申請書ニハ抵當

證書又ハ信託證書及鐵道財團目錄ノ外向ホ左

ノ書類ヲ添附ス

一 抵當證書又ハ信託證書ノ謄本

二 株主總會ノ議事及決議ノ要領書

三 最終ノ貸借對照表

四 元利支拂ノ豫算

五 株金總額及拂込額ノ登記抄本

六 私設鐵道法ニ依リ認可ヲ受ケテ爲シタル

鐵道及之ニ屬スル物件抵當ノ負債アルト

キハ其ノ總額及償還ヲ了ヘサル金額ノ登

記抄本

鐵道抵當法施行規則

七 前ニ私設鐵道法ニ依リ認可ヲ受ケ社債ヲ

募集シタルトキハ其ノ總額及償還ヲ了ヘ

サル金額ノ登記抄本前項ニ依リ差出シタ

ル抵當證書又ハ信託證書ハ抵當權設定ノ

認可アリタルトキハ認可ノ證印ヲ附シテ

之ヲ添附ス

第三條 鐵道抵當權設定ノ認可申請前會社ノ申

請ニ因リ豫メ鐵道財團ノ公告ヲ爲シタル場合

ニ於テ鐵道抵當法第八條ニ依リ鐵道財團目錄

ヲ差出シタルモノニ付テハ鐵道抵當權設定ノ

認可申請書ニ鐵道財團目錄ヲ添附スルトキ

要セス

第四條 第二以下ノ順位ノ抵當權設定ノ認可申

請書ニハ抵當權者ニ對スル催告ノ始末書及催

三五二

鐵道抵當法施行規則

三五四

告アリタルコトヲ證スル書面又ハ抵當權者ノ同意アリタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ  
 前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
 第五條 第一條第一號及第二號、第二條第一項第四號ニ記載セル事項ヲ變更セントスルトキハ認可ヲ受クルコトヲ要ス  
 前項ノ場合ニ於テ變更ノ事項カ株主總會ノ決議ヲ要スルモノニ係ルトキハ認可申請書ニ株主總會ノ議事及決議ノ要領書ヲ添附スルコトヲ要ス  
 第六條 抵當證書又ハ信託證書ニ記載シタル事項變更ノ認可申請書ニハ契約證書及其ノ謄本ヲ添附シ會社ノ取締役之ニ署名捺印スヘシ  
 第二條第二項及前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

抵當證書又ハ信託證書ニ記載シタル事項ノ變更ニシテ契約ニ基カサル場合ニ於テハ變更ノ事由並年月日ヲ記載シ利害關係人署名捺印シテ届出ツヘシ  
 第七條 鐵道抵當權設定ノ認可申請前ニ於ケル鐵道財團公告ノ申請書ニハ抵當負債ヲ要スル事由及其ノ總額ヲ記載シ會社ノ取締役之ニ署名捺印シテ差出スヘシ  
 前項ノ申請書ニハ鐵道財團目錄ノ外第二條第一項第二號及第四號ニ掲グル書類ヲ添附スヘシ  
 第八條 鐵道抵當法第二十六條ノ場合ニ於テ其ノ債務ニ付据置年限經過後ニ於ケル辨濟期ニ關シ特約アルトキハ抵當權設定後二十箇年ニ

滿ツル迄其ノ特約ニ依ルモノトス

第九條 鐵道抵當原簿ハ記別第一號樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十條 鐵道財團目錄ハ別記第二號樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十一條 鐵道財團目錄ニハ其ノ枚數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ會社ノ取締役之ニ署名捺印シ且毎葉ノ綴目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條 鐵道財團目錄ニ記載シタル事項ノ變更又ハ消滅ノ届書ニハ變更又ハ消滅ノ事由ヲ記載シ會社ノ取締役之ニ署名捺印スヘシ  
 前項ノ届書ハ鐵道財團目錄ノ樣式ニ依リ掲グヘキ事項ヲ記載シ目錄ノ部門及舊事項ヲ附記スヘシ

鐵道抵當法施行規則

三五五

保線ニ要スル材料ニ付テハ決算期ニ於テ之カ調査ヲ爲シ變更又ハ消滅ノ届出ヲ爲スヘシ  
 第十三條 鐵道抵當權設定ノ登錄申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ債權者及會社ノ取締役之ニ署名捺印スヘシ  
 一 鐵道財團ニ屬スル線路ノ表示  
 二 抵當權者、債務者及鐵道財團ノ所有者ノ名稱及住所  
 三 抵當權ノ順位  
 四 債權額及償還ノ方法並期限  
 五 利率及利息支拂ノ方法並期限  
 六 免許ニ附シタル條件  
 七 抵當權ヲ設定シタルコト  
 八 抵當權設定認可ノ年月日



鐵道抵當法施行規則

九 登録税額

第十四條 登録ハ申請書受附ノ順序ニ依リテ之ヲ爲ス

第十五條 登録申請書其ノ書面ノ受領證ニハ受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シ之ヲ申請者ニ交付スヘシ

前項ノ受領證ハ登録濟書ヲ交付スルトキハ之ヲ還納セシムヘシ

第十六條 第十三條ノ規定ハ登録シタル事項ノ變更又ハ消滅ノ登録申請ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ登録申請書ハ正本一通及副本一通ヲ差出スヘシ

第十七條 鐵道抵當原簿ニ登録ヲ完了シタルトキハ抵當權設定ノ場合ニ在リテハ抵當證書又

三五六

ハ信託證書ニ、登録事項ノ變更又ハ消滅ノ場合ニ在リテハ申請書ノ副本ニ登録番號、申請書受附ノ年月日、受附番號及登録濟ノ旨ヲ記載シ官印ヲ押捺シテ之ヲ申請者ニ還付スヘシ

第十八條 登録ヲ完了シタル後其ノ登録ニ付錯誤又ハ遺漏ノ訂正ヲ申請スル場合ニ於テ登録上利害ノ關係ヲ有スルモノアルトキハ申請書ニ署名捺印シ又ハ其ノ承諾書若ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ書類ヲ添附スヘシ

第十九條 鐵道抵當原簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付又ハ鐵道抵當原簿若ハ鐵道財團目錄ノ閲覧ヲ請求スル者ハ申請書ニ署名捺印シテ之ヲ差出スヘシ但シ抄本ヲ請求スル場合ニ於テハ抄本ノ交付ヲ請求スル部分ヲ記載スヘシ

第二十條 鐵道抵當原簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者ハ其ノ用紙一枚ニ付手数料金

十錢ヲ納ムヘシ但シ一枚ニ滿タサルモノト雖モ仍ホ之ヲ一枚ニ計算ス

手数料ハ收入印紙ヲ以テ申請書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

第二十一條 鐵道抵當法第二十條ニ依ル裁定申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ正副二通ヲ差出スヘシ

- 一 申請者及對手人ノ名稱、住所
- 二 裁定事件ノ表示
- 三 申請ノ要旨及理由

第二十二條 前條ノ申請書ヲ受取りタルトキハ其ノ副本ヲ對手人ニ送付シ相當ノ期限ヲ指定

鐵道抵當法施行規則

シ答辯書ヲ差出サシムヘシ但シ裁定申請力其ノ理由ナシト認ムルトキハ此限ニ在ラズ必要ト認ムルトキハ期限ヲ附シテ更ニ申請者對手人ヨリ辯駁書、答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得

第二十三條 答辯書又ハ辯駁書ニハ左ノ事項ヲ記載シ二通ヲ差出スヘシ

- 一 申請者及對手人ノ名稱、住所
- 二 裁定事件ノ表示
- 三 答辯又ハ辯駁ノ要旨及理由

第二十四條 必要ト認ムルトキ又ハ當事者一方ノ申立アルトキハ口頭審理ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 裁定申請者若ハ對手人期間内ニ辯駁書若ハ辯駁書ヲ差出ササルトキ又ハ指定ノ

鐵道抵當法施行規則

三五八

審理期日ニ出頭セサルトキハ相手方ノ意見ヲ聽キ裁定ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 第二十一條乃至第二十五條ノ規定ハ管理人ノ計算報告書ニ對スル異議ノ裁定ニ之ヲ準用ス

第二十七條 執行力アル正本付與ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請者署名捺印シ抵當證書又ハ信託證書及之ニ記載ノ事項ヲ變更シタル契約書ヲ添付シテ之ヲ差出スヘシ

一 債務者及鐵道財團所有者ノ名稱及住所

二 強制執行ヲ要スル事由

第二十八條 管理人推薦ノ申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人之ニ署名捺印スヘシ

一 管理人タルヘキ者ノ名稱住所

二 管理人タルニ適當ト認メタル事由及經歷

第二十九條 競落人ニ於テ會社設立ノ行爲ニ著手シタルトキハ一週間内ニ假定款ヲ添附シ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

附則

第三十條 本規則ハ鐵道抵當法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記)

(第一號樣式)

鐵道抵當原簿

逓信省鐵道局

登録番号	表題	備考
第一號	財團所屬線路	
第二號	免許條件	
第三號	鐵道財團所有者ノ名稱及住所	
第四號	債務者ノ名稱及住所	

鐵道抵當法施行規則

三五九



鐵道抵當法施行規則

三六一

區間	線			軌道		軌間	軌條重量
	單線	複線	三線以上	本側	總長		
、、、、間	一〇・〇〇	九・一〇	七・〇〇	二六・一〇	五・六〇	三・六	七〇
、、、、間	七・〇〇	四・〇〇	二・六六	一三・六六	一五・〇〇	二・六	三〇

鐵道用地

區間 線路 停車場 工場 倉 宅 何々

、、、、間	一三、七〇七、三、一五	三、六〇〇、五、二〇	一五〇、〇〇〇	四、五〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇

備考 鐵道用地ハ使用地ノ種類ニ應シ總反別又ハ總坪數ヲ以テ之ヲ記載スヘシ  
鐵道抵當法施行規則

三六三